

廃校活用宿泊施設における

物品・設備の活用に関する研究

- 残存する学校物品・設備の分析を通じて -

江口 伸之

環境計画学科環境社会計画専攻において学士(環境科学)の学位授与の資格の
一部として滋賀県立大学環境科学部に提出した研究報告書

2007 年度

承認

指導教員

廃校活用宿泊施設における物品・設備の活用に関する研究

- 残存する学校物品・設備の分析を通じて -

近藤研究室 0412003 江口伸之

1. 研究の背景・目的・意義

近年の過疎化・少子高齢化の影響によって、全国各地で小中高等学校の統廃合が進み、廃校舎となった建物の多くが他の用途の施設として活用されている¹⁾。その中で当時の学校の面影を残している廃校を活用した宿泊施設(以降「廃校宿舎」と呼ぶ)が注目を浴びている²⁾。

また、廃校宿舎として開業する際に行われる改装工事とともに、学校の物品や設備は宿泊施設運営にそぐわない場合、廃棄処分されている。

そこで本研究では、全国の廃校宿舎を対象に、廃校宿舎に残存している、学校で用いられていた物品・設備(以降「学校物品・設備」と呼ぶ)の活用について研究を行う。

日本全国において、廃校を活用して宿泊施設を運営している施設を対象とし、廃校宿舎における宿泊システムや各種機能について調査し、実態を把握する。また、廃校宿舎に残存する学校物品・設備の状況・活用例を調査し、それらとコンバージョン(建物の用途を変更すること)の状況や物品・設備の活用方法などとの相関を考察する。

最終的には、新たに廃校宿舎を開業するにあたって、学校物品・設備活用の可能性を提案することを目的とする。

2. 研究方法

2-1 廃校宿舎全体調査

廃校を活用した宿泊施設・研修施設を紹介するガイドブックや雑誌記事などの文献と、全国の廃校宿舎を紹介しているホームページの調査から、76の施設が廃校宿舎と認められたため、調査対象とした。これらの施設において宿泊システムや運営主体などを調査し、リストとして整理する。

2-2 学校物品・設備調査

上記の76の施設から、「学校物品が残されていること」「冬季休業のないこと」「写真を撮っても差し支えないこと」の条件で廃校宿舎の対象を絞り、以下の調査を行う。

- ・現地にて外観・内装及び物品の写真撮影を行う。
- ・経営者に廃校宿舎設立の経緯や廃校時の物品の行方等、ヒアリングを行う。
- ・廃校宿舎の図面や設立に係る資料を収集する。

なお、本研究では学校物品・設備を対象にしており、宿泊施設となってから導入されたベッドや布団等の物品・設備に関しては調査を行わない。

2-2-1 物品・設備調査対象施設

76の施設の中で条件に合致した表1の17の施設を物品・設備調査の対象とする。

表1 物品・設備調査対象施設

地域	都道府県	施設名	調査日
東北	岩手県	希望の丘	2007.8.20
	宮城県	さんさん館	2007.8.19
	山形県	小国ふる里ふれあい村 楯山荘	2007.8.17
	福島県	沼沢湖山荘	2007.8.18
甲信越	新潟県	交流の館八幡	2007.8.17
北陸	富山県	スターフォレスト利賀	2007.8.12
	石川県	ふるさと体験村 四季の丘	2007.9.3
東海	三重県	鈴鹿峠自然の家	2007.8.7
		海ぼうず	2007.8.8
近畿	京都府	筒川文化センター	2007.7.20
		里山交流館	2007.9.10
四国	徳島県	ふれあいの里 さかもと	2007.8.24
	高知県	山村自然楽校しもなの郷	2007.8.24
中国	島根県	四万十楽舎	2007.8.25
		杣の里よこみち	2007.8.3
		いまいち山荘	2007.8.30
九州	熊本県	なみの高原やすらぎ交流館	2007.8.31

この17の廃校宿舎に追加調査として、分析に必要な次の項目を付け加える。

- ・体験学習メニュー：

廃校宿舎周辺の環境を生かした自然体験や、地元

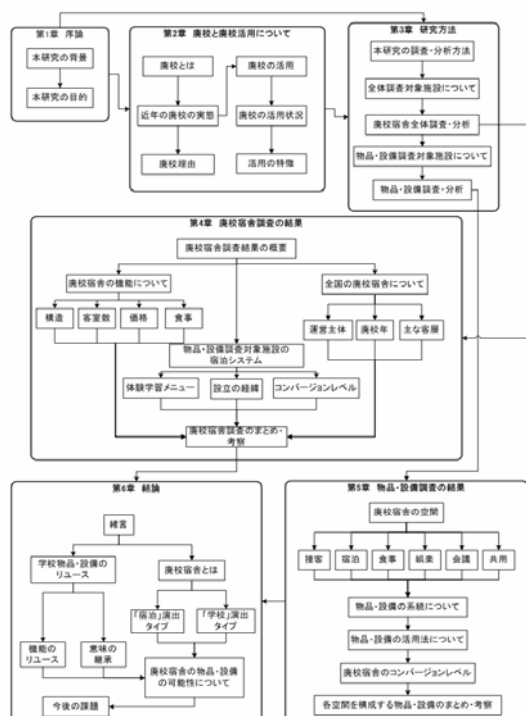


図1 本研究の構成

の伝統工芸などを体験できる廃校宿舍のシステムの一つである。

- 設立の経緯：

廃校になってから宿泊施設として再スタートをするまでの過程を、大まかに把握する。ここでは、なぜ廃校を宿泊施設に活用することになったのかを重点的に調査する。

- コンバージョンレベル：

図2のように学校を宿泊施設に改装する工事校舎内を改装した場所の数を集計し、その数値が大きい施設から、高・中・低の3段階に分類したものを言う。

学校を宿泊施設へ転用するには、建築基準法や消防法などの法規定が変わるため、廃校宿舍は、廃校となった建物を改装する必要がある³⁾。これらの改装の度合いを、物品・設備の分析における軸の一つとして扱う。

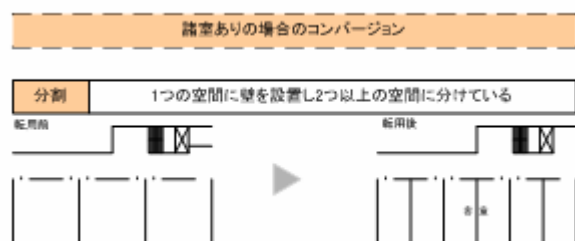


図2 コンバージョンの一例

2-3 分析方法

2-3-1 廃校宿舍全体分析

廃校宿舍全体調査における分析方法としては、ホームページ調査 文献調査をもとにデータを収集し、そこから廃校宿舍のプロファイル（運営主体、廃校になった年、主な客層）、廃校宿舍の機能、廃校宿舍のコンバージョンについて分析し、廃校宿舍の全体像や特徴を把握する。

2-3-2 学校物品・設備分析

学校物品・設備調査における分析方法としては、学校物品・設備調査から得たデータを基に、以下の分類作業を行う。

- 物品・設備を系統（校具・教具）分類

学習用の物品・設備が、宿泊施設ではどのような活用がなされているのかを考察するため、それらが学習に用いられていた物かどうかを分類する。

- 物品・設備を活用法別に分類

調査した物品・設備が具体的にどのように活用されているかを知るために、物品・設備それぞれの活用法を調査し、分類を行う。

- 廃校宿舍をコンバージョンレベルによって分類

改装の度合いと物品・設備の数、品目の関係を考察するため、廃校宿舍のコンバージョンレベルを設定する。

3. 廃校宿舍全体調査の結果

廃校宿舍全体調査の結果を以下に示す。

- 背景：現在運営されている廃校宿舍の多くは、少子高齢化が進みだした 1980 年代後半から 2000 年前半に廃校になったものである。
- 構造：廃校宿舍は現在では珍しい木造校舎の「暖かさ」を魅力として挙げており、利用した客へ「安らぎ」や「懐かしさ」という感情を起こさせる。
- 客室：統計的には、多人数でも対応でき、宿泊以外の使い方の出来る和室が洋室よりも多く設けられている。また、和室・洋室の両方を有する施設も多く、多様な客のニーズに応えられるように出来ている。
- 食事：地元産の食材や郷土料理など、その土地でしか味わえない献立を中心に考えられている。これにより運営者は地元へ利益をもたらし、客は地元への理解・関心が生まれる。
- 体験学習：地域住民が都市住民と交流できる数少ない場として重宝されている。また、この活動により、地元の雇用促進にもつながる。
- コンバージョン：多くの廃校宿舍は、学校の雰囲気を残した改装を行っている。また、コンバージョンレベルの違いは廃校宿舍の特徴を大きく左右するものである。

4. 物品・設備調査の結果

廃校宿舍の物品・設備と、客室や廊下などの「空間」との関係性を考察するために、生活財生態学⁴⁾の家庭機能を参考に廃校宿舍が持つ機能を表2の6つに整理した。これら6つの機能は調査対象の17施設すべてに備わっているものである。

表2 廃校宿舍における6つの空間

空間の名称	説明	部屋・場所
「接客」	客を招き入れるところ。	玄関
「宿泊」	客が寝泊りするところ。	客室
「食事」	客が食事をするところ。	食堂、調理室
「会議」	会議や研修を行うところ。	会議室、談話室
「娯楽」	客が娯楽を楽しむところ。	体育館、校庭
「共用」	各部屋を行き来できるところ。	廊下

4-1 接客

玄関は、施設の第一印象を決める、言わば廃校宿

舎の顔である．以下に玄関景観を構成する物品・設備について考察を行う．

- ・「靴箱」は玄関に必要不可欠であり，多くの廃校宿舎で活用されている．
- ・客のニーズに応えるため，コンバージョンの度合いが高くなっている廃校宿舎では，活用される物品・設備の数が少なくなる傾向がある．
- ・玄関には必要最低限の物品・設備と，装飾目的の物品で構成されている．

4-2 宿泊

学校時代には「寝泊りする部屋」は存在しなかったため，学校から宿泊施設へとコンバージョンがなされた変化が顕著に現れる場所と言える．以下に客室景観を構成する物品・設備について考察を行う．

- ・客室には，教具を中心とした，改装前の教室を思わせるような物品・設備が多く存在する．
- ・コンバージョンレベルの高い施設は物品・設備を意図的に選び取り，低い施設は選り好みせずに様々な品目の物品・設備を活用している．

4-3 食事

食堂・調理室は，廃校宿舎周辺の地域の食文化を客に紹介できる場所である．以下に食堂・調理室景観を構成する物品・設備について考察を行う．

- ・客室と同様に黒板類，児童用椅子・机が多い．
- ・家族交流の場を目的とした教具が設置されている．
- ・自炊形式は少人数，レストラン形式は大人数向けになっており，それに合わせた物品・設備の活用が行われている．

食堂・調理室の物品・設備黒板類や児童用机・椅子等の物品・設備から，食堂・調理室は客室のような「世代間の交流の場」と捉えられることがわかる．

4-4 娯楽

4-4-1 体育館

体育館は多くの廃校宿舎で当時のまま残されており，主にクラブ合宿や宿泊客のレクリエーション目的として使われている．以下に体育館景観を構成する物品・設備について考察を行う．

- ・体育館は娯楽と収納の二つの役割がある．
- ・改装が行われていないため，コンバージョンレベルによる差はない．

4-4-2 校庭

校庭は客の種類によって多目的に活用されている．校庭は体育館同様，改装の影響を受けないが，体験学習用に設備を新たに設ける場合もある．以下に校庭景観を構成する物品・設備について考察を行う．

- ・遊具類と像・オブジェ類が多くを占めている．
- ・改装の影響を受けないため，遊具類や像・オブジェ類のような教具が多く残された．

4-5 会議

宿泊客，特に合宿や研修旅行に対応するために設けられたのが会議室である．以下に会議室景観を構成する物品・設備について考察を行う．

- ・コンバージョンレベルが高い施設の会議室に物品・設備が集中しており，意図的に会議室でも応用でき，訪れた客に「学校」の印象を与える物品を選んで活用している．
- ・学校時代の物品を装飾することによって，会議室を施設の一部屋と考えず，学校の思い出の部屋として捉えている．

4-6 共用

廊下に置かれる物品・設備は施設によって異なるが，廊下の構造自体は改装しないため学校時代の面影が色濃く残っている．以下に廊下景観を構成する物品・設備について考察を行う．

- ・廊下景観を構成する主な物品・設備は「手洗い場」「卒業生の作品」「ロッカー類」である．
- ・コンバージョンレベルが低い施設は「手洗い場」を残そうとする動きがある．
- ・コンバージョンレベルが高い施設は廊下に「卒業生の作品」を飾ることによって，学校の歴史を風化させないようにしている．

5．考察と結論

5-1 廃校宿舎全体の特徴

廃校宿舎の構成要素と 残存する物品・設備から，廃校宿舎の特徴を以下のように「『学校』を演出する宿泊施設タイプ」「『宿泊』を演出する学校タイプ」に分けることが出来る．

5-2 「学校」を演出する宿泊施設タイプ

「学校」を演出する宿泊施設タイプの廃校宿舎を図3に示す．

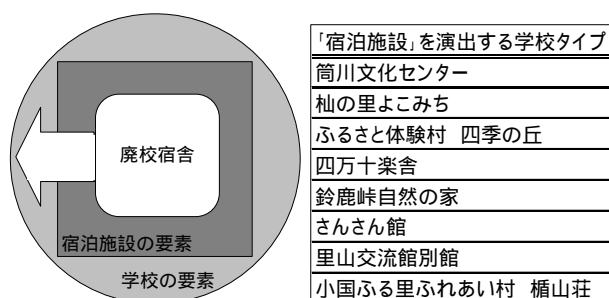


図3 「学校」を演出する宿泊施設タイプの廃校宿舎

このタイプは宿泊施設の要素をベースとして「学校」を演出する要素を含んでいる。コンバージョンによって失われた「学校らしさ」を物品・設備や給食メニューなどで補っており「学校をイメージした宿」がコンセプトとした宿泊施設と言える。

5-3 「宿泊」を演出する学校タイプ

「宿泊」を演出する学校タイプの廃校宿舎を図に表すと、図4のようになる。

廃校宿舎の「学校」の要素をベースとした上で、宿泊施設の要素を含んでおり「泊まれる学校」というコンセプトを意識した廃校宿舎と言える。

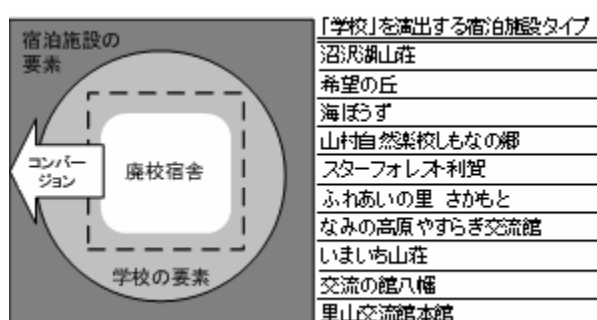


図4 「宿泊」を演出する学校タイプの廃校宿舎

5-4 物品・設備のリユース

廃校宿舎における物品・設備調査によって、学校物品・設備をリユースする場合、大きく分けて次の二つの方法があることが分かった。

- 物品・設備のオーセンティシティ（Authenticity）を重視して、物品・設備の本来の活用をする。（機能のリユース）
- 本来の使い方とは違う、廃校宿舎独自の活用をする。（意味の継承）

意味の継承とは、下図における3つの要素によって、物品・設備が新しい意味を持つことである。

改装前の部屋・場所を何に改装するか
改装の際の物品・設備を残す、移動する、廃棄するなど、どのように処理するか
今後改装した部屋・場所をどのような人が利用するのか



図5 物品・設備の意味の継承におけるプロセス例

このリユースを行うことの利点は、一見宿泊施設では活用が難しい学校物品・設備でも、設置場所や用途を明確にすることによって廃校宿舎の魅力の一つとして売り出すことが出来、通常の宿泊施設と差別化を図ることが可能になることである。

5-5 廃校宿舎における物品・設備のリユース

廃校宿舎の物品・設備分析から、廃校宿舎はリユースの知恵が最大限発揮出来る場であるということが言える。学校物品・設備は廃校宿舎において機能のリユース、意味の継承の二つを実現出来る。

これらのリユースの方法を基に、廃校宿舎開業までにおける物品・設備の流れを、宿泊施設へとコンバージョンが行われる廃校における物品・設備のリユースの指針として提案する(図6)。

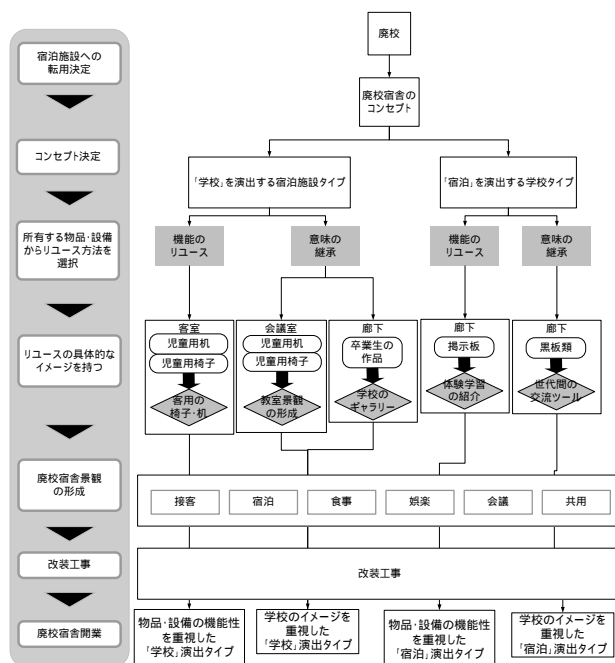


図6 物品・設備のリユースの流れ

6. 参考文献

- 1) 文部科学省施設助成課:廃校施設の実態及び有効活用状況等 調査研究報告書,1-26(2003)
- 2) 全国廃校（学舎）活用フォーラムみやぎ・志津川大会 実行委員会:平成14年度全国廃校（学舎）活用フォーラムみやぎ・志津川大会資料,主催同発行,505-508(2002)
- 3) 河野学,吉村英祐,横田隆司,飯田匡:建築関連法規が廃校後の公立小学校の用途変更に及ぼす影響について:京都市・大阪市・神戸市の場合,日本建築学会計画系論文集,(609),47-52(2006)
- 4) 商品科学研究所:生活財生態学 大都市・地方都市・農村・漁村「豊かな生活」へのリストラ,116-117,同発行(1993)

Research on use of thing and equipment in accommodations where closed school was used

—It depends on the remaining thing of the school and the analysis of equipment—

Eguchi Nobuyuki

1. Background, purpose, and meaning of research

Many of schools closed by depopulation and declining birthrate and a growing proportion of elderly people have been reborn as facilities of other usages. The lodging of closed school where the look of the school remains in that is remarkable. This research is a research of the method of using the thing and the equipment used at the school for the lodging of closed school in the whole country.

2. Research method

This research was investigated by two methods. First of all, the author surveyed the homepage and the document, and basic information on the kind and the number etc. of guest rooms of those who managed it at the lodging of closed school in the whole country and main guest was obtained.

Next, the author proceeded to the locale, and information on the number and the kind of the thing and the equipment of the school was obtained based on the taken photograph.

3. Consideration and conclusion

The feature of lodgings of closed school can be divided from the thing and the equipment of the schools in basic information and lodgings of closed school in lodgings of closed school into "Lodgings type that produces 'School'" and "School type that produces 'Stay'".

It has been understood that the following two methods exist roughly separately when the thing and the equipment of the school are done in reuse by the thing and the equipment investigation in lodgings of closed school.

- It uses it originally of the thing and equipment valuing Authenticity of the thing and equipment. (Reuse of function)
- The thing and equipment are used by the method of original lodgings of closed school. (Succession of meaning)

It can be said that lodgings of closed school are places where wisdom of reuse can be made use of in the maximum from these.

目 次

第一章	序論	1
1 - 1	研究の背景	1
1 - 2	本研究の目的と意義	1
1 - 2 - 1	本研究の目的	1
1 - 2 - 2	本研究の意義	1
1 - 3	論文の構成	2
第二章	廃校と廃校活用について	4
2 - 1	廃校の現状	4
2 - 1 - 1	廃校とは	4
2 - 1 - 2	近年の廃校の実態	4
2 - 1 - 3	廃校理由	5
2 - 2	廃校の活用	6
2 - 2 - 1	廃校活用状況	6
2 - 2 - 2	廃校活用の特徴	7
第三章	研究方法	10
3 - 1	本研究の調査方法	10
3 - 1 - 1	廃校宿舎全体調査	10
(1)	全国廃校宿舎リスト作成	10
3 - 1 - 2	学校物品・設備調査	11
3 - 1 - 3	物品・設備調査対象施設	11
3 - 2	分析方法	13
3 - 2 - 1	廃校宿舎全体分析	13
3 - 2 - 2	学校物品・設備分析	14
第四章	廃校宿舎調査の結果	17
4 - 1	廃校宿舎調査結果の概要	17
4 - 1 - 1	全国の廃校宿舎について	17
(1)	運営主体	17
(2)	廃校年	18
(3)	主な客層	19
4 - 1 - 2	廃校宿舎の機能	20
(1)	構造	20
(2)	客室数	21
(3)	価格	22

(4)	食事	23
4 - 2	物品・設備調査対象施設の宿泊システム	24
4 - 2 - 1	体験学習メニュー	24
4 - 2 - 2	設立の経緯	28
4 - 2 - 3	コンバージョンレベル	30
(1)	コンバージョンの方法	30
(2)	コンバージョンレベルの設定	31
4 - 3	廃校宿舎調査のまとめ・考察	33
第五章	物品・設備調査の結果	38
5 - 1	調査結果概要	38
5 - 1 - 1	物品・設備総数	38
5 - 1 - 2	物品・設備品目	39
5 - 1 - 3	系統(校具・教具)について	47
5 - 2	廃校宿舎の空間における物品・設備の分析	49
5 - 2 - 1	物品・設備の活用法一覧について	49
(1)	物品・設備の活用法のタイプ分け「宿泊」	57
(2)	物品・設備の活用法のタイプ分け「運営」	57
(3)	物品・設備の活用法のタイプ分け「鑑賞」	59
5 - 2 - 2	廃校宿舎が重視するサービスについて	59
5 - 3	廃校宿舎景観の現状	60
5 - 3 - 1	空間の機能(宿泊・接客・会議・娯楽・共用・食事)について	60
5 - 4	「接客」	61
5 - 4 - 1	玄関景観	61
5 - 4 - 2	玄関における物品・設備の分析	64
(1)	玄関における物品・設備	64
(2)	玄関における物品・設備の系統の分析	64
(3)	玄関における物品・設備のコンバージョンレベルによる比較	65
(4)	玄関における物品・設備の活用法の分析	66
(5)	玄関の物品・設備と廃校宿舎の重視するサービスの関係	67
5 - 4 - 3	玄関景観を構成する物品・設備のまとめ	68
5 - 5	「宿泊」	68
5 - 5 - 1	客室景観	68
5 - 5 - 2	客室における物品・設備の分析	70
(1)	客室における物品・設備	70
(2)	客室における物品・設備の系統の分析	70
(3)	客室における物品・設備のコンバージョンレベルによる比較	71
(4)	客室様式の違いと物品・設備	72

(5)	客室の物品・設備と廃校宿舍の重視するサービスの関係	...	73
5 - 5 - 3	客室景観を構成する物品・設備のまとめ		74
5 - 6	「食事」		74
5 - 6 - 1	食堂・調理室景観		74
5 - 6 - 2	食堂・調理室の物品・設備の分析		76
(1)	食堂・調理室の物品・設備		76
(2)	食堂・調理室における物品・設備の系統の分析		77
(3)	食堂・調理室における物品・設備のコンバージョンレベルによる比較		78
(4)	食堂・調理室における物品・設備の活用法		79
(5)	食事形式の違いと物品・設備		80
(6)	食堂・調理室の物品・設備と廃校宿舍の重視するサービスの関係		81
5 - 6 - 3	食堂・調理室景観を構成する物品・設備のまとめ	...	81
5 - 7	「娯楽」		82
5 - 7 - 1	体育館景観		82
5 - 7 - 2	体育館における物品・設備の分析		85
(1)	体育館における物品・設備		85
(2)	体育館における物品・設備の系統の分析		85
(3)	体育館における物品・設備のコンバージョンレベルによる比較		86
(4)	体育館における物品・設備の活用法の分析		87
(5)	体育館の物品・設備と廃校宿舍の重視するサービスの関係		88
5 - 7 - 3	体育館景観を構成する物品・設備のまとめ		89
5 - 7 - 4	校庭景観		89
5 - 7 - 5	校庭における物品・設備の分析		90
(1)	校庭における物品・設備		90
(2)	校庭における物品・設備の系統の分析		91
(3)	校庭における物品・設備のコンバージョンレベルによる比較		92
(4)	校庭における物品・設備の活用法の分析		93
(5)	校庭の物品・設備と廃校宿舍の重視するサービスの関係	...	94
5 - 7 - 6	校庭景観を構成する物品・設備のまとめ		95
5 - 8	「会議」		95
5 - 8 - 1	会議室景観		95
5 - 8 - 2	会議室における物品・設備の分析		97
(1)	会議室における物品・設備		97
(2)	会議室における物品・設備の系統の分析		98
(3)	会議室における物品・設備のコンバージョンレベルによる比較		99

(4)	会議室における物品・設備の活用法の分析	100
(5)	会議室の物品・設備と廃校宿舍の重視するサービスの関係	101
5 - 8 - 3	会議室景観を構成する物品・設備のまとめ	102
5 - 9	「共用」	103
5 - 9 - 1	廊下景観	103
5 - 9 - 2	廊下における物品・設備の分析	106
(1)	廊下における物品・設備	106
(2)	廊下における物品・設備の系統の分析	107
(3)	廊下における物品・設備のコンバージョンレベルによる比較	108
(4)	廊下における物品・設備の活用法の分析	109
(5)	廊下の物品・設備と廃校宿舍の重視するサービスの関係	110
5 - 9 - 3	廊下景観を構成する物品・設備のまとめ	112
第六章	結論	115
6 - 1	緒言	115
6 - 2	廃校宿舍とは	115
6 - 2 - 1	「学校」を演出する宿泊施設タイプ	115
6 - 2 - 2	「宿泊」を演出する学校タイプの廃校宿舍	116
6 - 3	物品・設備のリユース	117
6 - 3 - 1	物品・設備における機能のリユース	117
(1)	「学校」を演出する宿泊施設における機能のリユース	118
(2)	「宿泊」を演出する宿泊施設における機能のリユース	118
6 - 3 - 2	物品・設備における意味のリユース	119
(1)	意味のリユースとは	119
(2)	廃校宿舍における意味のリユース	120
(3)	「学校」を演出する宿泊施設タイプにおける意味のリユース	120
(4)	「宿泊」を演出する学校タイプにおける意味のリユース	121
6 - 4	廃校宿舍における物品・設備のリユース	121
6 - 4 - 1	物品・設備の機能性を重視した「学校」演出タイプ	122
6 - 4 - 2	学校のイメージを重視した「学校」演出タイプ	122
6 - 4 - 3	物品・設備の機能性を重視した「宿泊」演出タイプ	122
6 - 4 - 4	学校のイメージを重視した「宿泊」演出タイプ	123
6 - 4 - 5	廃校宿舍の戦略に合わせた物品・設備の活用	123
6 - 5	今後の課題	124
6 - 5 - 1	一般性の欠如	124
6 - 5 - 2	宿泊客の評価	124
6 - 5 - 3	新規の物品・設備について	124

6 - 5 - 4	物品・設備活用にかかるコストについて		124
-----------	--------------------	-------	-----

図 表 目 次

図 1-1	論文の全体構成	2
図 2-1	公立学校の年度別廃校数	4
図 2-2	廃校理由別廃校数の割合	6
図 2-3	廃校の活用校数(小中高別)	7
図 3-1	物品・設備の調査例(2007-8-17 小国ふる里ふれあい村楯山荘にて著者撮影)	11
図 3-2	物品・設備調査対象の廃校宿舍	12
図 3-3	コンバージョンの例	13
図 3-4	廃校宿舍全体調査における分析フロー	14
図 3-5	物品・設備調査における分析フロー	15
図 4-1	廃校宿舍の運営団体の種類	18
図 4-2	廃校宿舍の廃校年の分布	18
図 4-3	公立学校の年度別廃校数	19
図 4-4	主な客層	20
図 4-5	木造校舎をアピールしている雑誌記事(写真は『希望の丘』外観)	20
図 4-6	廃校年と構造	21
図 4-7	木造の廃校宿舍(左)(2007-8-3『杣の里よこみち』にて著者撮影)	21
図 4-8	非木造の廃校宿舍(右)(2007-8-24『ふれあいの里さかもと』にて著者撮影)	21
図 4-9	廃校宿舍における客室の和・洋室の割合	22
図 4-10	廃校宿舍の宿泊料金	22
図 4-11	廃校宿舍の食事内容	23
図 4-12	給食メニュー ⁴⁾ (左)(希望の丘HPより)	23
図 4-13	漁師料理 ⁵⁾ (右)(海ぼうずHPより)	23
図 4-14	そばつくりの様子	24
図 4-15	そばつくりの様子	24
図 4-16	川遊びの様子	25
図 4-17	「諸室あり」の場合の改装内容(左)	31
図 4-18	「共用あり」の場合の改装内容(右)	31
図 4-17	廃校宿舍の背景	33
図 4-18	廃校宿舍の構造	34
図 4-19	廃校宿舍における客室	34
図 4-20	廃校宿舍の食事	35
図 4-21	廃校宿舍の体験学習	35
図 4-22	廃校宿舍のコンバージョン	36
図 5-1	調査対象施設における学校時代の全物品・設備数	39
図 5-2	宿泊客が自由に使える客室の黒板大(左)(2007-8-19 楯山荘にて著者撮影)予め木工体験の案内が書かれた木工室の黒板大(右)(2007-8-25 四万十楽舎にて著者撮影)	49
図 5-3	3つのタイプに分けられる物品・設備の活用法	50

図 5-4	廃校宿舎における物品・設備の活用タイプ	56
図 5-5	宿泊タイプにおける物品・設備の活用法	57
図 5-6	運営タイプにおける物品・設備の活用法	58
図 5-7	鑑賞タイプの物品・設備活用法	59
図 5-8	いまいち山荘玄関(左)(2007-8-30)	61
図 5-9	さんさん館玄関(右)(2007-8-19)両写真とも著者撮影	61
図 5-10	希望の丘玄関(左)(2007-8-20)	62
図 5-11	筒川文化センター玄関(右)(2007-7-22)両写真とも著者撮影	62
図 5-12	里山交流館玄関(左)(2007-9-10)	62
図 5-13	四季の丘玄関(右)(2007-9-3)両写真とも著者撮影	62
図 5-14	四万十楽舎玄関(左)(2007-8-25)	62
図 5-15	しもなの郷玄関(右)(2007-8-24)両写真とも著者撮影	62
図 5-16	小国ふる里ふれあい村楯山荘玄関(左)(2007-8-17)	63
図 5-17	スターフォレスト利賀玄関(右)(2007-8-12)両写真とも著者撮影	63
図 5-18	海ぼうず玄関(右)(2007-8-8)著者撮影による	63
図 5-19	コンバージョンレベルからみた玄関における物品・設備	65
図 5-20	スロープを設けた玄関(左)	66
図 5-21	2階から撮影した吹き抜けの玄関(右)(両写真とも 2007-8-20 希望の丘にて著者撮影)	66
図 5-22	玄関における活用法の割合	67
図 5-23	玄関における重視するサービスの違いと物品・設備	67
図 5-24	教室を分割して設けられた客室(左)(2007-8-19 さんさん館にて)	68
図 5-25	教室をそのまま用いた客室(右)(2007-8-30 いまいち山荘にて)両写真とも著者撮影	68
図 5-26	教室を分割して設けられた客室(左)(2007-8-20 希望の丘にて)	69
図 5-27	教室をそのまま用いた客室(右)(2007-8-17 小国ふる里ふれあい村楯山荘にて)両写真とも著者撮影	69
図 5-28	客室における物品・設備をコンバージョンレベルで比較	72
図 5-29	和室・洋室の比較における物品・設備数	73
図 5-30	客室における重視するサービスと物品・設備	73
図 5-31	料理の調理手順が書かれた会議室の黒板(里山交流館本館 2007-9-10 著者撮影)	74
図 5-32	レストラン形式の食堂(左)(スターフォレスト利賀にて 2007-8-12 撮影)	75
図 5-33	自炊形式の食堂(右)(四季の丘にて 2007-9-3 撮影)両写真とも著者撮影	75
図 5-34	レストラン形式の調理室(左)(希望の丘にて 2007-8-17 撮影)	76
図 5-35	自炊形式の調理室(右)(小国ふる里ふれあい村楯山荘にて 2007-8-20 撮影)両写真とも著者撮影	76
図 5-36	食堂・調理室における物品・設備の系統	78
図 5-37	食堂・調理室における物品・設備をコンバージョンレベルで比較	79
図 5-38	食堂・調理室における活用法の割合	80
図 5-39	食事形式の違いと物品・設備	80
図 5-40	食堂・調理室における重視するサービスの違いと物品・設備	81
図 5-41	しもなの郷体育館(左)(2007-8-24)	83
図 5-42	里山交流館体育館(右)(2007-9-10) 両写真とも著者撮影	83
図 5-43	希望の丘体育館(左)(2007-8-20)	83
図 5-44	筒川文化センター体育館(右)(2007-7-22)両写真とも著者撮影	83

図 5-45	四万十楽舎体育館(左)(2007-8-25)	83
図 5-46	海ぼうず体育館(3F 講堂にあたる)(右)(2007-8-8)両写真とも著者撮影	83
図 5-47	いまいち山荘体育館(左)(2007-8-30)	84
図 5-48	四季の丘体育館(右)(2007-9-3)両写真とも著者撮影	84
図 5-49	ふれあいの里さかもと体育館(左)(2007-8-24)	84
図 5-50	スターフォレスト利賀体育館(右)(2007-8-12)両写真とも著者撮影	84
図 5-51	なみの高原やすらぎ交流館体育館(左)(2007-8-31)	84
図 5-52	杣の里よこみち体育館(右)(2007-8-3)両写真とも著者撮影	84
図 5-53	体育館における物品・設備の系統	86
図 5-54	体育館における物品・設備をコンバージョンレベルで比較	87
図 5-55	体育館における活用法の割合	88
図 5-56	体育館における重視するサービスの違いと物品・設備	88
図 5-57	いまいち山荘校庭(左)(2007-8-30 著者撮影)	90
図 5-58	ふれあいの里さかもと校庭(右)(2007-8-24 著者撮影)	90
図 5-59	校庭における物品・設備の系統	92
図 5-60	校庭における物品・設備をコンバージョンレベルで比較	93
図 5-61	校庭における活用法の割合	94
図 5-62	校庭における重視するサービスの違いと物品・設備	94
図 5-63	いまいち山荘研修室(左)(2007-8-30)	96
図 5-64	希望の丘研修室(右)(2007-8-20)両写真とも著者撮影	96
図 5-65	しもの郷会議室 (左)(2007-8-24)	96
図 5-66	里山交流館会議室(右)(2007-9-10) 両写真とも著者撮影	96
図 5-67	なみの高原やすらぎ交流館会議室(左)(2007-8-31)	96
図 5-68	海ぼうず会議室(右)(2007-8-8)両写真とも著者撮影	96
図 5-69	スターフォレスト利賀会議室(右)(2007-8-12)	97
図 5-70	四季の丘会議室(右)(2007-9-3)両写真とも著者撮影	97
図 5-71	さんさん館会議室(右)(2007-8-12)	97
図 5-72	鈴鹿峠自然の家会議室(川の学習室)(右)(2007-9-3)両写真とも著者撮影	97
図 5-73	会議・談話室における物品・設備の系統	99
図 5-74	会議室における物品・設備をコンバージョンレベルで比較	100
図 5-75	会議室における活用法の割合	101
図 5-76	会議室における重視するサービスの違いと物品・設備	102
図 5-77	板張りの廊下(左)(2007-9-3 四季の丘)	103
図 5-78	タイル張りの廊下(右)(2007-8-17 交流の館八幡)両写真とも著者撮影	103
図 5-79	さんさん館廊下(右)(2007-8-12)	104
図 5-80	鈴鹿峠自然の家廊下(右)(2007-9-3)両写真とも著者撮影	104
図 5-81	スターフォレスト利賀廊下(左)(2007-8-12)	104
図 5-82	杣の里よこみち廊下(右)(2007-8-3)両写真とも著者撮影	104
図 5-83	なみの高原やすらぎ交流館廊下(左)(2007-8-31)	104
図 5-84	海ぼうず廊下(右)(2007-8-8)両写真とも著者撮影	104
図 5-85	里山交流館本館廊下(左)(2007-9-10)	105
図 5-86	同別館廊下(2007-9-10) 両写真とも著者撮影	105
図 5-87	いまいち山荘廊下(左)(2007-8-30)	105
図 5-88	希望の丘廊下(右)(2007-8-20)両写真とも著者撮影	105
図 5-89	四万十楽舎廊下(左)(2007-8-25)	105
図 5-90	筒川文化センター廊下(右)(2007-7-22)両写真とも著者撮影	105

図 5-91	小国ふる里ふれあい村楯山荘廊下(左)(2007-8-17)	106
図 5-92	沼沢湖山荘廊下(右)(2007-8-18)	106
図 5-93	廊下における物品・設備の系統	108
図 5-94	廊下における物品・設備をコンバージョンレベルで比較	109
図 5-95	廊下における活用法の割合	110
図 5-96	廊下における重視するサービスの違いと物品・設備	111
図 5-97	廊下における「児童用椅子・机」の活用法	111
図 5-98	感謝のメッセージが貼られている掲示板(左:鈴鹿峠自然の家 2007-8-7 著者撮影)	112
図 5-99	感謝の手紙(右:杣の里よこみち 2007-8-3 著者撮影)	112
図 5-100	「蜜ロソク作り体験」で製作したロソクが展示されている廊下(左)	112
図 5-101	そば打ちなどの山村体験の様子の写真が掲示されている廊下壁面(右)(沼沢湖山荘 2007-8-18 著者撮影)	112
図 6-1	「学校」を演出する宿泊施設タイプの廃校宿舍	115
図 6-2	「宿泊」を演出する学校タイプの廃校宿舍	116
図 6-3	物品・設備の意味のリユースにおけるプロセス例	119
図 6-4	廃校宿舍開業までにおける物品・設備のリユースの流れ	121
図 6-5	4タイプの廃校宿舍におけるコストと学校イメージの演出効果	123
表 2-1	廃校後既存建物の主な活用用途(平成 19 年 5 月現在)	7
表 3-1	廃校宿舍調査における調査項目	10
表 3-2	物品・設備調査対象の廃校宿舍	12
表 3-3	物品・設備調査対象施設に追加する項目	13
表 4-1	全国廃校宿舍リスト	17
表 4-2	体験学習メニュー 1	26
表 4-3	体験学習メニュー 2	27
表 4-4	廃校宿舍設立の経緯 1	29
表 4-5	廃校宿舍設立の経緯 2	30
表 4-6	調査対象となる廃校宿舍のコンバージョンレベル一覧	32
表 5-1	物品・設備調査の概要	38
表 5-2	物品の品目(楽器類)	40
表 5-3	物品の品目(椅子・机類)	40
表 5-4	物品の品目(掲示物)	41
表 5-5	物品の品目(トロフィー類)	41
表 5-6	物品の品目(調理器具)	42

表 5-7	物品の品目(教材)	42
表 5-8	物品の品目(体育用具)	42
表 5-9	物品の品目(卒業記念品)	43
表 5-10	物品の品目(ロッカー類)	43
表 5-11	物品の品目(その他物品)	44
表 5-12	設備の品目(遊具類)	45
表 5-13	設備の品目(黒板類)	45
表 5-14	設備の品目(像・オブジェ類)	46
表 5-15	設備の品目(放送設備)	46
表 5-16	設備の品目(シンボル)	46
表 5-17	設備の品目(その他設備)	47
表 5-18	物品における校具・教具の分類	48
表 5-19	設備における校具・教具の分類	49
表 5-20	物品・設備の活用法の具体例(宿泊タイプ)	51
表 5-21	物品・設備の活用法の具体例(鑑賞タイプ)	52
表 5-22	物品・設備の活用法の具体例(運営タイプ 1)	53
表 5-23	物品・設備の活用法の具体例(運営タイプ 2)	54
表 5-24	物品・設備の活用法の具体例(運営タイプ 3)	55
表 5-25	物品・設備の活用法の具体例(不明・その他)	56
表 5-26	重視するサービスによって廃校宿舎を分類	60
表 5-27	廃校宿舎における 6 つの空間	60
表 5-28	玄関景観の物品・設備における分析の概要	61
表 5-29	玄関における物品・設備数	64
表 5-30	玄関における物品・設備の系統	65
表 5-31	客室景観の物品・設備分析の概要	69
表 5-32	客室における物品・設備数	70
表 5-33	客室における物品・設備の系統	71
表 5-34	食堂・調理室景観の物品・設備分析の概要	75
表 5-35	食堂・調理室における物品・設備数	77
表 5-36	体育館景観の物品・設備分析の概要	82
表 5-37	体育館における物品・設備数	85
表 5-38	校庭景観の物品・設備分析の概要	89
表 5-39	校庭における物品・設備数	91
表 5-40	会議室景観の物品・設備分析の概要	95
表 5-41	会議室における物品・設備	98
表 5-42	廊下景観の物品・設備分析の概要	103
表 5-43	廊下における物品・設備	107
表 6-1	「学校」を演出する宿泊施設タイプの廃校宿舎一覧(右)	115
表 6-2	「宿泊」を演出する学校タイプの廃校宿舎一覧(右)	116
表 6-3	物品・設備の転用前後における用途の変化(機能のリユース)	118
表 6-4	物品・設備の転用前後における用途の変化(意味のリユース)	120

第一章 序論

1-1 本研究の背景

近年の過疎化・少子高齢化の影響によって、全国各地で小中高等学校の統廃合が進み、廃校舎となった建物の多くが他の用途の施設として活用されている¹⁾。また、近年の世間一般におけるグリーンツーリズムの浸透と共に、当時の学校の面影を残している廃校を活用した宿泊施設(以降「廃校宿舎」と呼ぶ)が増加している²⁾。

また、学校の物品や設備は学校から宿泊施設へ改装工事を行う際に、宿泊施設運営にそぐわない場合、廃棄処分されている。

そこで本研究では全国の廃校宿舎を対象に、廃校宿舎に残存している、学校で用いられていた物品・設備(以降、「学校物品・設備」と呼ぶ)の活用について研究を行う。既往の研究には、廃校再生に関する研究¹⁾の他、転用プロセスに関する研究³⁾等がある。しかし、残存する学校物品・設備に着目した研究はなく、新しい視点と言える。

1-2 本研究の目的と意義

1-2-1 本研究の目的

日本全国において、廃校を活用して宿泊施設を運営している施設を対象とする。それらの廃校宿舎における宿泊システムや各種機能について調査し、その実態を把握する。

また、廃校宿舎に残存する学校物品・設備の状況・活用例を調査し、それらとコンバージョン(建物の用途を変更すること)の状況や物品・設備の活用法などとの相関を考察する。最終的には、廃校の宿泊施設への転用時の物品・設備のリユースについて指針を示す事を目的とする。

1-2-2 本研究の意義

本研究の意義は、今後廃校を宿泊施設に転用する際、学校の物品・設備活用の重要な指針となる事である。

1-3 論文の構成

本研究は、全国の廃校宿舎の運営主体、主な客層(ターゲットとする客)、客室数などの基本的な機能および、廃校宿舎に残存する学校物品・設備の現状を全国 76 箇所の廃校宿舎の中から調査・考察し、廃校の宿泊施設への転用に関する指針となる知見を見出すものである。本論文は、結論を含めて六章から構成されている。図 1-1 に本論文の全体構成と各章の相互関係を示す。各章の内容は以下の通りである。

第二章は廃校と廃校の活用状況について論じている。

第三章は本研究の目的や調査方法、分析方法について説明している。

第四章は、廃校宿舎の機能、宿泊システムなどの廃校宿舎全体を調査した結果を考察し、廃校宿舎を構成する要素を抽出している。

第五章は、廃校宿舎における物品・設備に着目し、76の施設の中から条件に合った施設に赴き、調査した結果を廃校宿舎のコンバージョンや物品・設備の活用法の視点から考察している。

第六章は、四章、五章で得られた結果を基に、廃校宿舎と物品・設備の関係を論じ、廃校宿舎と物品・設備の活用の指針を見出している。

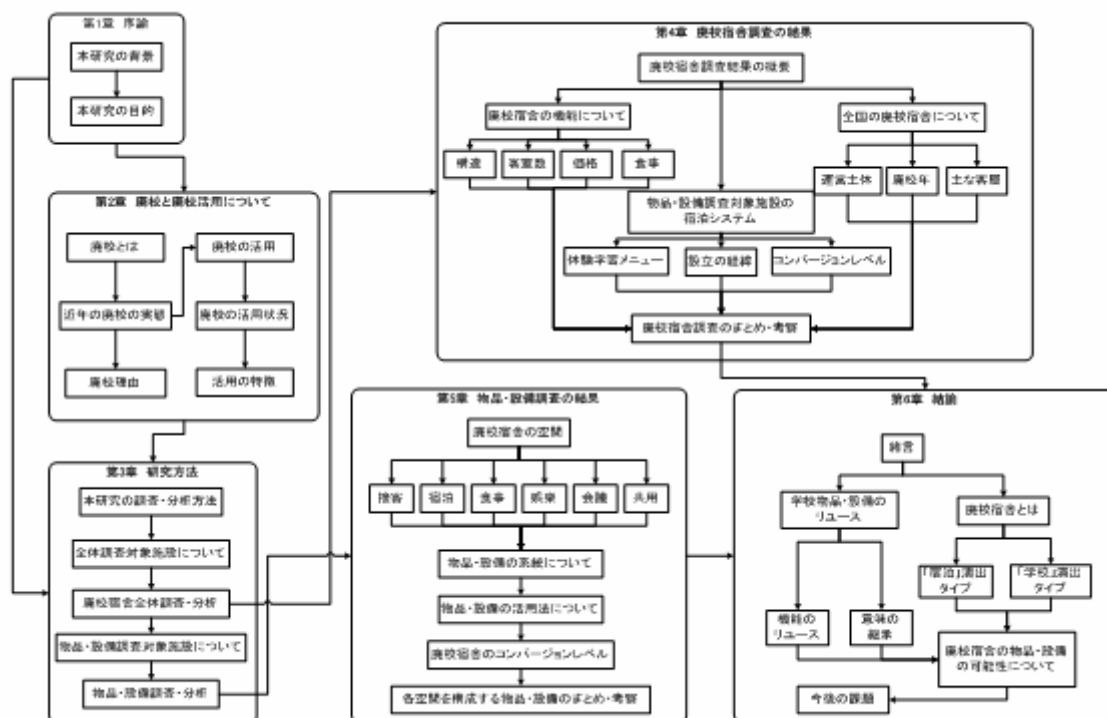


図 1-1 論文の全体構成

【第一章 引用文献リスト】

- 1) 文部科学省施設助成課:廃校施設の実態及び有効活用状況等 調査研究報告書,1-26(2003)
- 2) 全国廃校（学舎）活用フォーラムみやぎ・志津川大会実行委員会:平成 14 年度全国廃校（学舎）活用フォーラムみやぎ・志津川大会資料,主催同発行,505-508(2002)
- 3) 吉村彰,足名伸介:廃校(小・中・高等学校)施設の有効利用に関する建築計画的な研究,総合研究所年報(24),57-64(2004)

第二章 廃校と廃校活用について

この章では廃校の現状とその発生理由、また、廃校の活用状況について説明する。

2-1 廃校の現状

2-1-1 廃校とは¹⁾

廃校とは、地域の児童生徒数が減少することにより、ある学校が他の学校と統合されたり、又は廃止されたりすることにより生じ、学校としては使わなくなることと言う。近年、少子化に伴う児童生徒数の減少等により、教室が余ってしまったり、又は学区の整理統合により廃校となってしまう学校施設が発生している。

児童生徒数が減少する原因には、少子化を背景として、過疎化による場合だけでなく、都市部での住宅の郊外移転や、人口における高齢者の割合が相対的に高くなったためなど、様々な地域の状況がある。

学校施設は、国庫補助金などの貴重な財源によって整備された施設であるとともに、地域住民にとっては身近な公共施設でもあることから、遊休スペースとなったり、学校としては使われなくなった後も、地域の実情や需要に応じて積極的に活用していくことが望ましいと考えられており、近年の廃校は学校としての役目を終えた後も、他の用途へと変更されて新しい施設として生き続けている。本章では廃校の実態と、それらの活用状況について論じる。

2-1-2 近年の廃校の実態

年度別の廃校数の推移を図 2-1 に示す。

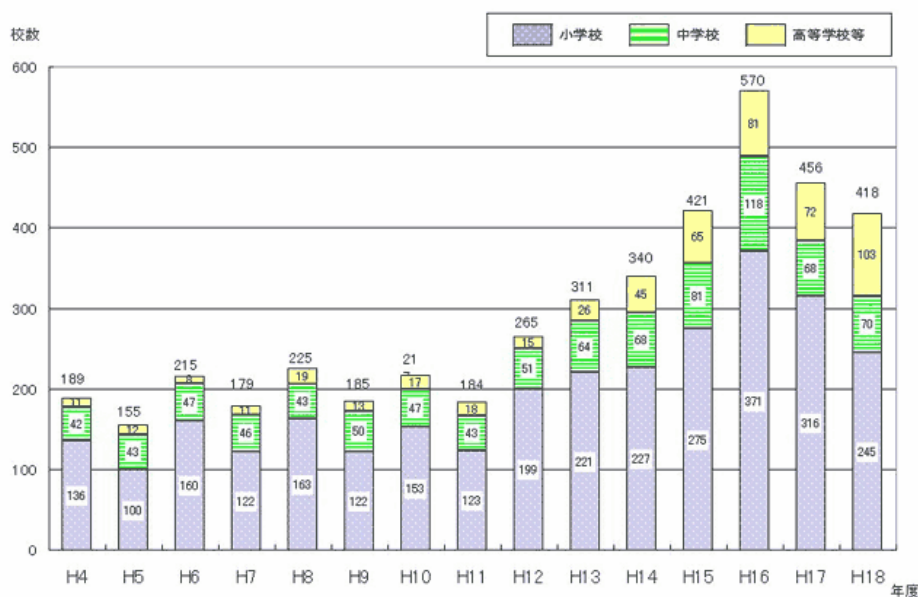


図 2-1 公立学校の年度別廃校数¹⁾

年度ごとにばらつきがあるものの、毎年 150～220 校程度の廃校が発生している。また、平成 12 年度以降は 250 校以上の廃校が発生していることから、廃校数は増加傾向にあるとみられる。

2-1-3 廃校理由

児童・生徒数減少は、全国的な少子・高齢化の動向とともに、様々な地域の状況によって発生すると考えられる。ここでは、学校が廃校となる要因について検討する。

過疎化による児童・生徒数の減少

1 次産業を中心とする地場産業の衰退により、急速な人口減少を招き、それに伴い児童・生徒数が減少したため、廃校が発生する。

都市化による児童・生徒数の減少

地域が商業・業務を中心に発展することにより住宅が郊外に移転し、地域内の定住人口の減少とともに児童・生徒数が減少したため、廃校が発生する。

高齢化による児童・生徒数の減少

大きな人口減少はみられないものの、総人口における高齢者の割合が高くなり、相対的に児童・生徒数が減少したため、廃校が発生する。

図 2-2 に示すとおり、廃校発生理由は、全体では 6 割以上が過疎化による廃校が占めており、都市化及び高齢化による廃校は、1 割未満となっている。また、小中高別にみた場合、小学校の廃校の 7 割、中学校の 5.5 割が過疎化による廃校であるのに対して、高等学校等では、再編による廃校が 6 割以上を占めている。このことから、小中学校の廃校は、地域の人口、児童・生徒数の減少に大きく影響を受けていると考えられるが、高等学校等の場合は、設置者が都道府県であり、広域の行政地域下での計画的学校の再編等、行政による判断が大きく影響を及ぼしていると考えられる。

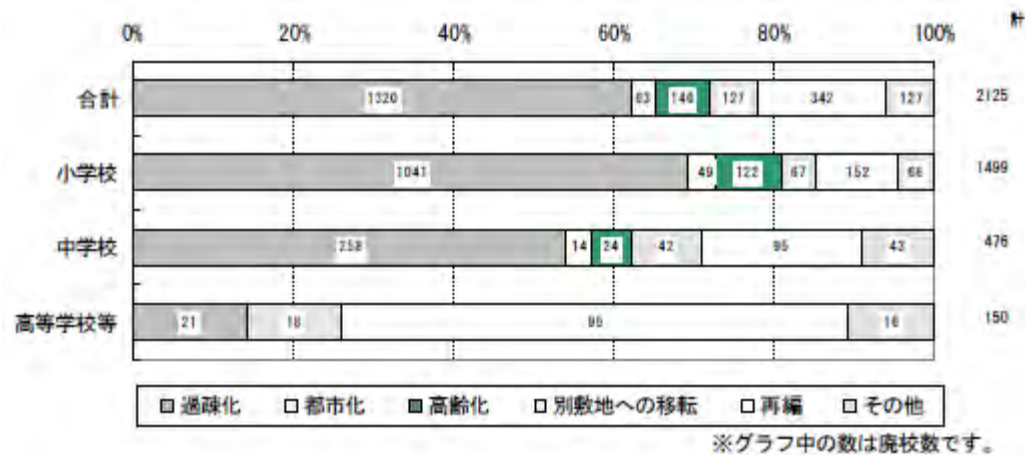


図 2-2 廃校理由別廃校数の割合 ²⁾

2-2 廃校の活用

2-2-1 廃校活用状況

学校施設は、地域住民にとっての身近な公共施設であり、またその校舎などは地域のシンボリックな存在である場合も多く、廃校となった後も可能な限り地域コミュニティの拠点として活かすことが重要であると考えます。

廃校後の建物又は土地の活用方法は、以下の3通りに大別される。

既存建物の活用

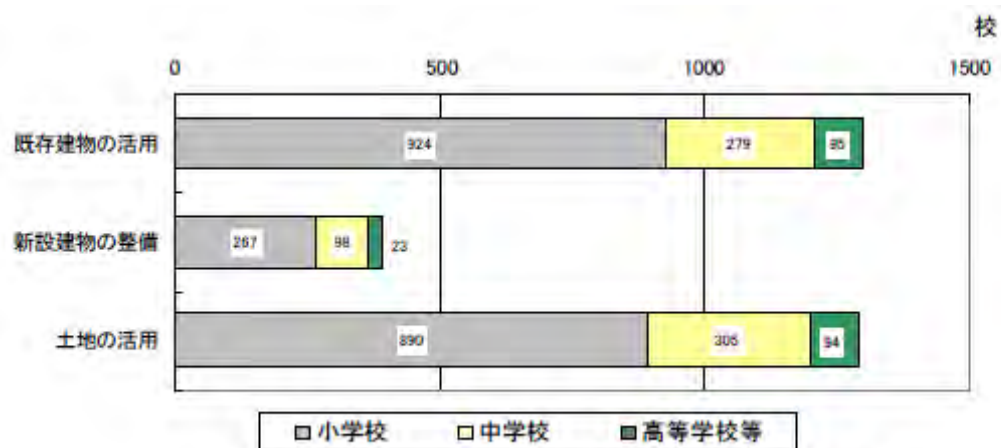
廃校となった校舎や体育館等の既存建物を改修し、他の用途として活用する方法。3つの活用方法の中で最も件数が多い。主に教育委員会の所管となる、社会教育施設（公民館、生涯学習センター等）、社会体育施設（スポーツ施設等）として活用されている。

新設建物の整備

既存建物を解体撤去するか、校庭等の空地部分を活用し、新たに建物を整備する方法。体験交流施設、研修施設、老人福祉施設等、多様な活用事例がみられる。

土地の活用

既存建物を解体撤去した跡地や校庭等の土地を、新たな用途として活用する方法。教育委員会所管の学校施設、社会教育施設、社会体育施設としての活用が中心である。特に社会体育施設としての活用が多いことから、廃校後も地域のグラウンドとして活用されているとみられる。



※グラフ中の数は、廃校数によるもので、複数回答を含む

図 2-3 廃校の活用校数(小中高別)²⁾

2-2-2 廃校活用の特徴

廃校の活用用途としては、社会教育施設や社会体育施設の割合が高いが、自然体験交流施設や老人福祉施設など様々な施設として活用されている(表 2-1)。なお、表の数値は前項の 3 つの活用法すべてを含んだものであるとする。

複数回答のため数値の詳細は明確でないが、本研究で対象となる廃校の用途は「宿泊施設」および「宿泊設備を備えている体験交流施設」であるとする。仮に表の「体験交流施設」がすべて宿泊設備を備えていると考えた場合、廃校を宿泊施設として活用している施設は 94 となり、「社会教育施設」「社会体育施設」に次ぐ数となる。

表 2-1 廃校後既存建物の主な活用用途(平成 19 年 5 月現在)¹⁾

(平成14～18年度廃校分)

活用用途	件数	例
社会教育施設	359	公民館、資料館、生涯学習センター等
社会体育施設	329	スポーツセンター等
体験交流施設	81	自然体験施設、農業体験施設等
研修施設	49	
老人福祉施設	33	
文化施設	66	資料館、美術館等
庁舎等	93	
児童福祉施設	40	
宿泊施設(体験交流施設をのぞく宿泊施設)	13	
備蓄倉庫	32	
障害者福祉施設	31	
公営(職員)住宅	8	
医療施設	7	
創業支援施設	10	

複数回答を含む

また、最近では地方公共団体と民間事業者とが連携し、創業支援のためのオフィスや地元特産品の加工会社の工場として廃校施設が活用されるなど、地域資源を活かし、地域経済の活性化につながるような活用もみられる。

【第二章 引用文献リスト】

1) 文部科学省施設助成課: 余裕教室・廃校施設の有効活用

< http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyosei/yoyuu.htm > 2007-12-23

2) 文部科学省施設助成課: 廃校施設の実態及び有効活用状況等 調査研究報告書, 1-26(2003)

第三章 研究方法

3-1 本研究の調査方法

本研究では大きく二つの方法で調査した。まず、一つは、全国の廃校宿舍の運営主体、主な客層(ターゲット)、客室数などの基本的な機能について把握する「全体調査」である。これは、ホームページ調査、文献調査を行った。

もう一つの調査は、全国 76 箇所の廃校宿舍の中から「学校物品が残されていること」「冬季休業のないこと」「写真を撮っても差し支えないこと」の条件に合致する施設に存在している、廃校になる前から使われている学校物品・設備を調査する、「物品・設備調査」である。この調査には、著者が現地に赴き、撮影した写真を使用した。

なお、本研究では学校物品・設備を対象にしており、宿泊施設となってから導入されたベッドや布団等の新しい物品・設備に関しては調査を行わない。

3-1-1 廃校宿舍全体調査

(1)全国廃校宿舍リスト作成

廃校を活用した宿泊施設・研修施設を紹介するガイドブックや雑誌記事などの文献と、「学校に泊まろう！」¹⁾のように、全国の廃校宿舍を紹介しているホームページの調査から、76 の施設が廃校宿舍と認められたため、調査対象とした。これらの施設において以下の項目を調査し、リストとして整理する。

表 3-1 廃校宿舍調査における調査項目

調査項目	内容
■ 施設名	廃校宿舍の名称
■ 所在地	廃校宿舍の現住所
■ 運営主体	主に運営を行っている団体もしくは個人
■ 廃校年	学校として廃校・閉校となった年
■ 主な客層	廃校宿舍がターゲットとする客の種類。団体客か個人客かを判断
■ 構造	施設の構造が木造か鉄筋などの非木造タイプかを判断
■ 総客室数	施設が有する全ての客室の数
■ 和室	施設が有する和式の客室の数
■ 洋室	施設が有する洋式の客室の数
■ その他	和洋室等の上記以外の客室の数
■ 価格	大人一人当たりの一泊二食付の価格
■ 食事	施設が提供する食事内容の例。自炊の場合は自炊と表記

なお、調査には 2007 年 7 月現在の各廃校宿舍のサイトや宿泊予約サイトのデータ、

「泊まれる！遊べる！全国廃校活用ガイド 83 選」²⁾などの文献を参考にした。このリストを元に廃校宿舍全体の分析と、学校物品・設備調査の対象となる施設を選定する。

3-1-2 学校物品・設備調査

上記の 76 の施設から、「学校物品が残されていること」「冬季休業のないこと」「写真を撮っても差し支えがないこと」の条件で廃校宿舍の対象を絞り、以下の調査を行う。

- ・ 現地にて外観・内装及び物品の写真撮影を行う。
- ・ 経営者に廃校宿舍設立の経緯や廃校時の物品の行方等、ヒアリングを行う。
- ・ 廃校宿舍の図面や設立に係る資料を収集する。

物品の数と設置場所は撮影した写真を元に、目視によって確認できる数を数えた。「図書室の本」や「ボール類」のような物品の数が明確でない場合、値は「多数」と表記した。これらの数量データを基に分析を行う。



図 3-1 物品・設備の調査例(2007.8.17 小国ふる里ふれあい村楯山荘にて著者撮影)

3-1-3 物品・設備調査対象施設

76 の施設の中で条件に合致した 17 の施設を物品・設備調査の対象とする。図は調査対象施設の位置を表したものである。



図 3-2 物品・設備調査対象の廃校宿舎

表 3-2 物品・設備調査対象の廃校宿舎

地域	都道府県	施設名	調査日
東北	岩手県	希望の丘	2007.8.20
	宮城県	さんさん館	2007.8.19
	山形県	小国ふる里ふれあい村 楯山荘	2007.8.17
	福島県	沼沢湖山荘	2007.8.18
甲信越	新潟県	交流の館八幡	2007.8.17
北陸	富山県	スターフォレスト利賀	2007.8.12
	石川県	ふるさと体験村 四季の丘	2007.9.3
東海	三重県	鈴鹿峠自然の家	2007.8.7
		海ぼうず	2007.8.8
近畿	京都府	筒川文化センター	2007.7.20
		里山交流館	2007.9.10
四国	徳島県	ふれあいの里 さかもと	2007.8.24
	高知県	山村自然楽校しもの郷	2007.8.24
		四万十楽舎	2007.8.25
中国	島根県	杉の里よこみち	2007.8.3
九州	大分県	いまいち山荘	2007.8.30
	熊本県	なみの高原やすらぎ交流館	2007.8.31

この 17 の廃校宿舎に追加調査として、分析に必要な次の項目を付け加える。

表 3-3 物品・設備調査対象施設に追加する項目

調査項目	内容
■ 体験学習メニュー	施設が有する体験学習の例
■ 設立の経緯	廃校宿舎としてスタートするまでの経緯
■ コンバージョンレベル	廃校宿舎の改装の度合い

「体験学習メニュー」とは、廃校宿舎周辺の環境を生かした自然体験や、地元の伝統工芸などを体験できる廃校宿舎のシステムの一つである。

「設立の経緯」とは、廃校になってから宿泊施設として再スタートをするまでの過程を、大まかに把握する。ここでは、なぜ廃校を宿泊施設に活用することになったのかを重点的に調査する。

「コンバージョンレベル」とは、図のように校舎内を改装した場所の数を集計し、その数値が大きい施設から、高・中・低の3段階に分類したものを言う。

学校を宿泊施設へ転用する際には、建築基準法や消防法などの法規定が変わるため、廃校宿舎は、廃校となった建物を改装する必要がある。これらの改装の度合いを、物品・設備の分析における軸の一つとして扱う。なお、コンバージョンレベルの詳細については第四章に記す。

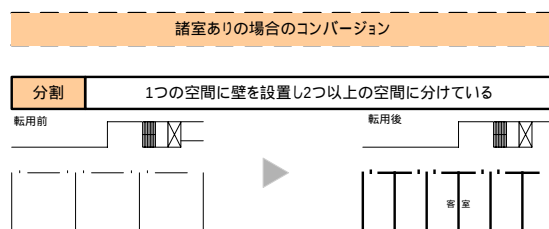


図 3-3 コンバージョンの例

3-2 分析方法

3-2-1 廃校宿舎全体分析

廃校宿舎全体調査における分析方法としては、ホームページ調査、文献調査をもとにデータを収集し、そこから廃校宿舎のプロファイル（運営主体、廃校になった年、主な客層）、廃校宿舎の機能について分析し、廃校宿舎の全体像や特徴を把握した（図 3-4）。

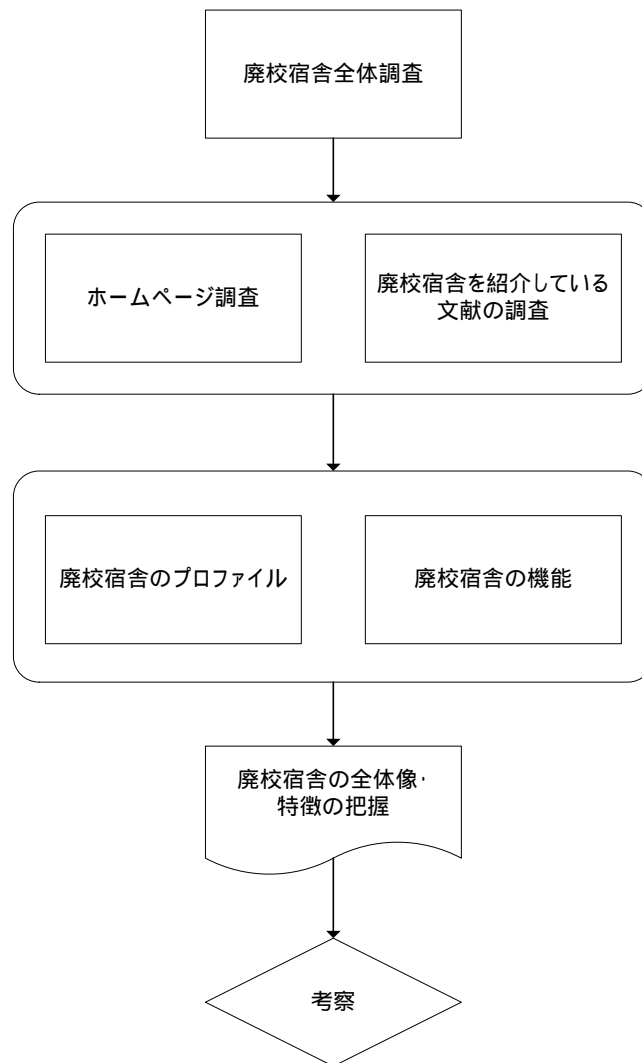


図 3-4 廃校宿舎全体調査における分析フロー

3-2-2 学校物品・設備分析

学校物品・設備調査における分析方法としては、学校物品・設備調査から得たデータを基に、以下の分類作業を行う。

- ・物品・設備を系統（校具・教具）分類

学校時代の学習用の物品・設備が、宿泊施設ではどのような活用がなされているのかを考察するため、それらが学習に用いられていた物かどうかを分類する。

- ・物品・設備を活用法別に分類

調査した物品・設備が具体的にどのように活用されているかを知るために、物品・設備それぞれの活用法を調査し、分類を行う。

- ・廃校宿舎をコンバージョンの度合いによって分類

コンバージョンの度合いと物品・設備の数、品目の関係を考察するため、廃校宿舎のコンバージョンレベルを設定する。

そして、廃校宿舎における部屋や場所などの空間が持つ宿泊施設としての機能に着目し、それらの機能を宿泊・接客・会議・娯楽・共用・食事の 6 つに整理し、機能ごとに物品・設備と上記の分類との関係を考察する（図 3-5）。

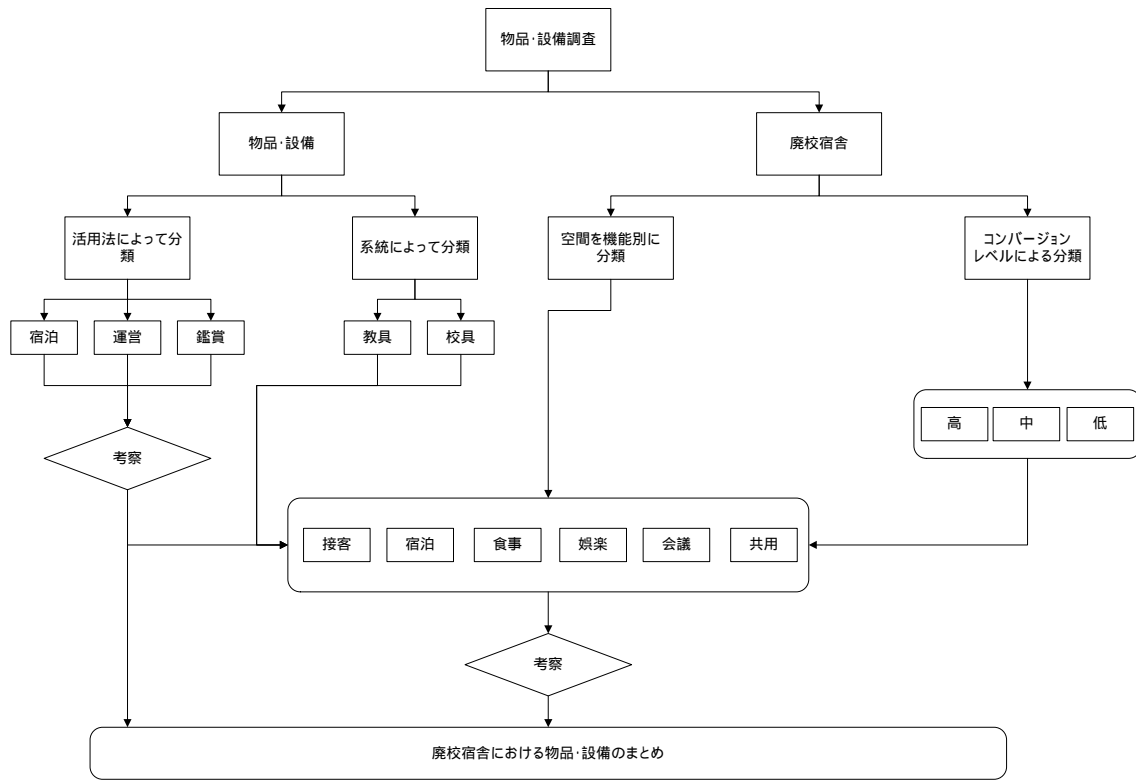


図 3-5 物品・設備調査における分析フロー

【第三章 引用文献リスト】

1) 学校に泊まろう！

< http://principal.hp.infoseek.co.jp/index_inside.html > ,2007-2-7

2) 廃校遊学推進委員会:泊まれる！遊べる！全国廃校活用ガイド 83 選,1-151,エビデンスコーポレーション情報センター出版局(2003)

第四章 廃校宿舍調査の結果

4-1 廃校宿舍調査結果の概要

全国の廃校宿舍を文献及びホームページから調査し、その宿泊や体験学習などの機能を一覧に整理する。その結果、76の施設が「廃校宿舍」の定義に当てはまった。また、これらの中から「学校物品が残されていること」「冬季休業のないこと」「写真を撮っても差し支えないこと」の条件に沿った17の施設を物品・設備調査の対象とした。さらにこの17の施設に、設立の経緯やコンバージョンの度合いなどを追加で調査し、リストに整理した。

表 4-1 全国廃校宿舍リスト

No.	地域	都道府県名	施設名	No.	地域	都道府県名	施設名
1	北海道	北海道	冒険家族	37	近畿	大阪府	そぶら★貝塚ほの字の里
2			ひなた母校	38		京都府	風蘭の館
3			夢舎	39			筒川文化センター
4			ファミリースクールひまわり	40			里山交流館
5			キララン清里	41		奈良県	奥高野自然の里ビレッジ
6			ニセコ高原ユースホステル	42			三季館
7			ファミリースクールふれあい	43			トントン工作館
8			ふれあいの家 まどか	44		三重県	美杉ビレッジ
9			音別町体験学習センターこころみ	45			鈴鹿峠自然の家
10			中川エコミュージアムセンター	46			海ぼうず
11			えんべつふれあいセンター	47		和歌山県	丹生ヤマセミの郷
12	東北	宮城県	さんさん館	48			小口自然の家
13			石巻市田代島自然教育センター	49	中国	島根県	匹見峡温泉 やすらぎの湯
14			江島自然活動センター	50			杣の里よこみち
15		岩手県	希望の丘	51		岡山県	農村型リゾート 南和気荘
16		青森県	海峡の家 ほろづき	52			アーツ&クラフツビレッジ
17		秋田県	大釜温泉	53		広島県	杉の泊 夢の塾
18		福島県	森林の分校 ふざわ	54			田原温泉5000年風呂
19			森の校舎 カタクリ	55		徳島県	ふれあいの里 さかもと
20			自然教育村	56			自然の宿 あさひ
21			沼沢湖山荘	57	四国	愛媛県	ブリーズハウス
22		山形県	小国ふる里ふれあい村 楯山荘	58			ふるさととの宿
23	関東	群馬県	葉留日野山荘	59			ふるさと顔の家
24		栃木県	星ふる学校「くまの木」	60			しまなみふれあい交流館
25		千葉県	自然の宿 くすの木	61		高知県	山里の家
26	北陸	新潟県	かたくりの宿	62			四万十楽舎
27			カルチャーセンター田舎屋	63			米ヶ岡生活体験学校
28			スカイトピア遊ランド	64			みどりの時計台
29			自然体験村 よってげ邸	65			白滝の里
30			交流の館八幡	66			山村自然楽校しもなの郷
31		山梨県	光源の里温泉 ヘルシー美里	67			森の巣箱
32			おいしい学校	68			自遊学校
33		富山県	スターフォレスト利賀	69	九州	大分県	いまいち山荘
34		長野県	野田平キャンプ場	70			せせらぎ郷かみつえ
35	東海	石川県	ふるさと体験村 四季の丘	71			祖母山麓尾平青少年旅行村
36		静岡県	やまびこ荘	72		長崎県	野崎島ワイルドパーク・自然学塾村
				73		福岡県	宝珠山簡易宿泊施設
				74		熊本県	なみの高原やすらぎ交流館
				75		宮崎県	尾八重川キャンプ場
				76			米良の里

4-1-1 全国の廃校宿舍について

(1) 運営主体

廃校宿舍の経営および管理業務を行っている団体を調査した。法人、行政、個人、第三セクターの4団体に分かれている。

図を見ると、運営形態の数には偏りがなく、廃校が行政だけでなく法人をはじめとする民間にも広く利用されていることがわかる。しかし、「開業当時は行政が運営を行っていた」

(個人運営の廃校宿舎)や「2007 年から第三セクターになった」(第三セクター運営の廃校宿舎)といった声が聞かれており、運営主体は固定でない場合が多く、今後変動があることが予想される。

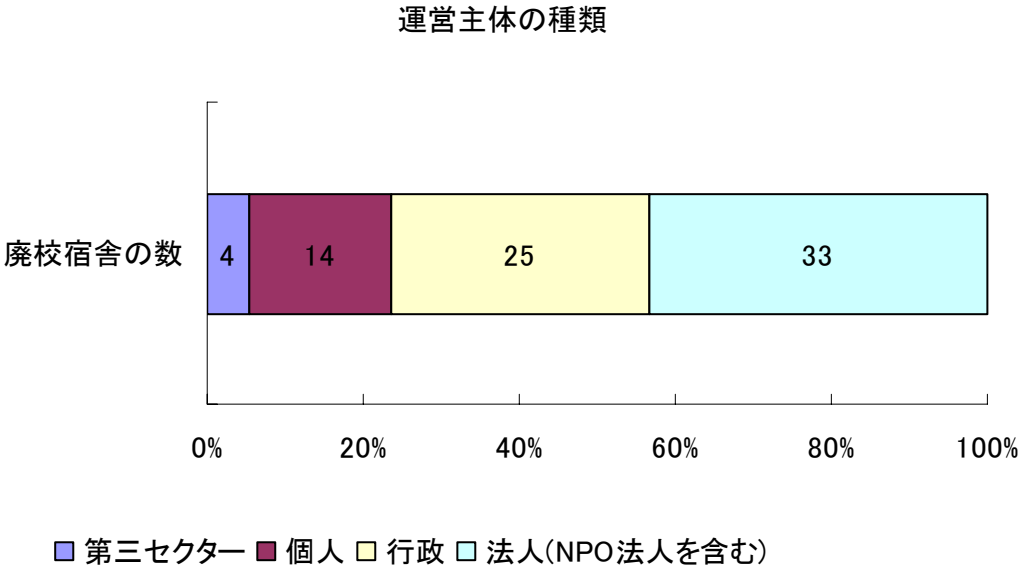


図 4-1 廃校宿舎の運営団体の種類

(2)廃校年

各廃校宿舎で、学校が廃校になった年を調査した。図 4-2 は 76 箇所の廃校宿舎の廃校年の分布を示したものである。分布は 1980 年代後半から 2000 年前半に集中している。近年の少子高齢化と共に廃校の数が増えていることがうかがえる。これは廃校宿舎以外の、全国の廃校数の推移(図 4-3)と同様に、年度ごとにばらつきがあるものの、廃校数は今後増加する傾向にある。

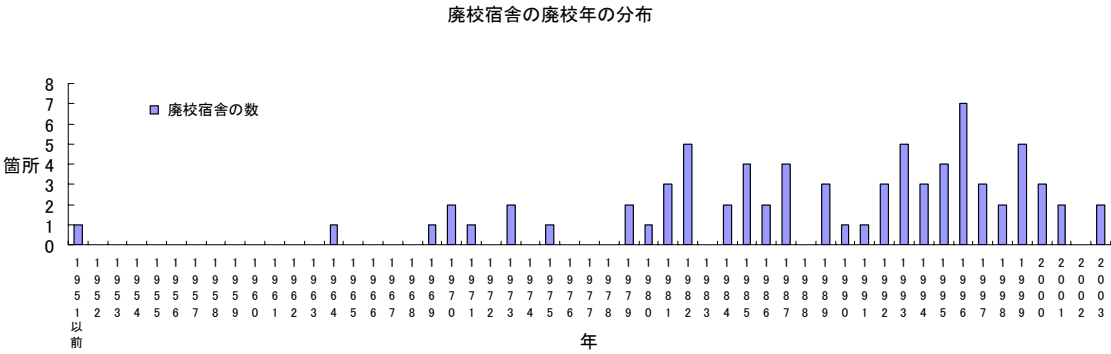


図 4-2 廃校宿舎の廃校年の分布

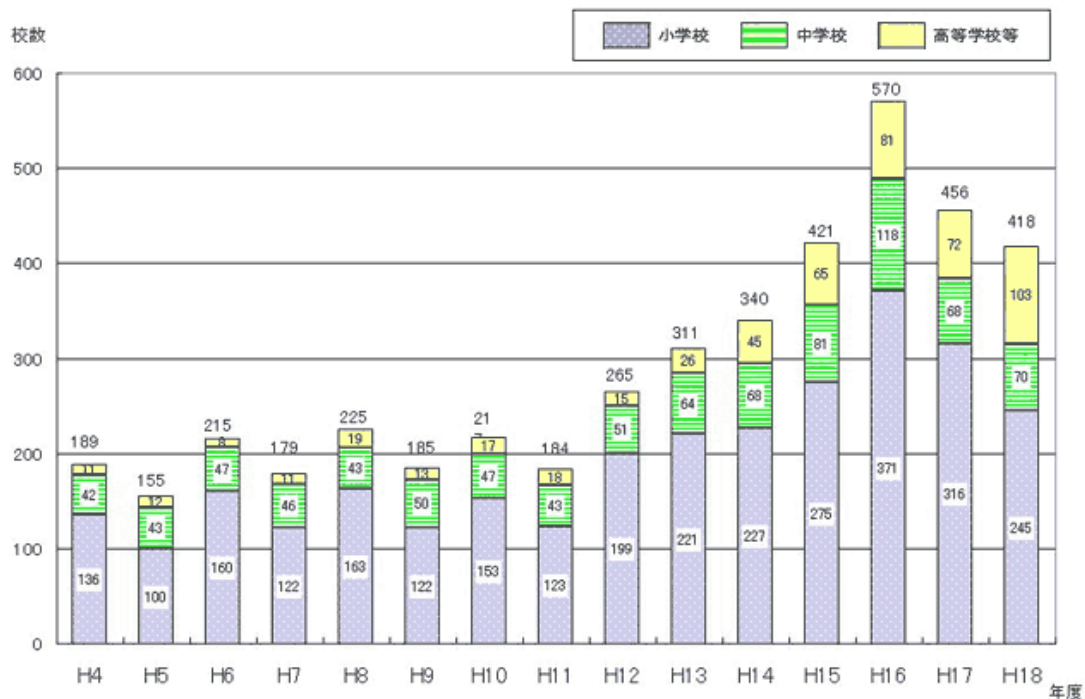


図 4-3 公立学校の年度別廃校数¹⁾

(3)主な客層

文献・ホームページからそれぞれの廃校宿舎が対象にしている客層を「個人客」「団体客」の二つに分類した。個人客・団体客の定義は以下の通りとする。

個人客：1名または家族連れや夫婦などの数人程度のグループ客を指す。

団体客：合宿やツアー客などの10名以上の大人数によるグループ客を指す。

また、この二つの分類のほかに、ツーリング客や芸家などの特殊な利用客がいる場合もある。その結果を以下の図 4-4 に示す。

個人客・団体客の割合はほぼ同じで、やや個人客向けの廃校宿舎が多いことがわかる。

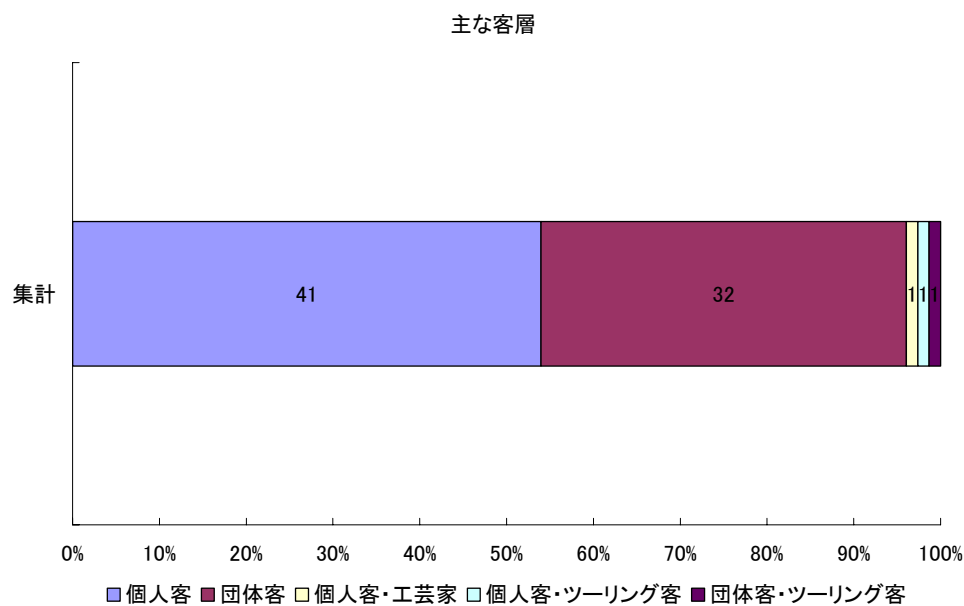


図 4-4 主な客層

4-1-2 廃校宿舎の機能

(1) 構造

廃校宿舎の構造が木造か、鉄筋等の非木造の二つに分類し掲載した。図を見ると、木造は廃校になった年に関係なく幅広く分布しているが、非木造は 1960 年ごろを境に分布するようになっている。木造の廃校宿舎が多い理由として、現在あまり見かけなくなった木造校舎の「暖かさ」を、廃校宿舎の魅力として売り出すことが出来るからではないかと考えられる。



図 4-5 木造校舎をアピールしている雑誌記事（写真は『希望の丘』外観）²⁾

また、学校校舎は高齢者に向けた「回想法」³⁾と呼ばれる一種の心理療法に利用されることがある。学校校舎の景観と幼い頃の記憶がリンクし「懐かしさ」を感じさせることで、認知症などの治療が可能になる³⁾とされている。

近年の学校校舎は、鉄筋コンクリートなどの非木造校舎が学校のイメージとされがちであるが、前述のように木造校舎には観光としての価値だけでなく、医療面の価値も模索されており、今後ますます貴重なものとなるだろう。

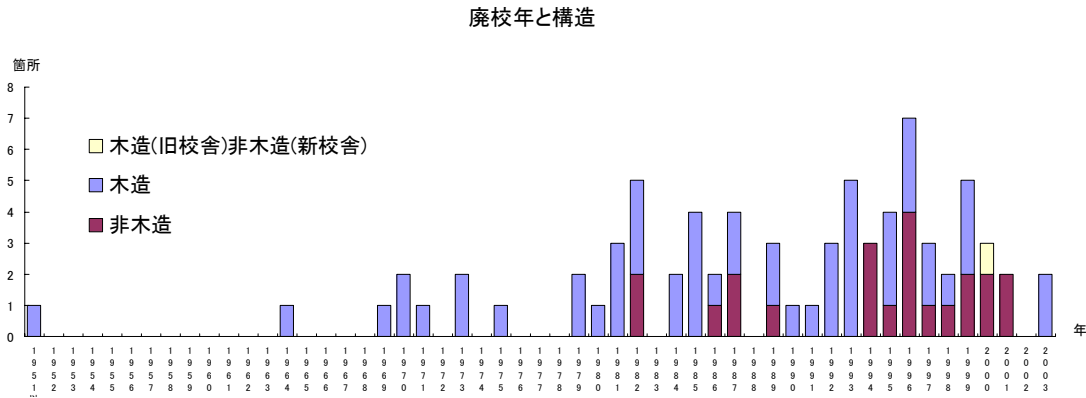


図 4-6 廃校年と構造



図 4-7 木造の廃校宿舎(左) (2007.8.3 『杣の里よこみち』にて著者撮影)



図 4-8 非木造の廃校宿舎(右) (2007.8.24 『ふれあいの里さかもと』にて著者撮影)

(2)客室数

客室は、元々教室であった部屋を改装して設けられることが多い。通常、教室の床は板やタイル張りであるが、畳を敷き直して和風の客室とすることもある。和室、洋室含めた全 76 施設の平均客室数は 8.3 室である。

また、和・洋室の割合は図の通りである。圧倒的に和室が多いのは、次のような理由が挙げられる。

- 洋室と違い、ベッドを設置するスペースが必要ない。よって収容人数を増やせる。
- 合宿等の団体客にも対応出来る。
- 宿泊時以外にもミーティングなどの会議に活用出来る。

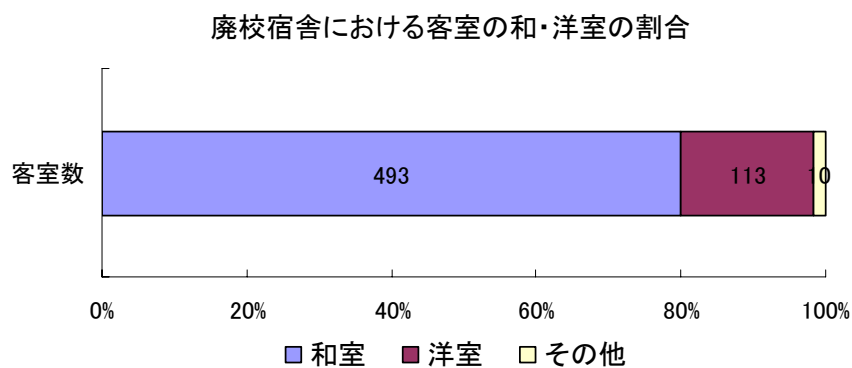


図 4-9 廃校宿舎における客室の和・洋室の割合

(3)価格

価格は、2007 年 7 月現在における大人一人一泊二食付きの値段を調査した。食事が「自炊」である施設は、大人一人当たりの宿泊料としている。食事が自炊以外の廃校宿舎の平均宿泊料金は¥6,003 であり、自炊の施設では¥2,368 であった。

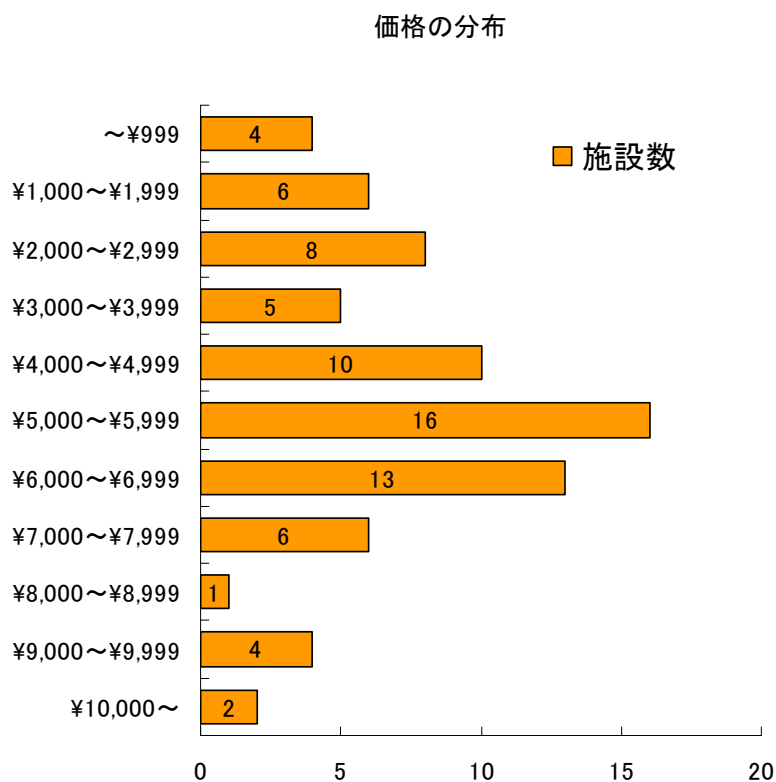


図 4-10 廃校宿舎の宿泊料金

(4)食事

「食事」の項目には、廃校宿舎で提供される食事の中で、ホームページや文献で代表的に紹介されているメニューを掲載した。また、食事について特別な表記がない場合は「特徴なし」とする。

図のように、「地元産の食材使用」「郷土料理」が全体の 1/4 以上を占めている。廃校宿舎は過疎化が進む農山村地域に多く見られるため、観光客に地元の事を知ってもらうために食材にこだわり、郷土料理のような地元の利益となるような献立を考えている。

また、元学校であることにちなんで「給食メニュー」を提供する施設も存在する。

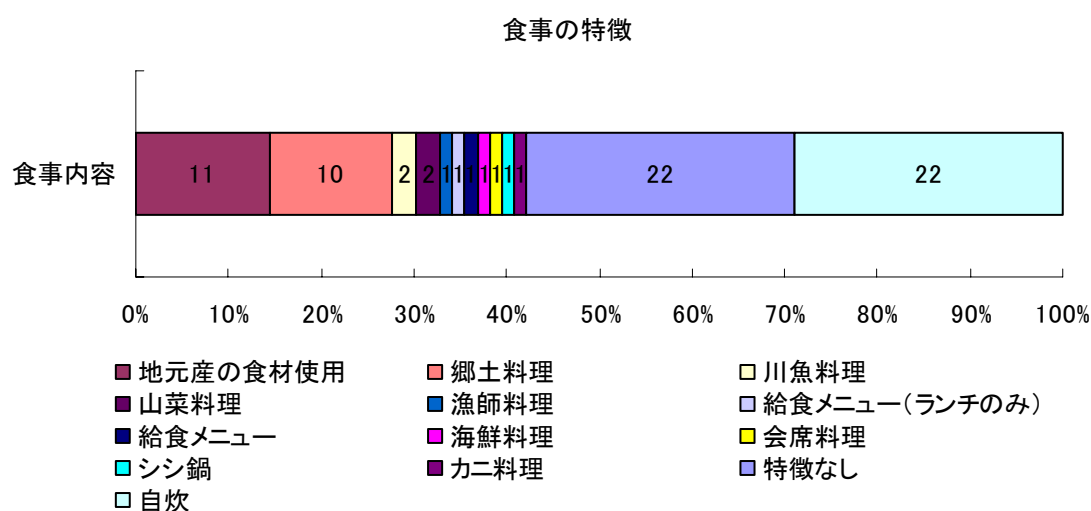


図 4-11 廃校宿舎の食事内容



図 4-12 給食メニュー⁴⁾(左) 図 4-13 漁師料理⁵⁾(右)

自炊の場合、宿泊客が食材を持ち込み、厨房・食堂を共同で利用する。これにより、通常の宿泊施設では実現が難しい「宿泊客同士の交流」が生まれることになる。また、「『自炊のおかげで最近少なかった家族との会話が出来た』という客もいた」⁶⁾というように家族連れの宿泊の場合、自炊作業が家族間の交流を促すことも期待できる。

4-2 物品・設備調査対象施設の宿泊システム

4-1 で整理した廃校宿舍の中から物品・設備調査の対象となった 17 の施設において、分析に必要な項目について調査を行った。

4-2-1 体験学習メニュー

通常のホテルや旅館と違い、廃校宿舍の多くに「そば打ち」のような体験学習のメニューが備わっている。廃校宿舍の目的を「地域振興」「都市住民との交流」としているためである。

内容は、廃校宿舍周辺の農家の協力による農業体験やそば打ち、川魚のつかみ取りのように地元の環境を存分に生かしたものとなっている。地域住民が都市住民と交流できる数少ない場として重宝されている。以下に体験メニュー例と、17 施設のメニュー一覧を示す。

【体験メニュー例】

・そばづくり(杣の里よこみち)⁷⁾

打ったそばをお土産にお持ち帰り

地元産のそばと「挽きたて、打ちたて、茹でたて」の三たてにこだわり、杣の里秘伝の「おつゆ」そして、地元産のわさびをのせたそばは、絶品の味。その全工程を伝授します。

体験料金 1 回 6,300 円(2 名以上) 要予約 出来上がり 12 人前位

利用時間 9:00 ~ 16:00

所要時間 2 ~ 3 時間



図 4-14,4-15 そばづくりの様子

・川遊び（ふれあいの里さかもと）⁸⁾

- ・開催日 3月～7月（ご希望の日）
- ・内容 自然がいっぱいの坂本川でます釣りや、ますのつかみ取りを行います。
- ・場所 坂本川、わきあいあい池
- ・料金 貸し竿（えさ付き）500 円、1 匹 300 円
- ・その他 入漁券は不要です。

申し込み時に、釣り又はつかみ取りの別及び希望匹数をお知らせください。地元釣りクラブ「わきあいあい釣りクラブ」のメンバーが指導します。クーラーをご持参ください。

5 名様以上でお申し込みください（子どもの場合は保護者同伴）。貸し竿（えさ付き）のみのコース（300 円）もあります。



図 4-16 川遊びの様子

表 4-2 体験学習メニュー-1

[illegible]

表 4-3 体験学習メニュー2

体験学習	希望の丘	さんさん館	海ぼうず	やすなみの高原館	さかもと	沼沢湖山荘	交流館里山	交流の館八幡	楽舎	四万十	しもなの郷	よこみち	仙の里	四季の丘	フオレスト利賀	いまいち山荘	桶山荘	簡川文化センター	自然の家	鈴鹿峠	計
さといも掘り				○																	1
茶道教室			○																		1
里小屋作り									○												1
里山そば塾							○														1
しな織り								○													1
市民農園							○														1
じゃがいもまき	○																				1
乗馬体験				○																	1
じんぞく狩り					○																1
水田水路清掃	○																				1
スキー教室						○															1
炭木伐採	○																				1
そば餅	○																				1
大根収穫	○																				1
大豆収穫	○																				1
高菜折り				○																	1
竹馬		○																			1
竹とんぼ作り	○																				1
干草刈り	○																				1
畜産体験				○																	1
漬物作り				○																	1
つたかご作り					○																1
ツリーハウス作り				○																	1
手作りピザ体験				○																	1
トマトケチャップ作り				○																	1
どんぐり拾い	○																				1
とんぼ玉作り			○																		1
苗代まき	○																				1
なめこ植菌	○																				1
農家民泊							○														1
ハイキング案内												○									1
機織り		○																			1
栗タバコ収穫	○																				1
はっと作り		○																			1
ひじき取り			○																		1
ヒロメ刈り取り			○																		1
落取り	○																				1
ふれあい牧場												○									1
ほうすき摘み				○																	1
ほうれんそうの収穫				○																	1
帆立の水揚げ		○																			1
まき割り体験	○																				1
まゆ細工		○																			1
みかん狩り			○																		1
みかんジュース作り			○																		1
水なな水耕栽培	○																				1
蜜ローソク作り						○															1
ムラの細道探検隊				○																	1
芽茶作り					○																1
木材山出し	○																				1
野菜種まき	○																				1
落葉収穫	○																				1
ラベンダー作業	○																				1
リンゴの摘花	○																				1
りんどう作業	○																				1
ワーキングホリデー														○							1
和牛飼育体験	○													○							1
わさび作り												○									1
わらじ作り	○																				1
魚のはんぺん作り			○																		1
魚釣り						○															1
湖水浴						○															1
座禅			○																		1
山ぶどうの収穫	○																				1
森林作業体験							○														1
石絵と絵馬作り								○													1
石窯パン焼き体験							○														1
赤かぶ漬け体験								○													1
川遊び					○																1
竹スキー作り		○																			1
鳥の巣箱作り											○										1
釣堀			○																		1
登山						○															1
その他	ナニヤトヤラ		てこね 寿し 作り	阿蘇を さるくツ アー	お手玉 演舞鑑 賞			山北音 話・ 絵本の読 み聞かせ	四万十 川記念 日												6
計	65	35	25	24	22	13	12	10	10	8	6	3	3	0	0	0	0	0	0	0	236

4-2-2 設立の経緯

廃校宿舍の設立までの流れをまとめて表 4-4、4-5 に整理した。

表 4-4 廃校宿舎設立の経緯 1

施設名	山村自然楽校しもなの郷
設立の経緯	・下名地区で過疎化が進み、下名野小学校が平成12年3月に休校となる。 ・この校舎の利用の仕方から、地域の将来などを考えるため、平成14年より定期的な座談会を開く。 ・「地元の新しいコミュニティの場所」「地域住民との交流によって元気になれる場所」をテーマに、宿泊可能な交流施設として平成17年4月に『山村自然楽校しもなの郷』オープン。
施設名	筒川文化センター
設立の経緯	・筒川は旧行政村の名称(与謝郡筒川村)で、昭和29年に合併で伊根町となる。 ・閉校は平成6年。 ・「山の子」活動のような子供集団の形成を目的に、宿泊研修施設としてオープン。
施設名	杣の里よこみち
設立の経緯	・過疎化が進む中で平成2年に左鎧小学校と統合。 ・地域振興の核として後者の活用と振興策を樹立するため、第三セクター(株)杣の里よこみちを立ち上げる。 ・水わさび、山菜などの加工食材と自然環境を生かした都市住民との交流を目的に平成3年6月より営業スタート。
施設名	海ぼうず
設立の経緯	・廃校後、地域のふれあいの場として活用されるが、少子高齢化の中、高台にある施設のため地域住民から敬遠されがちになる。 ・管理も行き届かなくなるが、国土庁の「過疎地域活性化施設整備事業」により廃校を地域活性化・地域住民の福祉向上を目的に宿泊施設としてオープンした。
施設名	スターフォレスト利賀
設立の経緯	・坂上小学校は、平成8年に廃校となる。 ・利賀村では「廃校の利活用に関する調査」を行い、坂上小学校を学生と村民のふれ合うセミナーハウスにしようという考えが、地区の人々に提案された。 ・村の人と学生達との交流、いろいろな大学活動の村での展開、などを細かに話し合い、1998年3月開業となる。
施設名	沼沢湖山荘
設立の経緯	・昭和57年に沼沢小学校が統合により廃校となる。 ・個人やグループ、団体など子供から大人までの幅広い年齢層が金山町沼沢湖周辺観光の受け皿となることを目的に、昭和59年に宿泊施設としてオープンした。
施設名	さんさん館
設立の経緯	・過疎化により1999年に林際小学校が閉校となり、卒業生ら地元有志12人が資金を出し合って設立した「旧林際小学校運営事業組合」が建物の払い下げを受ける。 ・だれでも気軽に泊まれて、豊富な農産漁村体験が出来る宿泊施設として2001年オープンした。
施設名	希望の丘
設立の経緯	・2003年に廃校になった五日市小学校を卒業生や元PTAからなる「旧五日市小学校運営組合」が再活用することになる。
施設名	交流の館八幡
設立の経緯	・1996年に廃校になった、山北町・南中学校の校舎や体育館を利用して、2001年4月に「ふるさと体験の宿 交流の館 八幡(はちまん)」としてオープン。 ・平成18年度より、「さんぽく体験交流企業組合」が指定管理者として、当施設を運営することとなった。
施設名	ふれあいの里 さかもと
設立の経緯	・平成11年に横瀬小学校と統合し、閉校する。 ・地域活性化に向けた跡地利用の検討の結果、「若者と老人向けの宿泊・研修施設」をテーマにグリーンツーリズム事業を行うことになる。 ・町の財政困難により運営が坂本地区住民に任せられ、平成14年にオープン。
施設名	四万十楽舎
設立の経緯	1996年「土佐の教育改革を考える会」にて休・廃校舎活用を提案する。 ・翌年より、村の幹部職員と地域住民とで企画内容を検討し、(社)西土佐環境・文化センター四万十楽舎が発足。 ・リサイクルをモットーに、参加型の環境学習宿泊センターとして1999年4月オープン。
施設名	なみの高原やすらぎ交流館
設立の経緯	・波野村立小池野小学校が2000年に閉校し、阿蘇市より(有)神楽苑が管理委託を受け、管理運営にあたっている。 ・やすらぎ交流空間整備事業(農林水産省)により校舎を増改築し都市と農村の交流施設として小学校を増改築し、平成14年にオープン。

表 4-5 廃校宿舎設立の経緯 2

施設名	いまいち山荘
設立の経緯	・今市小学校が1994年に廃校となり、都市住民との交流による地域活性化のために宿泊研修センターとしてオープンする。 ・オープン当初は野津原町で運営が行われていたが現在は有志の卒業生によって運営がなされている。
施設名	里山交流館
設立の経緯	・平成12年、綾部市によって自然環境と共生する地域づくりを目的に「里山ねっと・あやべ」を設立する。 ・市内外から有識者を招き、地元住民にも参加してもらい、優れた地域資源を活用した非開発型の地域開発のあり方を研究し実践する。 ・そして同年9月に廃校となった小学校を「里山交流研修センター」として再活用する。
施設名	ふるさと体験村 四季の丘
設立の経緯	・2001年に廃校になり、国の農村交流事業によって宿泊施設へと活用されることになる。 ・運営はJAあおぞらで、近くの体験農園とともに活用できるよう、農家の協力のもとに収穫体験などの体験メニューを設定する。
施設名	鈴鹿峠自然の家
設立の経緯	・1979年に坂下小学校が廃校となる。 ・地域活性化に向けた跡地利用の検討の結果、「まなび」をテーマにした「坂下まなびの森構想」のひとつの核として、鈴鹿峠自然の家が営業開始する。
施設名	小国ふる里ふれあい村 楯山荘
設立の経緯	・1991年に小国小学校が廃校となる。 ・その後、地元住民と行政との施設利用に関する会議が行われ、有志の村民によって小国ふる里ふれあい村 楯山荘の管理・運営がスタートした。

多くの施設が「地域住民の要望」によって廃校の活用が行われている。廃校宿舎のような事業は、国土庁（当時）による「過疎地域活性化施設整備事業」などの国による事業の一環として、補助や協力が得られる事も少なくない。

4-2-3 コンバージョンレベル

(1) コンバージョンの方法

学校を宿泊施設へ転用する際には、建築基準法や消防法などの法規定が変わる。そのため、廃校宿舎は、廃校となった建物を改装する必要がある。これらの改装の度合いを、物品・設備の分析における軸の一つとして扱う。そこで、河野学らによる「建築関連法規が廃校後の公立小学校の用途変更に及ぼす影響について：京都市・大阪市・神戸市の場合」⁹⁾を参考に改装方法について図に示す。

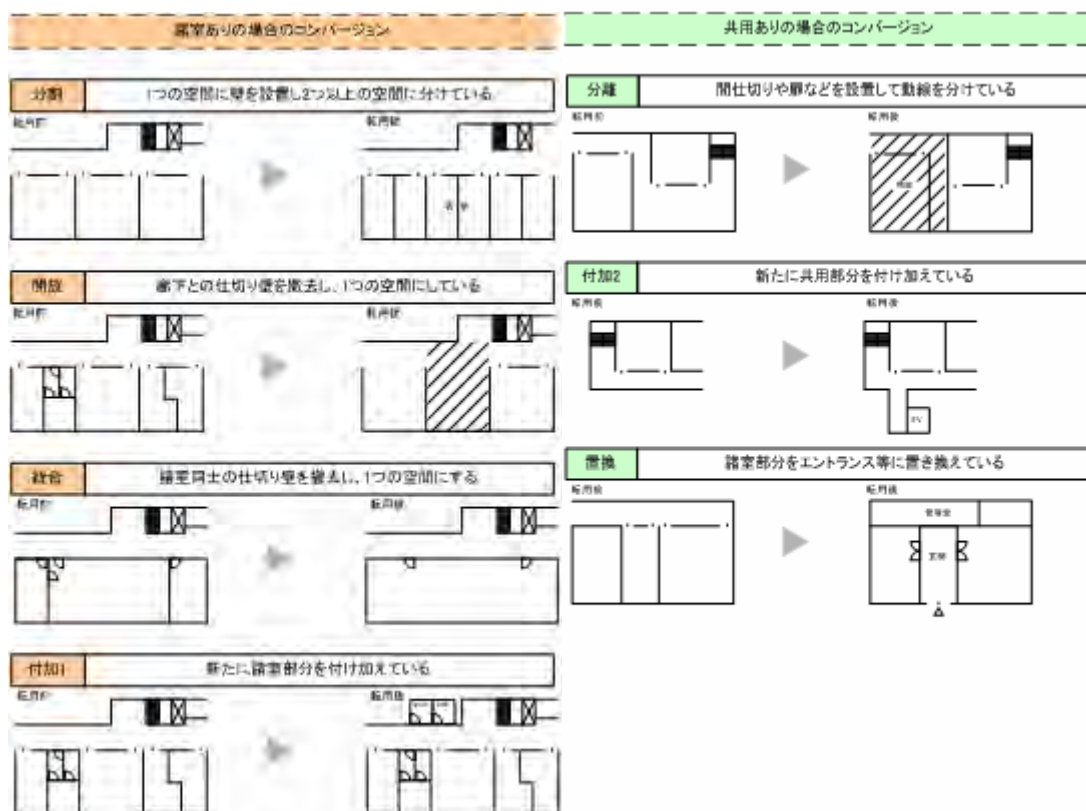


図 4-17 「諸室あり」の場合の改装内容(左) 図 4-18 「共用あり」の場合の改装内容(右)

(2)コンバージョンレベルの設定

調査対象となっている廃校宿舎において、表の改装方法に当たる箇所を 1 箇所 = 1 ポイントとカウントし、コンバージョンのレベルを次のように低・中・高の 3 段階に分類した。

これらを元に調査対象となる 17 の廃校宿舎のレベルを設定し、表に示す。ほとんどの廃校宿舎で浴室が「付加 1」の方法で付け加えられている。これは、旅館業法第 3 条第 2 項¹⁰⁾の規定による旅館営業の施設の構造設備の基準として、「当該施設に近接して公衆浴場がある等入浴に支障をきたさないと認められる場合を除き、宿泊者の需要を満たすことができる適当な規模の入浴設備を有すること。」¹⁰⁾と定められているためである。

表 4-6 調査対象となる廃校宿舍のコンバージョンレベル一覧

コンバージョンレベル	廃校宿舍名	内容	改装場所	箇所	合計
高 当てはまる項目が 9以上	沼沢湖山荘	分割	客室・ラウンジ	10	12
		付加1	浴室	1	
		付加2	浴室廊下	1	
	希望の丘	分割	客室	6	11
		付加1	浴室・エレベーター・オストメイト対応トイレ	3	
		付加2	浴室廊下	1	
		置換	玄関吹き抜け	1	
	海ぼうず	付加1	浴室	2	9
		分割	客室	5	
		統合	ロビー	1	
		分離	食堂	1	
	スターフォレスト利賀	開放	ロビー	1	9
		付加1	浴室	1	
		分割	客室	6	
		付加2	浴室廊下	1	
	ふれあいの里 さかもと	付加1	エレベーター	1	9
		分割	客室・浴室・トイレ・食堂・厨房・事務室	7	
		開放	玄関	1	
中 当てはまる項目が 5～8	山村自然楽校しもなの郷	付加1	浴室	1	8
		分割	客室	2	
		付加2	浴室廊下・ウッドテラス	2	
		統合	食堂	2	
		開放	食堂	1	
	交流の館八幡	付加1	浴室・レストラン	2	7
		分割	客室	5	
	ふるさと体験村 四季の丘	分割	客室	4	6
		統合	会議室	1	
		付加1	浴室	1	
	小国ふる里ふれあい村 楯山荘	統合	食堂	1	5
		付加1	浴室	1	
		分割	客室	1	
		分離	2F廊下	1	
		封鎖	玄関	1	
	里山交流館 本館	置換	玄関	1	5
		分割	玄関・客室	4	
	さんさん館	分割	客室	4	5
		付加1	浴室	1	
低 当てはまる項目が 1～4	四万十楽舎	分割	客室	3	4
		付加1	浴室	1	
	筒川文化センター	分割	客室	2	4
		開放	ロビー	1	
		付加1	浴室	1	
	なみの高原やすらぎ交流館	付加1	浴室・コインランドリー	2	4
		統合	大広間・食堂	2	
	鈴鹿峠自然の家	分割	客室	2	3
		封鎖	玄関	1	
	杣の里よこみち	付加1	浴室	1	2
		開放	ロビー	1	
	里山交流館 別館	分離	図書室	1	1
	いまいち山荘	付加1	浴室	1	1

表を見ると、廃校宿舍の改装の度合いは施設によって様々であることがわかる。「回廊型の校舎が現在では珍しいので、それを残せるような設計にした」¹¹⁾のように学校の構造を生かした上で、最低限の改装工事に留めている施設もあれば、宿泊の快適性を高めるために大幅に改装を行った施設もある。

どの廃校宿舍も、浴室を「付加 1」とし、客室を「分割」の改装をしている。これは、校舎の造りそのものに手を加えず、「学校」の雰囲気を変えないように配慮しているのでは

ないだろうか。これらのことから、廃校を宿泊施設へと転用する際に行われる改装は、建物の構造自体に手を加えるものではなく、「学校に泊まる事が出来る」ための改装であるということがわかる。

最低限の改装工事で済ませている施設は、「宿泊施設」としての要素より「学校」の要素を強調しており、逆に大幅な改装を行った施設は「学校」の要素より「宿泊施設」のとしての要素が前面に押し出されていることがわかる。第五章以降において、これらのタイプと学校物品・設備の関係を見出していく。

4-3 廃校宿舎調査のまとめ、考察

廃校宿舎全体を調査することによって、廃校宿舎を構成する要素を導き出すことが出来る。廃校宿舎の持つ「学校」の面と、「宿泊」の両面から考察し、次のようにまとめる。

- 背景：現在運営されている廃校宿舎の多くは、少子高齢化が進みだした 1980 年代後半から 2000 年前半に廃校になったものである。また、地域住民による廃校活用の要望や地域の観光の受け皿となることが廃校宿舎誕生のきっかけとなる。

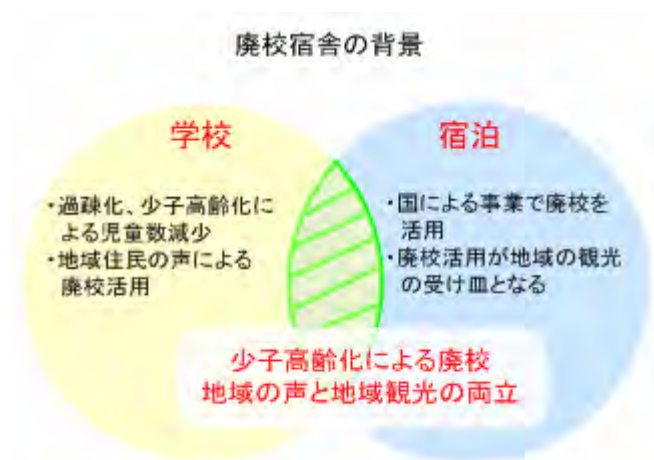


図 4-17 廃校宿舎の背景

- 構造：廃校宿舎は、鉄筋などの非木造の校舎と木造校舎を利用しており、木造の廃校宿舎は木独特の「暖かさ」を廃校宿舎の魅力として売り出している。また、回想法のような医学的な面からの廃校宿舎利用も考えられており、今後貴重な存在となることが予想できる。

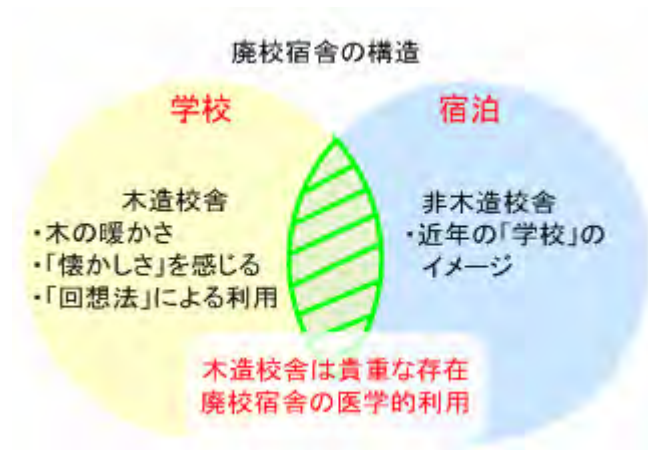


図 4-18 廃校宿舎の構造

- 客室：統計的には、多人数でも対応でき、宿泊以外の使い方の出来る和室が洋室よりも多く設けられている。運営者は、教室利用の客室を謳い文句にしており、「教室に泊まる」という、他の宿泊施設には実現できない体験を魅力として売り出している。

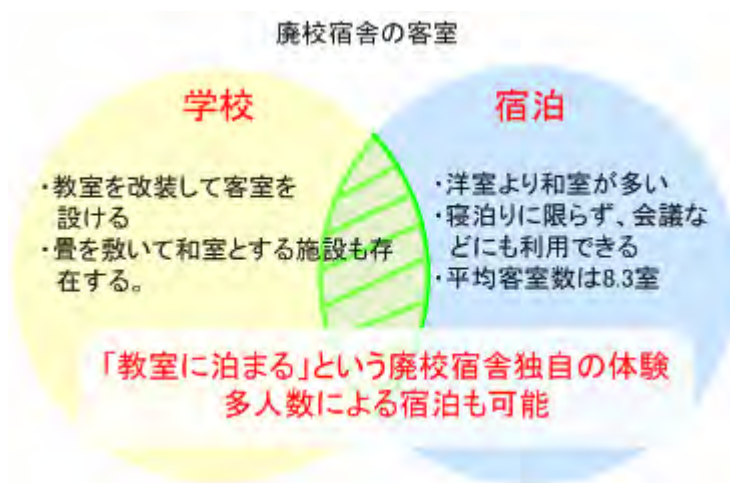


図 4-19 廃校宿舎における客室

- 食事：地元産の食材や郷土料理など、その土地でしか味わえない献立を中心に考えられている。これにより、運営者は地元へ利益をもたらし、客は地元への理解・関心が生まれる。また、自炊形式では通常の宿泊施設では珍しい、他の宿泊客との交流が出来る。

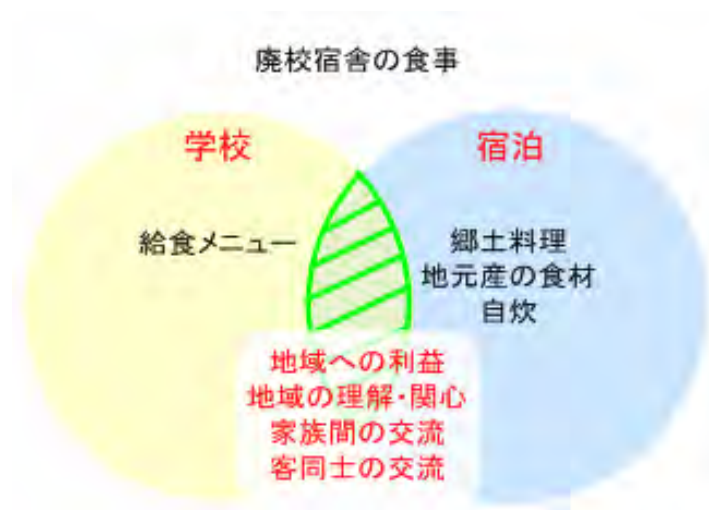


図 4-20 廃校宿舎の食事

- 体験学習：地域住民が都市住民と交流できる数少ない場として重宝されている。また、地域住民を講師に呼んだり、農家とともに収穫体験などを行ったりすることで、地元の雇用促進・地域住民と都市住民との交流にもつながる。

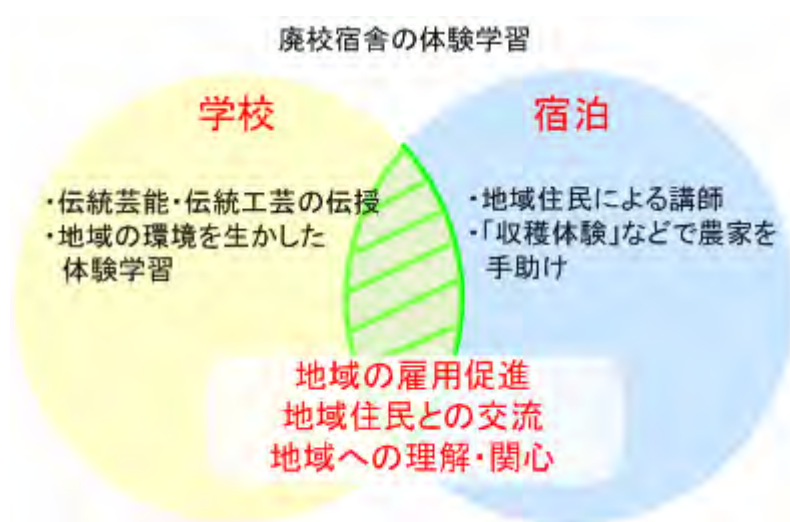


図 4-21 廃校宿舎の体験学習

- コンバージョン：コンバージョンレベルの違いは廃校宿舎の特徴を大きく左右するものである。レベルの高い施設は「宿泊施設」としての要素を重視し、快適性や清潔感を、レベルの低い施設は「学校」としての要素を重視し、学校そのものの造りを大事にしているのではないか、と推察できる。

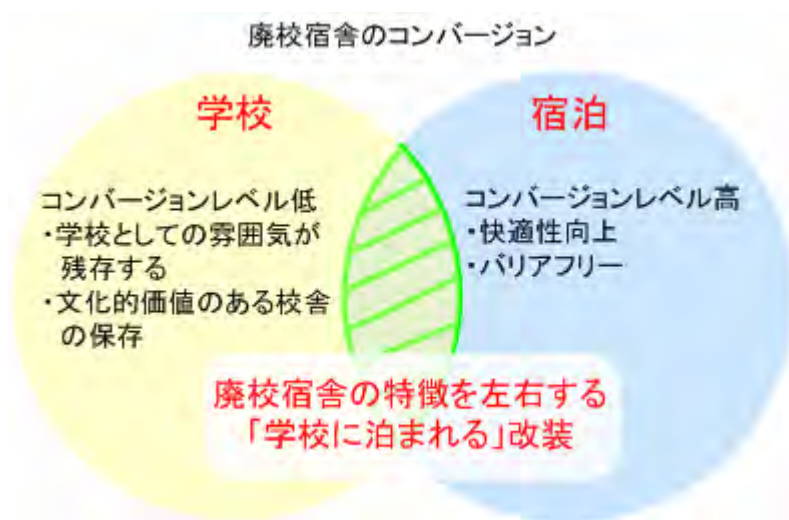


図 4-22 廃校宿舎のコンバージョン

これらの廃校宿舎の要素と、廃校宿舎の特徴が顕著に現れると予測できる、コンバージョンレベルを基に、次章より現在運営中の廃校宿舎において残存する学校物品・設備から、廃校宿舎の特徴を考察する。

【第四章 引用文献リスト】

- 1) 文部科学省施設助成課:余裕教室・廃校施設の有効活用
< http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyosei/yoyuu.htm >2007-12-23
- 2) 講談社:週刊現代 2007 年 8 月 11 日号,同社発行,1-11(2007)
- 3) 今野義孝,上杉喬:懐かしさの感情体験に及ぼす動作法による快適な心身の体験の効果 : 脳波の快適度と感情イメージ尺度による検討,人間科学研究,25,63-72,2003
- 4) 旧五日市小学校運営組合:ユニバーサル交流&農林業体験<学校の宿>希望の丘
< <http://www.ashiro.net/~kibounooka/> >,2007-12-23
- 5) 海ぼうず運営委員会:ふれあいと体験の館海ぼうず 館内のご案内
< <http://www.amigo2.ne.jp/~seakids/> >,2007-12-23
- 6) いまいち山荘管理人,2007-8-30,私信
- 7) ㈱杣の里よこみち:杣の里よこみち 体験
< <http://www.sun-net.jp/~soma-st/taiken.htm> > ,2008-1-20
- 8) ふれあいの里さかもと:ふれあいの里さかもと イベント情報
< <http://fureai-sakamoto.hp.infoseek.co.jp/> > ,2008-1-20
- 9) 河野学,吉村英祐,横田隆司,飯田匡:建築関連法規が廃校後の公立小学校の用途変更に及ぼす影響について : 京都市・大阪市・神戸市の場合,日本建築学会計画系論文集,(609),47-52,2006
- 10) 法庫:旅館業法施行令第3条第2項
< <http://www.houko.com/00/02/S32/152.HTM> > ,2008-1-21
- 11) 四季の丘管理人,2007-9-3,私信

第五章 物品・設備調査の結果

本章では著者が調査施設に赴き撮影した、廃校宿舎における物品・設備の写真をデータとして、廃校宿舎内の機能空間別に物品・設備の配置や様子について考察する。各機能空間別に論じ、最後に地域と廃校宿舎について述べる。

5-1 調査結果概要

対象となっている 17 の廃校宿舎に残存・活用されている物品・設備を調査した。物品・設備の設置場所については調査中に立ち入りの許された場所で、個数は目視で確認出来る範囲とした。あくまで宿泊客が利用する、利用できる空間を調査対象としているため、施設外にある倉庫内等の物品・設備は調査範囲外となる。

調査期間や物品・設備の個数等は表 5-1 の通りである。なお、物品の中で正確な数を確認できないものの値を「多数」と表記するが、これは総数には含まれない。以下の調査結果・分析についても同様とする。

表 5-1 物品・設備調査の概要

施設の数(箇所)	17
調査期間	2007/7/22～9/10
写真の枚数(枚)	2682
総物品・設備数(個)	699
物品・設備の平均個数(個)	41
物品・設備の総品目数(品目)	123

5-1-1 物品・設備総数

物品・設備の数とその内訳を施設別に集計したものを図 5-1 に示す。なお、系列の値である物品・設備の数量が 5 未満のものは、表記の都合上、まとめて「その他」と記した。

また、廃校宿舎『里山交流館』は、本館と別館の物品・設備数に差があるため、便宜上『里山交流館本館』、『里山交流館別館』と分けて表記する。以降の図表に関しても同様である。

図 5-1 を見ると、物品・設備は「児童用椅子」「児童用机」「黒板大」など、「学校」というイメージから容易に想像できる内容のものが多く存在している。また、「卒業生の作品」も幅広い施設において存在している。このような物品・設備が残されているのは、「思い出があり、地域からも『残してほしい』という声がある物は簡単に捨てられないので、学校の宿舎ならではの使い方を模索している。」¹⁾という運営者の戦略や地域の意向によるものが大きいとされる。

また、それぞれの廃校宿舎における物品・設備には全体的に大きな差があることがわかる。これには物品・設備を残そうとする運営者の意向だけが要因としては考えに

くい。ある廃校宿舎に筆者が訪れた際にも、部屋の一角に様々な学校物品が高く積み
られているのを目にしたことがある。このように、残されている物品・設備すべてが何
らかに活用されているのではなく、廃校を宿泊施設に転用する作業の中で結果的に残
ってしまったものも存在する。

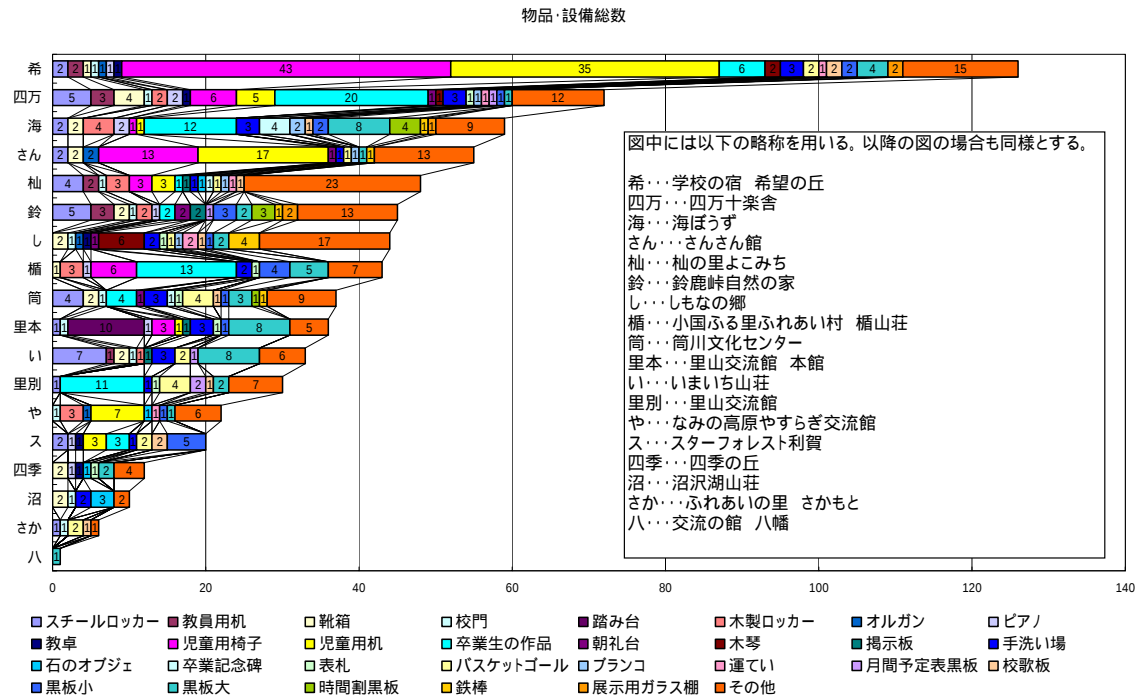


図 5-1 調査対象施設における学校時代の全物品・設備数

5-1-2 物品・設備品目

調査の結果、確認することの出来た物品・設備の品目を表 5-2 から表 5-17 にかけて
示す。また、番号付の写真は調査した物品・設備の代表的なものとし、撮影日時は
2007-7-22～2007-9-10 で、撮影は全て著者によるものである。

表 5-2 物品の品目（楽器類）

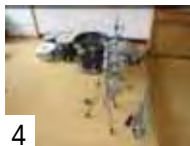
楽器類		
1	エレクトーン	
2	オルガン	
3	ギター	
4	ドラムセット	
5	トランペット	
6	木琴	
7	鉄琴	
8	ピアノ	

表 5-3 物品の品目（椅子・机類）

椅子・机類		
9	教員用椅子	
10	教卓	
11	教員用机	
12	児童用椅子	
13	児童用机	
14	図工用椅子	
15	パイプ椅子	
16	長机	

表 5-4 物品の品目（掲示物）

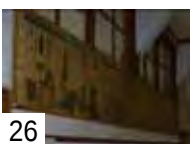
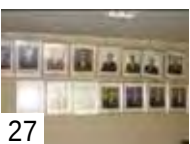
掲示物				
17	「話し合いの仕方」貼紙			
18	音楽家肖像画	1	18	19
19	学校年表			
20	教育目標	20	21	22
21	日本地図			
22	宮城県地図	23	24	25
23	地域年表			
24	標語	26	27	28
25	地図模型			
26	歴史年表	29		
27	歴代校長写真			
28	時間割表			
29	世界地図			

表 5-5 物品の品目（トロフィー類）

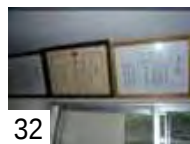
トロフィー類				
30	トロフィー			
31	盾	30	31	32
32	表彰状			
33	横断幕	33	34	
34	校旗			

表 5-6 物品の品目（調理器具）

調理器具	
35	調理器具(皿かご)
36	調理器具(食かん)



35



36

表 5-7 物品の品目（教材）

教材	
37	ものさし
38	三角定規
39	顕微鏡
40	人体模型
41	電動のこぎり
42	図書室の本
43	イーゼル
44	プロジェクター
45	鉛筆削り

37

38

39

40

41

42

43

44

45

表 5-8 物品の品目（体育用具）

体育用具	
46	ハードル
47	ボール類
48	綱引き用綱
49	卓球台

46

47

48

49

表 5-9 物品の品目（卒業記念品）

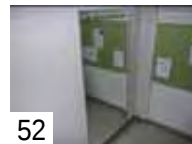
卒業記念品	
50	卒業アルバム
51	卒業記念写真
52	卒業記念の鏡
53	卒業生の作品



50



51



52



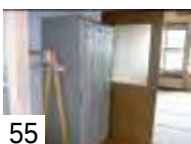
53

表 5-10 物品の品目（ロッカー類）

ロッカー類	
54	木製ロッカー
55	スチールロッカー
56	木製棚



54



55



56

表 5-11 物品の品目（その他物品）

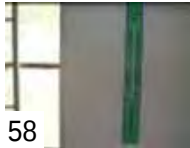
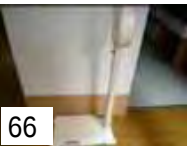
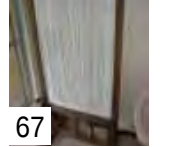
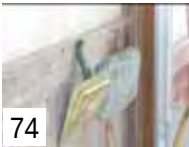
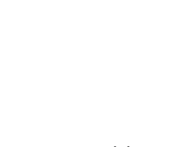
その他物品				
57	移動型黒板			
58	温度計	57	58	59
59	鏡			
60	靴箱	60	61	62
61	黒板消し			
62	ゴミ箱	63	64	65
63	身長測定器			
64	テレビ	63	64	65
65	ソファ			
66	体重計	66	67	68
67	パーテーション			
68	電話機	69	70	71
69	踏み台			
70	ベンチ	72	73	74
71	木製ベンチ			
72	ベル			
73	朝礼台	72	73	74
74	ちりとり			

表 5-12 設備の品目(遊具類)

遊具類				
75	サッカーゴール			
76	シーソー	75	76	77
77	ジャングルジム			
78	タイヤ	78	79	80
79	バスケットゴール			
80	バックネット	81	82	83
81	ハンドボールゴール			
82	ブランコ	84	85	86
83	上り棒			
84	鉄棒	87	88	89
85	木製アスレチック			
86	滑り台	90		
87	砂場			
88	回旋塔			
89	プール			
90	運てい			

表 5-13 設備の品目(黒板類)

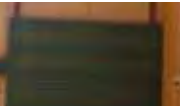
黒板類 (設備)				
91	黒板小			
92	黒板大	91	92	93
93	五線譜黒板			
94	月間予定表黒板	94	95	96
95	時間割黒板			
96	連絡用黒板			

表 5-14 設備の品目(像・オブジェ類)

像・オブジェ類				
97	石のオブジェ			
98	二宮金次郎石像	97	98	99
99	二宮金次郎銅像			
100	裸婦銅像			
101	閉校記念碑	100	101	102
102	新築記念碑			
103	卒業記念碑			
104	日時計	103	104	

表 5-15 設備の品目(放送設備)

放送設備			
105	「放送中」灯		
106	スピーカー	105	106

表 5-16 設備の品目(シンボル)

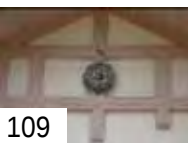
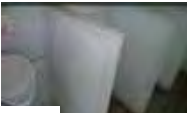
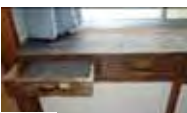
シンボル				
107	表札			
108	校歌板	107	108	109
109	校章			
110	校門			
		110		

表 5-17 設備の品目(その他設備)

その他設備				
111	階層表示電灯			
112	金属製窓枠	111	112	113
113	掲示版			
114	児童用便器	114	115	116
115	焼却炉			
116	時計	117	118	119
117	百葉箱			
118	フック	120	121	122
119	薪ストーブ			
120	木製引き出し	120	121	122
121	木製窓枠			
122	手洗い場			
123	展示用ガラス棚			

5-1-3 系統(校具・教具)について

「小学校設置基準（平成十四年三月二十九日文部科学省令第十四号）最終改正：平成一九年三月三〇日文部科学省令第五号」²⁾より一部抜粋する。

第十条 小学校には、校舎及び運動場のほか、体育館を備えるものとする。ただし、地域の実態その他により特別の事情があり、かつ、教育上支障がない場合は、この限りでない。

第十一条 小学校には、学級数及び児童数に応じ、指導上、保健衛生上及び安全上必要な種類及び数の校具及び教具を備えなければならない。

2 前項の校具及び教具は、常に改善し、補充しなければならない。

第十一条の「校具及び教具」という呼称によって、物品・設備を更に細分化することが出来る。本研究では以下のように使い分けることとする。

校具・・・学校に備え付けてある用具。必ずしも児童・生徒らの学習に使用するとは限らない。

教具・・・教授・学習を効果的に行うために使用する道具。掛図・標本などのほか、テ

レビ・ビデオ・パソコンなど。

これを元に前節で述べた品目を細分化し、表 5-18 に示す。表を見ると、廃校宿舎においては他の目的に活用できる校具より、学習用に備えられた教具の方が、品目数だけに注目しても多く残存していることがわかる。物品における教具の品目を見ると、「掲示物」や「トロフィー類」のカテゴリーの物品が目立つ。校具の欄にはカテゴリーに偏りはないものの、ロッカー類や靴箱などの収納機能を持つ実用的な物品が多いことが分かる。

表 5-18 物品における校具・教具の分類

物品			
校具		教具	
ゴミ箱	校旗	オルガン	児童用椅子
スチールロッカー	校章	ちりとり	児童用机
ソファ	校門	ギター	時間割表
テレビ	児童用便器	トロフィー	盾
ドラムセット	卒業記念の鏡	パーテーション	身長測定器
トランペット	調理器具(皿かご)	パイプ椅子	人体模型
ベンチ	調理器具(食かん)	プロジェクター	図工用椅子
ハードル	電話機	ベル	図書室の本
鉛筆削り	踏み台	ボール類	世界地図
温度計	木製ベンチ	ものさし	卒業アルバム
教員用椅子	木製ロッカー	移動型黒板	卒業記念写真
教員用机	木製棚	ピアノ	卒業生の作品
鏡	歴代校長写真	横断幕	体重計
靴箱		音楽家肖像画	卓球台
		学校年表	地域年表
		宮城県地図	地図模型
		教育目標	朝礼台
		教卓	長机
		顕微鏡	鉄琴
		「話し合いの仕方」貼紙	電動のこぎり
		イーゼル	日本地図
		エレクトーン	標語
		綱引き用綱	表彰状
		黒板消し	木琴
		三角定規	歴史年表

表 5-19 を見ると、教具には、遊具類や黒板類が多く見受けられる。校具の方は卒業記念碑や裸婦銅像などの「像・オブジェ類」が目立つ。

表 5-19 設備における校具・教具の分類

設備			
校具		教具	
木製引き出し	新築記念碑	バスケットゴール	黒板小
木製窓枠	薪ストーブ	バックネット	黒板大
裸婦銅像	時計	ハンドボールゴール	砂場
階層表示電灯	手洗い場	プール	時間割黒板
スピーカー	石のオブジェ	ブランコ	上り棒
「放送中」灯	卒業記念碑	運てい	連絡用黒板
掲示板	表札	滑り台	鉄棒
金属製窓枠	閉校記念碑	回旋塔	展示用ガラス棚
焼却炉	フック	タイヤ	二宮金次郎石像
		サッカーゴール	二宮金次郎銅像
		シーソー	日時計
		月間予定表黒板	木製アスレチック
		五線譜黒板	百葉箱
		校歌板	ジャングルジム

5-2 廃校宿舍の空間における物品・設備の分析

5-2-1 物品・設備の活用法一覧について

現地調査によって確認できた 699 の物品・設備の、宿泊施設となった現在における「活用法」を整理した。物品・設備は品目名が同じでも、設置されている部屋や場所等の空間によって扱われ方が異なってくる。例として図 5-2 のように、客室にある黒板大は利用客向けに使われているが、木工室の黒板大には運営者側から利用客に向けて木工体験に関する情報提供がなされている。このように同じ「黒板大」という品目の物品でも複数の活用法が存在する。



図 5-2 宿泊客が自由に使える客室の黒板大(左)(2007-8-19 楯山荘にて著者撮影)予め木工体験の案内が書かれた木工室の黒板大(右)(2007-8-25 四万十楽舎にて著者撮影)

そこで、物品・設備の活用法を、それぞれが設置されている場所と合わせて整理した。その結果、図 5-3 に示した通り、活用法は「宿泊」「運営」「鑑賞」の大きな 3 タイプに分けられることが分かった。



図 5-3 3つのタイプに分けられる物品・設備の活用法

- 宿泊タイプ：主に客が宿泊や体験学習を行う際に使用するもの。
- 運営タイプ：主に廃校宿舎を運営する上で必要なものや、運営を効率的に行うためのもの。
- 鑑賞タイプ：主に物品・設備を直接何かに使用するのではなく、鑑賞することを目的として設置されているもの。

さらに、「宿泊」「運営」両方に属する物品・設備があり、その場合、以下のように判別する。

- ・ 物品・設備を、客が使う頻度が運営者より高い場合、「**宿泊・運営タイプ**」と称する。
- ・ 物品・設備を、運営者が使う頻度が客より高い場合、「**運営・宿泊タイプ**」と称する。

なお、「不明・その他」は活用法が不明な物品・設備であり、活用法が「—」となっ

ている箇所は、「木製窓枠」「児童用便器」のように、取り立てて活用法を表記する必要のないものが属する。以下に3つの活用タイプにおける物品・設備の活用例を示す。

表 5-20 物品・設備の活用法の具体例(宿泊タイプ)

「宿泊」タイプ	活用例	
客用	客室にテーブル代わりに置かれた児童用椅子・机。 (希望の丘 2007.8.20著者撮影) 	玄関に客用に置かれた靴箱。 (海ぼうず 2007.8.8著者撮影) 
休憩用	廊下に休憩用に設置された児童用椅子・机。 (希望の丘 2007.8.20著者撮影) 	
団体宿泊用	合宿などの点呼に使われている朝礼台。 (鈴鹿峠自然の家 2007.8.7著者撮影) 	
宿泊・運営タイプ		
客用・清掃用	廊下に設置されている手洗い場。客・運営者共に利用するが、客の方が運営者より使う頻度が高いため、この場合の活用タイプを「宿泊・運営タイプ」と表記する。 (小国ふる里ふれあい村楯山荘 2007.8.17著者撮影) 	

表 5-21 物品・設備の活用法の具体例(鑑賞タイプ)

「鑑賞」タイプ	
花瓶置き	廊下の一角に花瓶置きとして設置されている児童用椅子。 (希望の丘 2007.8.20著者撮影) 
鑑賞用	体育館に鑑賞用として設置された卒業生の作品。(スターフォレスト利賀 2007.8.12 著者撮影)  校庭の隅に設置されている二宮金次郎銅像 (しもなの郷 2007.8.24著者撮影) 
書庫	物置に残されていたスチールロッカー。中には書類が収納されている。 (筒川文化センター 2007.7.22著者撮影) 
使用不可	「使用不可」の張り紙がされた運てい。 (杣の里よこみち 2007.8.3著者撮影) 

表 5-22 物品・設備の活用法の具体例(運営タイプ 1)

「運営」タイプ	活用例
ごみ焼却用	玄関付近に設置された焼却炉。撮影時も煙突から煙が上がっていた。 (沼沢湖山荘 2007.8.18著者撮影) 
ゴミ入れ	管理人室入り口付近に設置されていたゴミ箱。「2学級」の文字あり。 (杣の里よこみち 2007.8.3著者撮影) 
バリケード	施設裏への進入を妨げるためのハードル。 (鈴鹿峠自然の家 2007.8.7著者撮影) 
ポスト置き	ポスト置きのために校舎入り口に設置された児童用机。 (スターフォレスト利賀 2007.8.12著者撮影) 
作業用	木工室に作業用に設置されている電動のこぎり。 (杣の里よこみち 2007.8.3著者撮影) 

表 5-23 物品・設備の活用法の具体例(運営タイプ 2)

「運営」タイプ	活用例
調理器具入れ	調理器具などを入れているスチールロッカー。 (里山交流館 2007.9.10著者撮影) 
調理用	調理室に置かれていた食缶。 (杣の里よこみち 2007.8.3著者撮影) 
電話置き	電話置きとして活用されている児童用机。 (スターフォレスト利賀 2007.8.12著者撮影) 
放送用	廊下に設置されている「放送中」のランプ。 (四万十楽舎 2007.8.25著者撮影) 
用具入れ	廊下の奥に設置された用具入れのスチールロッカー。 (いまいち山荘 2007.8.30著者撮影) 

表 5-24 物品・設備の活用法の具体例(運営タイプ 3)

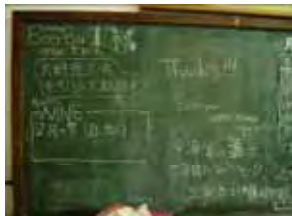
「運営」タイプ		活用例	
事務用	事務室前に設置されている月間予定表黒板。 (いまいち山荘 2007.8.30著者撮影) 		
情報提供	食堂に設置されている客への情報提供を行っている黒板大。(小国ふる里ふれあい村楯山荘 2007.8.17著者撮影) 	廊下に設置されている掲示板上には運営者への感謝の言葉が綴られたカードが張られていた。(鈴鹿峠自然の家 2007.8.7著者撮影) 	
食事用	食堂に置かれていた皿かご。 (四万十楽舎 2007.8.25著者撮影) 		
運営・宿泊タイプ			
清掃用	廊下に掛けられていたちりとり。運営者が使う頻度が客より高いため、「運営・宿泊タイプ」と称する。 (鈴鹿峠自然の家 2007.8.7著者撮影) 		

表 5-25 物品・設備の活用法の具体例(不明・その他)

不明・その他	活用例
不明	物置に立て掛けられていた学校の表札。 (筒川文化センター 2007.7.22著者撮影) 
—	施設内に残っている金属製の窓枠。 (海ぼうず 2007.8.8著者撮影) 

次の図 5-4 は、物品・設備の活用タイプの数を表したもので、これを見ると、宿泊タイプと鑑賞タイプがほとんどの割合を占めていることがわかる。つまり、廃校宿舎に設置されている学校物品・設備は、主に利用客向けの物であり、施設内部のインテリアや校庭の石像に見られる鑑賞タイプも、利用客へ向けて、学校のイメージを呼び起こさせるものとなっている。

運営タイプは数こそ少ないものの、活用法の種類は多様であり、運営者は廃校宿舎を運営していく上で必要最低限の物品・設備を、リユース(Reuse)して活用することを心がけているのではないかと考えられる。

次項より「宿泊」「運営」「鑑賞」の3タイプについてそれぞれ考察を行う。

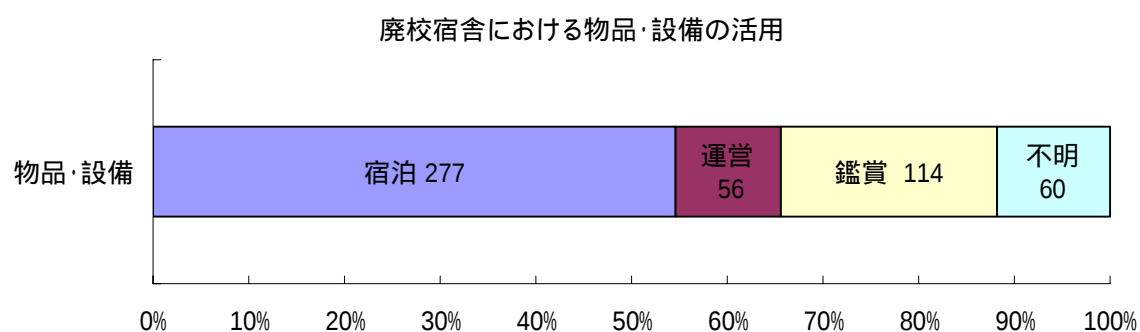


図 5-4 廃校宿舎における物品・設備の活用タイプ

(1)物品・設備の活用法のタイプ「宿泊」

宿泊タイプの物品・設備は、主に客が宿泊や体験学習を行う際に使用するものとする。

宿泊タイプに分類される物品・設備と、その活用法は以下の図 5-5 の通りである。図より、客室における物品・設備の活用法はほぼ「客用」と判断できる。また、客室は教室を利用している施設が多いため、その名残からか「黒板大」「黒板小」「児童用机・椅子」が多くを占める結果となった。

唯一「宿泊・運営」タイプに属する設備が「手洗い場」である。これは学校時代から廊下に設置されている施設が多く、宿泊施設となった現在でもその姿を見ることが出来る。

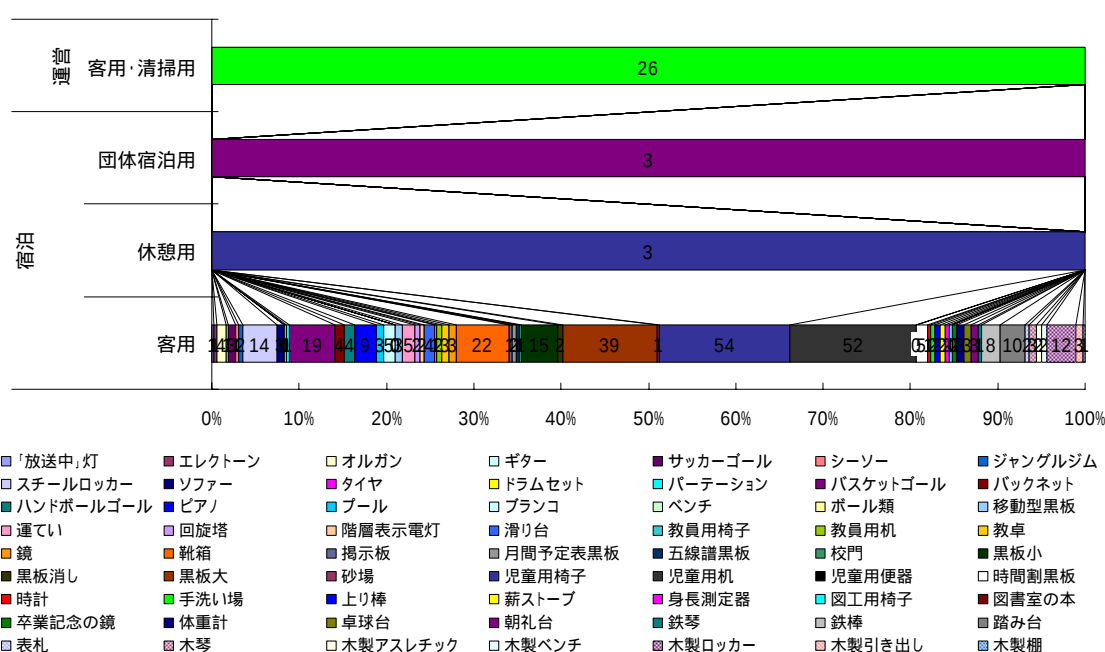


図 5-5 宿泊タイプにおける物品・設備の活用法

このように宿泊タイプの物品・設備の特徴は、黒板や机・椅子等といった一目で学校を連想させるものであり、それらは「客用」として、客が自由に使えるようになっている。

(2)物品・設備の活用法のタイプ分け「運営」

運営タイプの物品・設備は主に廃校宿舎を運営する上で必要なものや、運営を効果的に行うためのものである。また、通常は運営者のみが使用する物品・設備だが、時として客も使用するものは「運営・宿泊」タイプと表す。運営タイプの物品・設備と

その活用法を以下の図 5-6 に示す。

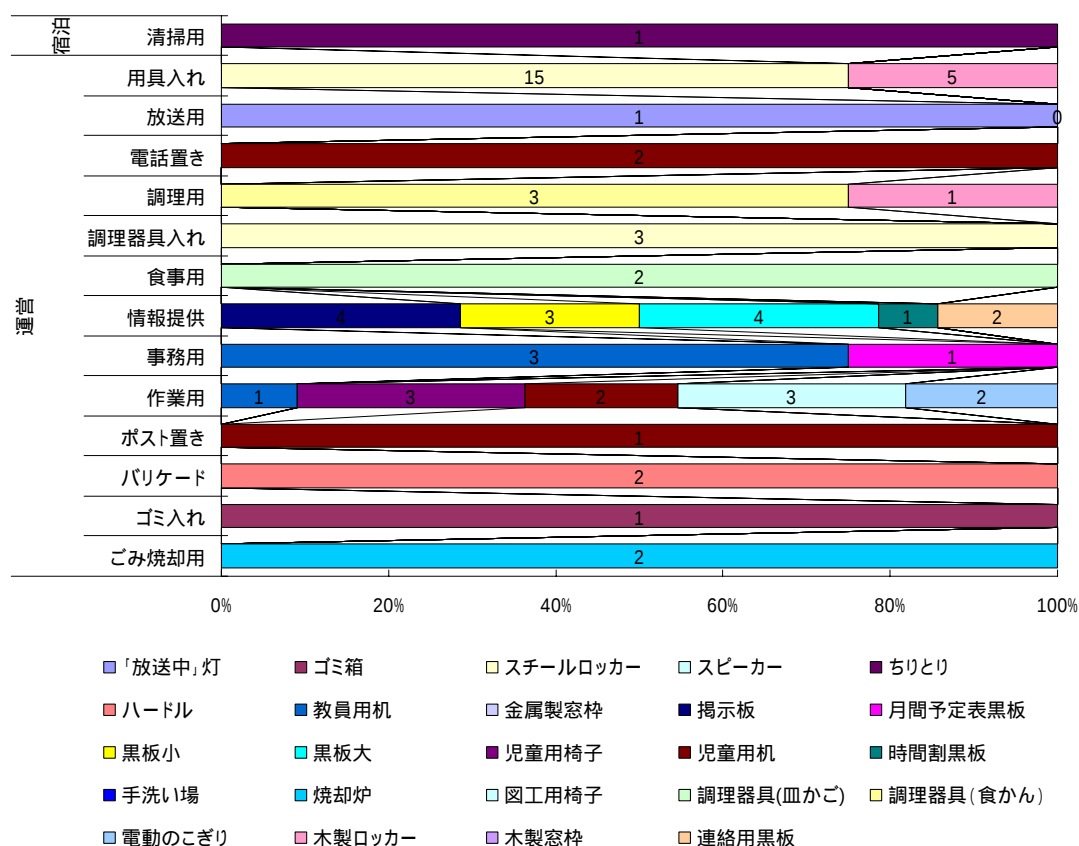


図 5-6 運営タイプにおける物品・設備の活用法

図 5-6 からわかるように、物品・設備の品目に関しては黒板類や椅子・机のように、宿泊タイプとあまり変わらない。しかし、活用法を見ると「情報提供」「用具入れ」「放送用」「作業用」といったように、客向けではなく、運営や管理に関わる使い方をしていくことが分かる。

今回の調査で「運営・宿泊」タイプと判断された物品が、『鈴鹿峠自然の家』の廊下に設置されていた「ちりとり」である。これは管理人へのヒアリングで明らかになったことで、「団体に宿泊されたお客様が、出発前に部屋や廊下を掃除して下さる事がある」³⁾といったように、箒やちりとりなどの掃除用具は客も使用する場合があるためである。

運営タイプの物品・設備の特徴は、黒板などを用いて客へ自施設の案内を行う「情報提供」やロッカーをさまざまな物品を収納する「用具入れ」として活用するなど、宿泊タイプと同じ物品・設備を運営者向けに用いている。また、掃除用具については運営者だけでなく客が施設への感謝の意を持って使用することがある。

(3)物品・設備の活用法のタイプ分け「鑑賞」

物品・設備を直接使用するのではなく、鑑賞することを目的としたものを鑑賞タイプと呼ぶ。その物品・設備の種類は図 5-7 の通り、「卒業生の作品」「校歌板」「校門」のように、学校ゆかりのものが多いことがわかる。

前章の廃校宿舍の設立の経緯で述べた『『学校を残したい』という地域住民や卒業生の思い』が形となって残されており、これらの物品・設備は学校の歴史を刻むものであり、卒業生や教職員にとって「懐かしさ」や「郷愁」といった感情を呼び起こせるものである。

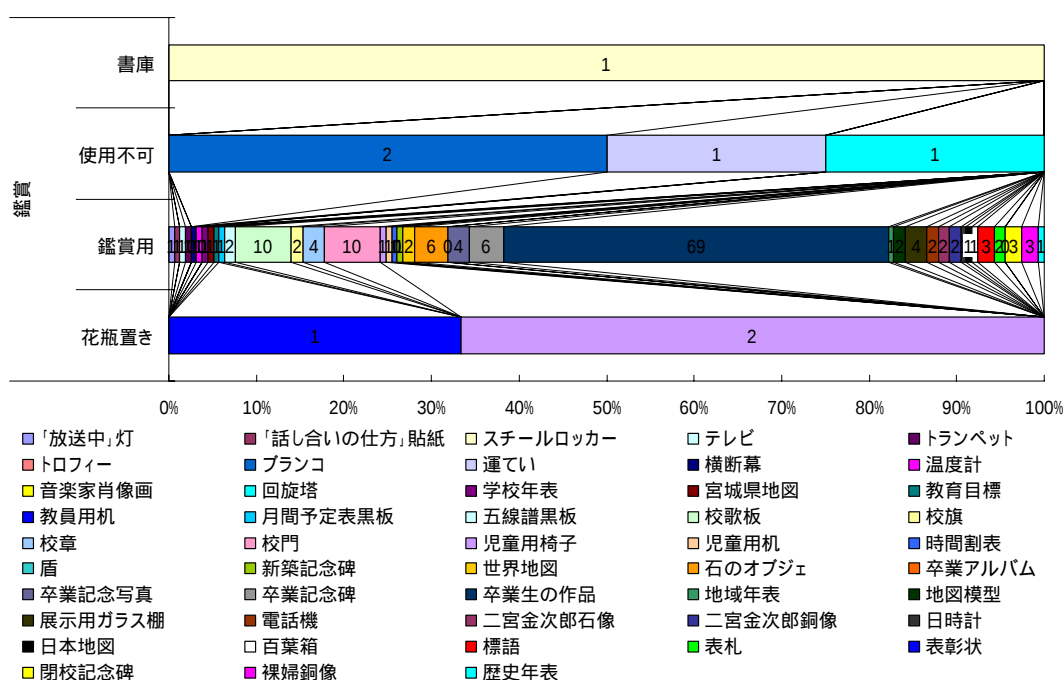


図 5-7 鑑賞タイプの物品・設備活用法

鑑賞タイプの物品・設備の特徴は、学校のシンボルとなっているものであり、これらは卒業生や教職員のような学校にゆかりのある者には懐かしく、遠方からの宿泊客のようにゆかりのない者に対しても、学校を知ってもらう機会として役立っている。

5-2-2 廃校宿舍が重視するサービスについて

物品・設備を分析するに当たって、物品・設備の系統や活用法だけでなく、廃校宿舍独特の要素である体験学習をクロス集計の軸の一つとして扱う。17 の廃校宿舍を、体験学習メニューの有無に応じて、「体験学習重視型」「宿泊重視型」と分類する(表 5-26)。これをもとに、体験学習メニューと物品・設備の関係を考察する。

表 5-26 重視するサービスによって廃校宿舍を分類

型名	施設名
体験学習重視型	山村自然楽校しもなの郷
	杣の里よこみち
	海ぼうず
	スターフォレスト利賀
	沼沢湖山荘
	さんさん館
	希望の丘
	交流の館八幡
	ふれあいの里 さかもと
	四万十楽舎
	なみの高原やすらぎ交流館
	里山交流館
	ふるさと体験村 四季の丘
宿泊重視型	筒川文化センター
	鈴鹿峠自然の家
	小国ふる里ふれあい村 楯山荘
	いまいち山荘

5-3 廃校宿舍景観の現状

廃校宿舍の構成要素を抽出するために、廃校宿舍内および校庭などの敷地内の部屋や場所における景観(以降廃校宿舍景観と呼ぶ)の把握を行う。そこで、廃校宿舍が有する部屋や場所等の空間ごとに分け、廃校宿舍に存在する学校物品・設備を系統・施設のコンバージョンレベル・活用タイプなどによって分析・考察する。

5-3-1 空間の機能(宿泊・接客・会議・娯楽・共用・食事)について

廃校宿舍の物品・設備と、客室や廊下などの「空間」との関係性を考察するために、生活財生態学⁴⁾の家庭機能を参考にし、廃校宿舍が持つ機能を次の6つに整理した。

表 5-27 廃校宿舍における6つの空間

空間の名称	説明	部屋・場所
「接客」	客を招き入れるところ。	玄関
「宿泊」	客が寝泊りするところ。	客室
「食事」	客が食事をするところ。	食堂、調理室
「会議」	会議や研修を行うところ。	会議室、談話室
「娯楽」	客が娯楽を楽しむところ。	体育館、校庭
「共用」	各部屋を行き来できるところ。	廊下

これら 6 つの機能は調査対象の 17 施設すべてに備わっているものである。次節より、この 6 つの機能を果たしている空間とそこに設置されている物品・設備との関係について論じる。

5-4 「接客」

5-4-1 玄関景観

玄関は、客が廃校宿舎に訪れた際、最初に通る場所であり施設の第一印象を決める、言わば廃校宿舎の顔である。また、ここでは世話になる施設のスタッフと接触し、チェックインや、出発時の会計などの手続きを行う場所でもある。

なお、玄関景観の物品・設備における分析の概要は以下のとおりである。

表 5-28 玄関景観の物品・設備における分析の概要

	対象施設 (玄関において学校物品・設備が確認できた施設を対象とする)												
玄関概要 物品・設備数	筒川文化センター	海ぼうず	利賀ト	スターフォレス	ふれあい村山荘	さんさん館	希望の丘	しもなの郷	四万十楽舎	いまいち山荘	四季の丘	里山交流館本館	計
1F玄関	2	7	1	3	2	5	2	4	4	2	1	33	



図 5-8 いまいち山荘玄関(左)(2007-8-30) 図 5-9 さんさん館玄関(右)(2007-8-19)両写真とも著者撮影



図 5-10 希望の丘玄関(左)(2007-8-20) 図 5-11 筒川文化センター玄関
(右)(2007-7-22)両写真とも著者撮影

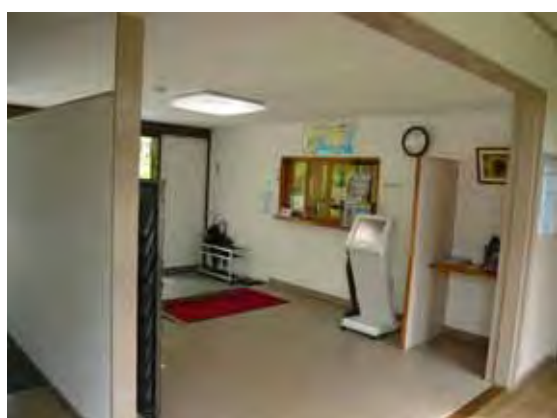


図 5-12 里山交流館玄関(左)(2007-9-10) 図 5-13 四季の丘玄関(右)(2007-9-3)両写真
とも著者撮影



図 5-14 四万十楽舎玄関(左)(2007-8-25) 図 5-15 しもなの郷玄関(右)(2007-8-24)両写
真とも著者撮影



図 5-16 小国ふる里ふれあい村楯山荘玄関(左)(2007-8-17) 図 5-17 スターフォレスト利賀玄関(右)(2007-8-12)両写真とも著者撮影



図 5-18 海ぼうず玄関(右)(2007-8-8)著者撮影による

5-4-2 玄関における物品・設備の分析

(1) 玄関における物品・設備

玄関における物品・設備を表 5-29 に示す。なお、このグラフは玄関にて 5-1-2 で記した物品・設備の品目が確認された施設のみを対象としている。以降の図表もこの通りとする。

土足禁止の施設の玄関は、図 5-8 のように靴を脱ぐ場が必ず用意されている。そこには来客用の靴を収納する「靴箱」の存在が不可欠となる。それは廃校宿舎が宿泊施設の形を取る前も同じことであり、表 5-27 を見ると、一部の施設を除いてほとんどの施設に、学校時代の靴箱が設置されていることが分かる。

玄関には靴箱以外にも「校歌板」「校旗」「卒業生の作品」のような学校を象徴するものや、その他の細々とした物品・設備が見られるが、著者が現地に訪れてみたところ、整理整頓がなされていて、全体的にすっきりとした印象を受けた。

表 5-29 玄関における物品・設備数

	筒川文化センター	海ぼうず	スタッフフォレスト利賀	楯山荘	さんさん館	希望の丘	しもなの郷	四万十楽舎	いまいち山荘	四季の丘	里山交流館本館	計
靴箱	2	2		1	2	1	2	4	2			16
木製ロッカー				2								2
連絡用黒板		1										1
裸婦銅像										1		1
トランペット						1						1
電話機											1	1
手洗い場									1			1
地図模型		1										1
卒業生の作品		1										1
スチールロッカー									1			1
児童用机			1									1
児童用椅子						1						1
黒板小						1						1
校旗		1										1
校歌板						1						1
教育目標		1										1
石のオブジェ										1		1
計	2	7	1	3	2	5	2	4	4	2	1	33

(2) 玄関における物品・設備の系統の分析

次に、これらの玄関における物品・設備を校具・教具といった系統別に分析する。表 5-30 の通り、物品・校具の数が他の系統より圧倒的に多い。玄関では、大きな荷物を持った客や、一度に大人数で利用する団体客のような、様々なタイプの来客を迎え

入れられるよう、スペースを十分確保し、物は必要最低限かつ機能的であることが望ましい。訪れる客が「すっきりとした印象」を受けるのも、このためだと考えられる。このことから、玄関では学校以外の施設でも使いやすい機能的な校具が好まれるのではないだろうか。

表 5-30 玄関における物品・設備の系統

	筒川文化センター	海ぼうず	スターフォレスト利賀	楯山荘	さんさん館	希望の丘	しもなの郷	四万十楽舎	いまいち山荘	四季の丘	里山交流館本館	計
物品・校具	2	3		3	2	2	2	4	3		1	22
物品・教具		3	1			1						5
設備・校具									1	2		3
設備・教具		1				2						3
計	2	7	1	3	2	5	2	4	4	2	1	33

(3) 玄関における物品・設備のコンバージョンレベルによる比較

次に、玄関の物品・設備を廃校宿舍のコンバージョンレベルで比較を行った。

玄関における物品・設備 (CL)

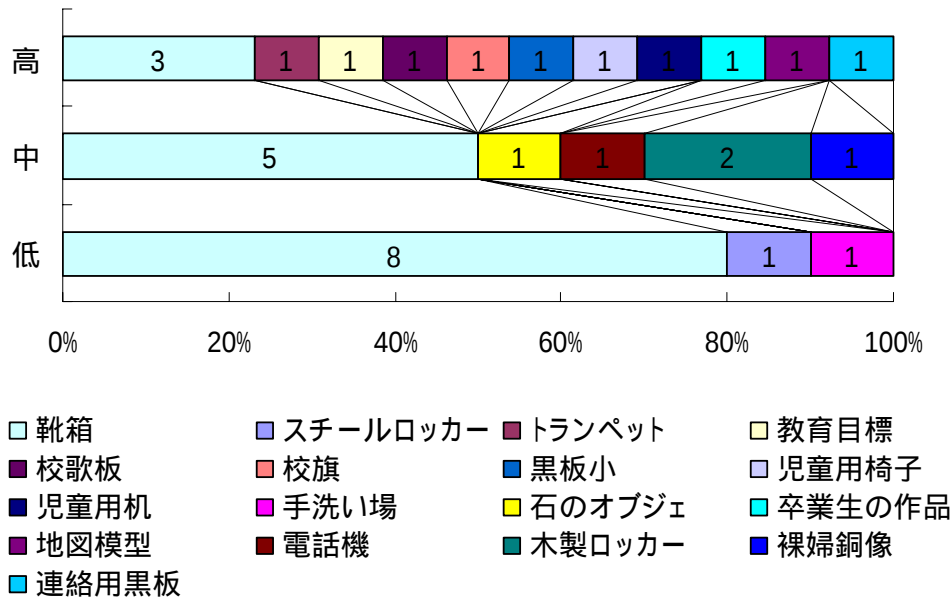


図 5-19 コンバージョンレベルからみた玄関における物品・設備

「靴箱」に着目して図 5-19 を見ると、コンバージョンレベルが高くなるに従って数が減少していることが分かる。しかし、物品・設備の品目では高レベルになるにつれ、種類が豊富になっていることがわかる。このことから、高レベルの廃校宿舎は靴箱以外の物品・設備を多用して学校の雰囲気を作り出そうとしているのではないかと考えられる。

しかし、「古いものを活用することは、懐かしさを目当てにやって来る宿泊客にとってはいいことかもしれないが、全ての宿泊客がそれを求めているわけではない⁵⁾」といったように利用者へのニーズを考えて、玄関自体を児童・生徒を迎える学校の玄関から、一般の客を迎える宿泊施設の玄関へとリニューアルしているケースも実在する(図 5-20,5-21)。



図 5-20 スロープを設けた玄関(左) 図 5-21 2階から撮影した吹き抜けの玄関(右)(両写真とも 2007-8-20 希望の丘にて著者撮影)

(4) 玄関における物品・設備の活用法の分析

最後にこれら玄関の物品・設備がどのように活用されているかについて分析を行うと、図 5-22 のような結果となった。これを見ると、廃校宿舎の玄関において共通して活用される物品・設備は、客用に設置された「靴箱」であり、その他は主に「鑑賞用」として扱われていることが分かる。このように、玄関には来客の対応に必要なものの以外は、学校の物品・設備をそのまま装飾の一種として用いる傾向がある。

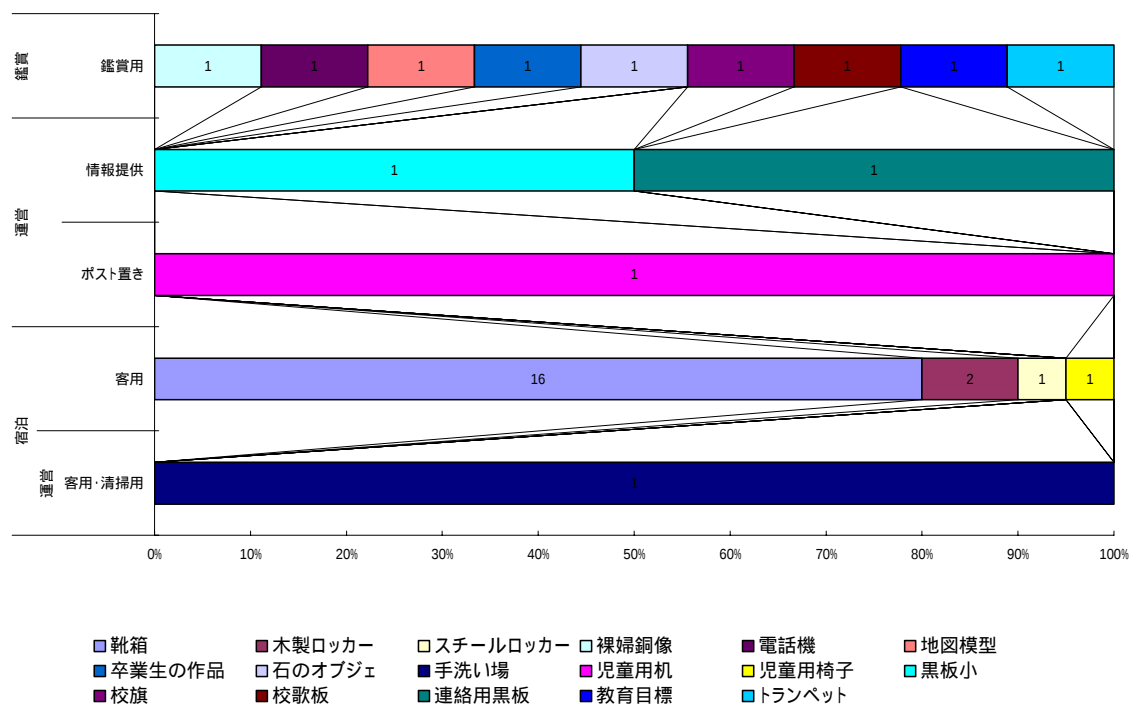


図 5-22 玄関における活用法の割合

(5) 玄関の物品・設備と廃校宿舎の重視するサービスの関係

廃校宿舎が重視するサービスの違いと玄関における物品・設備のクロスを行った結果を以下の図 5-23 に示す。

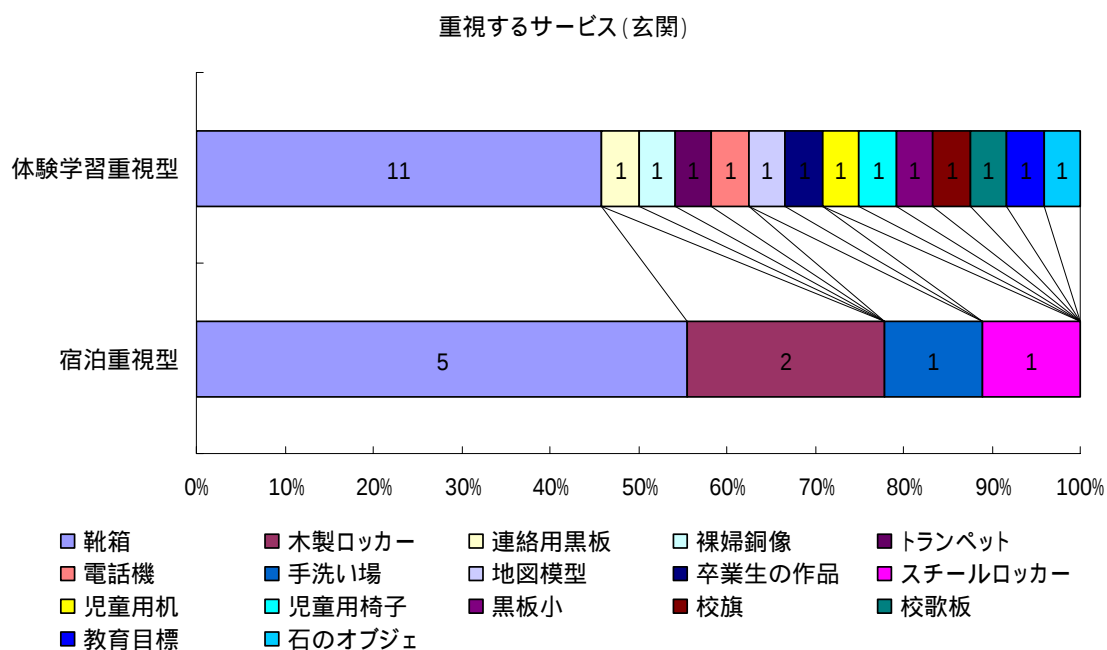


図 5-23 玄関における重視するサービスの違いと物品・設備

体験学習重視型の廃校宿舍の玄関には、靴箱以外に多数の物品・設備が存在することがわかる。しかし、品目を見ると直接体験学習をするにあたって使用する道具ではないものが多く、体験学習とは直接関係がないと言える。

一方宿泊重視型は靴箱以外の物品・設備の品目が3つと少なく、ホテルや旅館における玄関のような、すっきりした印象を客に与えている。

5-4-3 玄関景観を構成する物品・設備のまとめ

以上の分析から、廃校宿舍の玄関景観を構成する物品・設備について次のような考察が導かれる。

- ・「靴箱」は玄関に必要不可欠であり、多くの廃校宿舍で活用されている。
- ・玄関の物品・設備は学校以外の施設でも使用でき、校具が多く活用されている。
- ・客のニーズに応えるため、コンバージョンの度合いが高くなっている廃校宿舍においては、活用される物品・設備の数が少なくなる傾向がある。
- ・玄関には必要最低限の物品・設備と、装飾目的の物品で構成されている。

5-5 「宿泊」

5-5-1 客室景観

廃校宿舍に訪れた際、おそらく一番長い時間を過ごす場所が客室である。また、学校時代では宿直室を除いて、このような「寝泊りする部屋」は存在しなかったため、学校から宿泊施設へとコンバージョンがなされた変化が顕著に現れる場所でもある。

客室は教室部分を改装して設けられている場合が多いため、風呂やトイレなどの水周りは設置されてないことが多い。また、ベッドや布団以外のインテリアは少なく、簡素な造りとなっている。

●洋室の景観



図 5-24 教室を分割して設けられた客室(左)(2007-8-19 さんさん館にて) 図 5-25 教室をそのまま用いた客室(右)(2007-8-30 いまいち山荘にて)両写真とも著者撮影

●和室の景観



図 5-26 教室を分割して設けられた客室(左) (2007-8-20 希望の丘にて) 図 5-27 教室をそのまま用いた客室(右)(2007-8-17 小国ふる里ふれあい村楯山荘にて)両写真とも著者撮影

なお、客室景観の物品・設備分析の概要は以下のとおりである。

表 5-31 客室景観の物品・設備分析の概要

	対象施設 (客室において学校物品・設備が確認できた施設を対象とする)											
客室概要 物品・設備数	ス タ ー リ フ ォ レ	い ま い ち 山 荘	里 山 交 流 館 本 館	簡 川 文 化 セ ン タ ー	ふ れ あ い 村 楯 山 荘	小 国 ふ る 里	よ こ み ち の 里	さん さん 館	海 ぼ う ず	四 万 十 楽 舎	希 望 の 丘	計
1F客室(シングル)											4	4
1F客室(ツイン)											6	6
1F客室(トリプル)											6	6
1F客室(和)						1	2					3
2F客室(6名)1			1							3		4
2F客室(6名)2										3		3
2F客室(6名)3										3		3
2F客室(団体用)		4	1									5
2F客室(シングル)								3				3
2F客室(ツイン)								2		6		8
2F客室(トリプル)								4				4
2F客室(たてまの間)									2			2
2F客室(にろくの間)									2			2
2F客室(よなごの間)									2			2
2F客室(和)1	2	1	1			2		1			2	9
2F客室(和)2		1	1			2		1			1	6
2F客室(和)3		2	1			2					1	6
2F客室(和)4			1								2	3
3F客室(和)	2			4								6
計	4	8	6	4		7	2	11	6	15	22	85

5-5-2 客室における物品・設備の分析

(1) 客室における物品・設備

客室における物品・設備を表 5-32 に示す。客室で数が多く目立つ品目としては「黒板大」や「黒板小」といった黒板類が挙げられる。これは教室を利用して客室を設けた際の名残であると考えられる。さらに、「(黒板を)改装工事の時に取り外して再度付け直すのが大変だった」⁶⁾というように、手間をかけてでも黒板を残そうとすることから、黒板類が宿泊客に与える「学校」としての印象が強いことと、黒板類に対する運営者の思いが汲み取れる。

また、黒板と同様に児童用椅子・机も客室には多く存在する。これもまた、教室の名残であると考えられる。このように黒板や椅子・机などは、通常の宿泊施設には存在しない、廃校宿舎独自のインテリアとなっている。

表 5-32 客室における物品・設備数

	杣の里 よこみち	希望の丘	さんさん館	楯山荘	スター フォレスト 利賀	海ぼうず	筒川文化 センター	いまいち山荘	四万十楽舎	里山交流館 本館	計
児童用机		9	7						3		19
児童用椅子		10	2						5		17
黒板大		1		4		3	2	6			16
黒板小				3	4	1					8
踏み台										6	6
スチールロッカー			2						3		5
木製引き出し	1	2									3
時間割黒板						2					2
黒板消し							2				2
世界地図								1			1
月間予定表黒板									1		1
木製ロッカー								1			1
日本地図	1										1
体重計									1		1
身長測定器									1		1
教員用机									1		1
計	2	22	11	7	4	6	4	8	15	6	85

(2) 客室における物品・設備の系統の分析

物品・設備の系統を表 5-33 に示す。物品・設備ともに教具が多数を占めている。児童の学習に用いた教具が多いことも、客室が教室を利用して設けられたためであると考えられる。

また、「ここ(自施設)にやって来てから『久々に親子の会話が出来た』という便りいただいたこともある」⁷⁾というように、家族連れが客室を利用する際に、黒板類や児

童用机・椅子は世代間を越えた交流ツールになりうる。親にとっては懐かしく、子供にとっては親しみのある物品として認識される。このことが家族間の会話を生む要因になっているのであろう。以上のような目的で客室に教具が多く設置されていると考えられる。

表 5-33 客室における物品・設備の系統

	杣の里よこみち	スターフォレスト利賀	筒川文化センター	里山交流館本館	海ぼうず	楯山荘	いまいち山荘	さんさん館	四万十楽舎	希望の丘	計
物品・校具				6			1	2	4		13
物品・教具	1		2				1	9	10	19	42
設備・校具	1									2	3
設備・教具		4	2		6	7	6		1	1	27
計	2	4	4	6	6	7	8	11	15	22	85

(3)客室における物品・設備のコンバージョンレベルによる比較

客室にある物品・設備をコンバージョンレベルで比較してみると、図 5-28 のような結果となった。客室においては玄関の場合と違い、コンバージョンレベルが高いほど物品・設備の数が増える傾向にある。しかし、物品・設備の品目数では逆にレベルが低いほど豊富になっている。これは、第四章のコンバージョンレベルの節で述べたような、「『学校』を演出する宿泊施設」、「『宿泊施設』を演出する学校」の違いによる影響が見られる。

これらのことから、コンバージョンレベルの高い施設では、教室などを改装した客室において、児童用椅子・机などの宿泊施設でも使用でき、訪れた客に「学校」の印象を与える物品を選んで活用しているのに対して、コンバージョンレベルの低い施設は、教室にあった物品をそのまま客室で活用しているのではないかと推察できる。

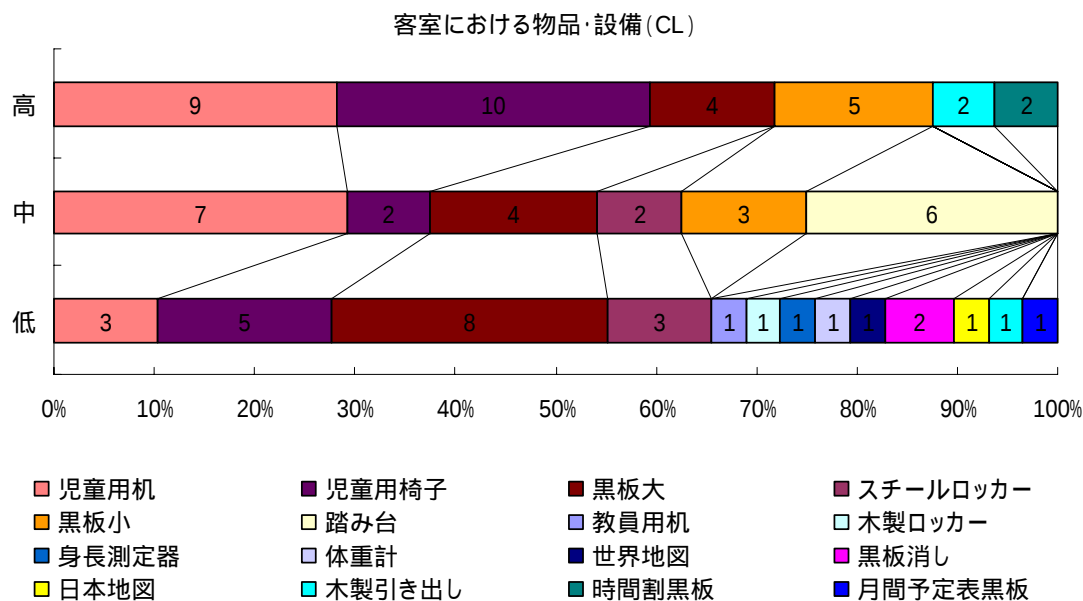


図 5-28 客室における物品・設備をコンバージョンレベルで比較

(4)客室様式の違いと物品・設備

物品・設備の数や品目を客室の様式で比較して見ると、図 5-29 のような結果となった。洋室では「児童用机」「児童用椅子」の数が和室に比べ多く、洋室全体の七割を占めている。品目の数も和室に比べ豊富である。和室では「黑板大」「黑板小」などの黑板類が和室全体の六割を占めている。

椅子・机が洋室に多いのは、客室の床がタイルもしくは板張りであることから容易に想像できる。物品・設備の品目数が多い理由も、床が当時の教室に近いためであると考えられる。

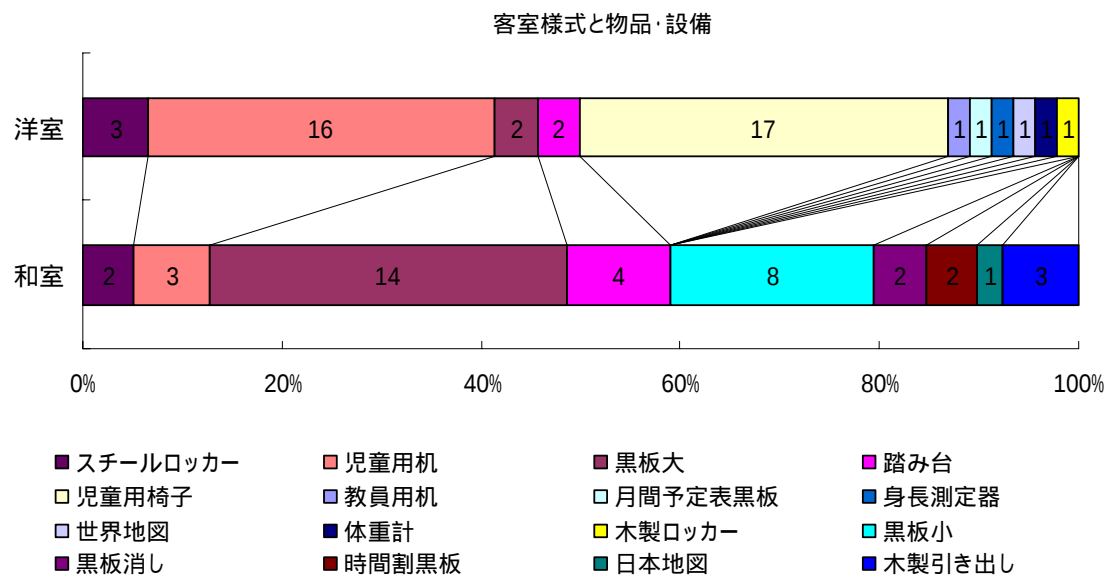


図 5-29 和室・洋室の比較における物品・設備数

(5) 客室の物品・設備と廃校宿舍の重視するサービスの関係

廃校宿舍が重視するサービスの違いと客室における物品・設備のクロスを行った結果を以下の図 5-30 に示す。

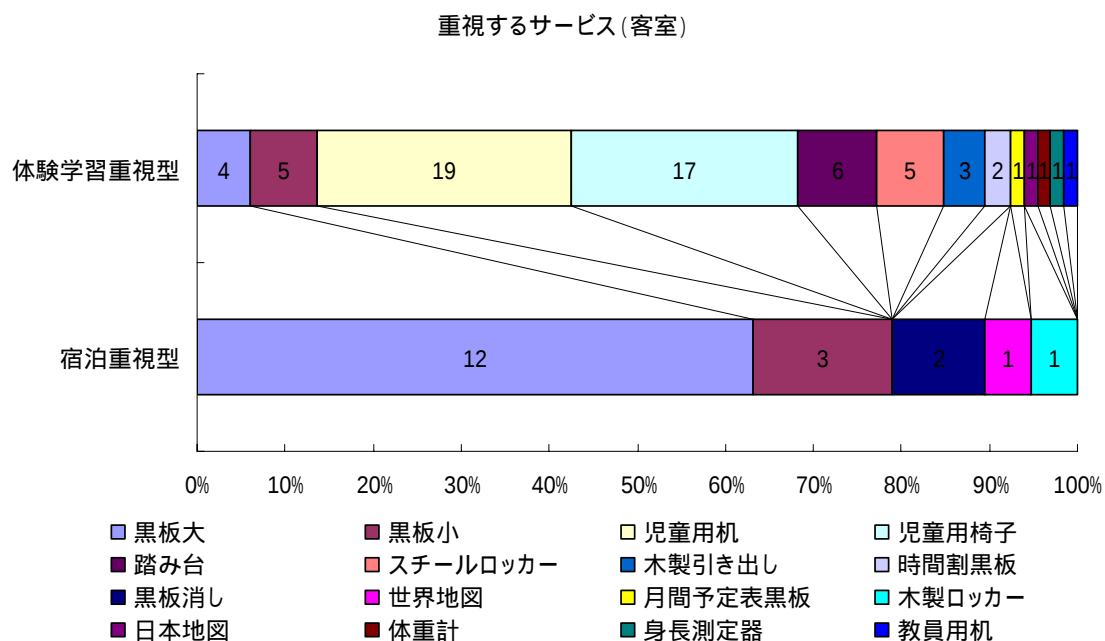


図 5-30 客室における重視するサービスと物品・設備

体験学習重視型に比べ、宿泊重視型には「黒板大」が多く存在する。体験学習重視

型に黒板が少ないのは、客室に黒板を設置するのではなく、体験学習の会場となりやすい会議室などの部屋に設置し、体験学習の案内などの「情報提供」として活用しているためと考えられる(図 5-31)。

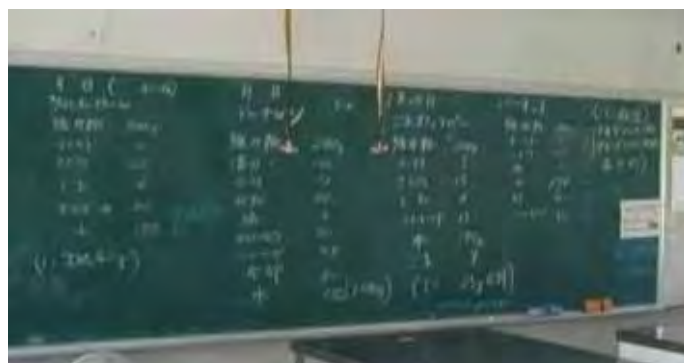


図 5-31 料理の調理手順が書かれた会議室の黒板(里山交流館本館 2007-9-10 著者撮影)

5-5-3 客室景観を構成する物品・設備のまとめ

以上の分析から、廃校宿舎における客室景観を構成する物品・設備について次のような考察が導かれる。

- ・客室には、教具を中心とした、改装前の教室を思わせるような物品・設備が多く存在する。また、これは廃校宿舎ならではの特徴である。
- ・コンバージョンレベルの高い施設は物品・設備を意図的に選び取り、逆に、レベルの低い施設は選り好みせずに様々な品目の物品・設備を活用している。
- ・客室では床が教室に近い洋室の方が畳敷きの和室よりも物品・設備の種類が多様である。

5-6 「食事」

5-6-1 食堂・調理室景観

廃校宿舎で、寝泊りをする客室と同様に重要視されるのが食堂・調理室である。この場所は学校時代の給食室や調理室などのガス・水道設備が整っている部屋を改装して設けられているケースが多い。

食堂・調理室は、廃校宿舎周辺の地域の食文化を客に知ってもらう場所であり、また、自炊形式の廃校宿舎では、調理室を宿泊客らが共同で使用することによって、通常の宿泊施設では生まれにくい客同士の交流が生まれる場所でもある。

なお、食堂・調理室景観の物品・設備分析の概要は以下のとおりである。

表 5-34 食堂・調理室景観の物品・設備分析の概要

	対象施設 (食堂・調理室において学校物品・設備が確認できた施設を対象とする)										
食堂概要 物品・設備数	杣 の里 よこみち	海 ぼうず	小国ふる里 ふれあい村 楯山荘	さんさん館	希望の丘	しもなの郷	四万十楽舎	いまいち山荘	やすらぎの高原 交流館	里山交流館 本館	計
1F調理室	4				5	1				1	11
1F給食室(食堂)		1	9	1	2		3	1	6	1	24
計	4	1	9	1	7	1	3	1	6	2	35

●食堂の景観



図 5-32 レストラン形式の食堂(左)(スターフォレスト利賀にて 2007-8-12 撮影) 図

5-33 自炊形式の食堂(右)(四季の丘にて 2007-9-3 撮影)両写真とも著者撮影

●調理室の景観



図 5-34 レストラン形式の調理室(左)(希望の丘にて 2007-8-17 撮影) 図 5-35 自炊形式の調理室(右)(小国ふる里ふれあい村楯山荘にて 2007-8-20 撮影)両写真とも著者撮影

5-6-2 食堂・調理室の物品・設備の分析

(1) 食堂・調理室の物品・設備

食堂・調理室の物品・設備の数を表 5-35 に示す。物品・設備全体の数は少ないが、「黒板大」「黒板小」といった黒板類や「児童用椅子・机」などが広く分布している。また、「皿かご」「食かん」の二つの物品は食堂・調理室にのみ存在する。

表 5-35 食堂・調理室における物品・設備数

	杣の里よこみち	海ぼうず	楯山荘	さんさん館	希望の丘	しもなの郷	四万十楽舎	いまいち山荘	なみの高原やすらぎ交流館	里山交流館本館	計
児童用椅子			6		3						9
児童用机									6		6
スチールロッカー					2					1	3
黒板大			1		1			1			3
調理器具(食かん)	3										3
ピアノ			1				1				2
調理器具(皿かご)							2				2
横断幕				1							1
教員用机					1						1
黒板小			1								1
手洗い場						1					1
表札										1	1
木製ロッカー	1										1
連絡用黒板		1									1
計	4	1	9	1	7	1	3	1	6	2	35

(2) 食堂・調理室における物品・設備の系統の分析

食堂・調理室における物品・設備の系統を図 5-36 に示す。

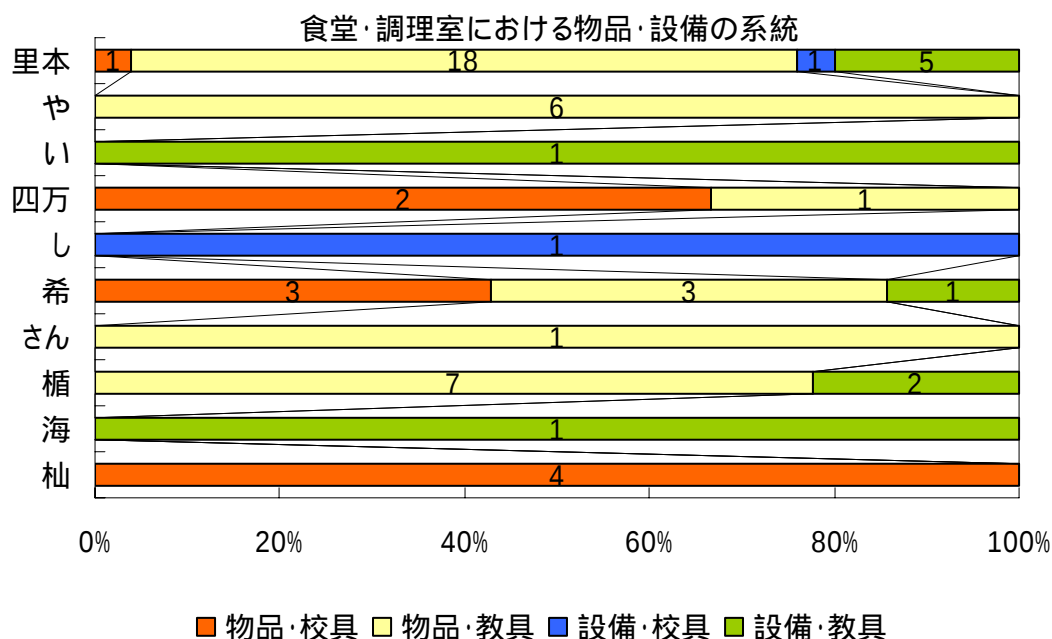


図 5-36 食堂・調理室における物品・設備の系統

これを見ると、校具・教具問わず多様な物品・設備が食堂・調理室には存在していることが分かる。食堂には椅子と机、調理室には調理器具や冷蔵庫や棚などの収納器具が部屋のほとんどを占めているため、スペースを大きく取ってしまう設備の数は、全体として少なくなっている。

物品・教具が広く分布している理由として、客室と同様に食堂が「家族間の交流の場」と考えられていることが挙げられる。「食堂は当時の『給食室』をイメージして造られている」⁸⁾のように、運営側は、学校時代の物品を設置することで、食事中に親子で会話を楽しんでもらおうと考えているのではないだろうか。

(3) 食堂・調理室における物品・設備のコンバージョンレベルによる比較

物品・設備をコンバージョンレベルで比較したものを図 5-37 に示す。この図から、コンバージョンレベルが高い施設は物品・設備の品目数が少ないことがわかる。また、児童用椅子・机の数はレベル中と低に集中していることがわかる。食堂・調理室にしか存在しない「調理器具」もレベル低の施設に偏っている。しかし、逆にレベルが高くなるほど、「スチールロッカー」が増えていることもわかる。

これらのことから、食堂・調理室も客室と同様にコンバージョンレベルの高い施設は、意図的に物品・設備を「スチールロッカー」のような汎用性の高い物品・設備を中心に選んで活用していることが言える。

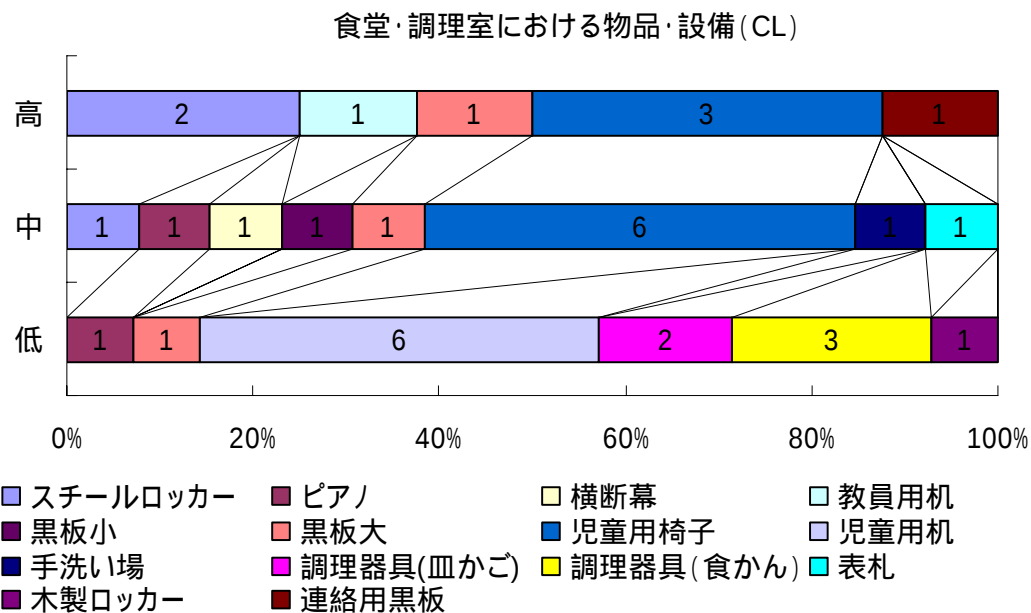


図 5-37 食堂・調理室における物品・設備をコンバージョンレベルで比較

(4) 食堂・調理室における物品・設備の活用法

食堂・調理室の物品・設備を活用法別にグラフ化したものを図 5-38 に示す。この場所は「運営」「宿泊」「鑑賞」と三つの活用タイプが全て存在する場所であることが分かる。活用タイプが「運営」の物品・設備は、調理や食事のほかに「情報提供」の活用法が存在する。黒板類のほとんどがこの活用法に当たるが、これには、自炊形式の施設ならば調理室の案内や使用上の注意などが書かれている。

活用タイプ「宿泊」には、客用の物品・設備の品目が充実している。食堂の椅子や机はほとんどがパイプ椅子や長机であったが、その中で少数存在する児童用椅子・机は、子供用として活用されているのではないかと推察できる。

活用タイプ「鑑賞」には「校旗」と「表札」が挙げられる。学校のシンボルである両物品を装飾として活用していることが分かる。

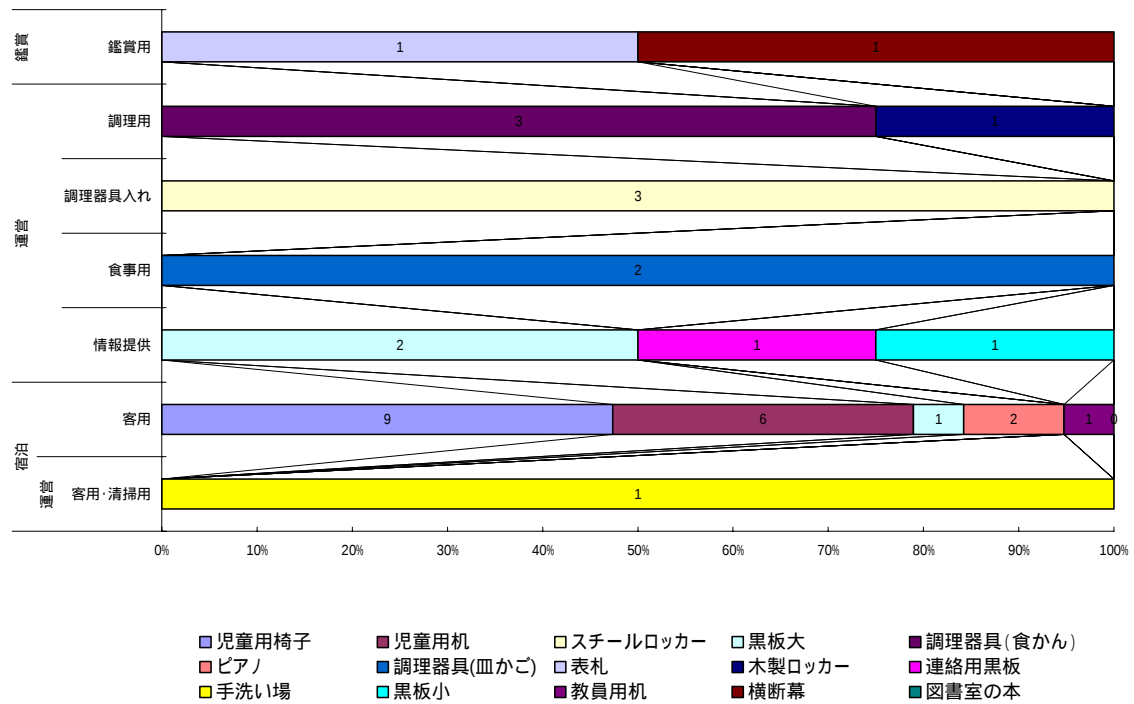


図 5-38 食堂・調理室における活用法の割合

(5) 食事形式の違いと物品・設備

自炊形式とレストラン形式の施設における物品・設備を比較したものを図 5-39 に示す。

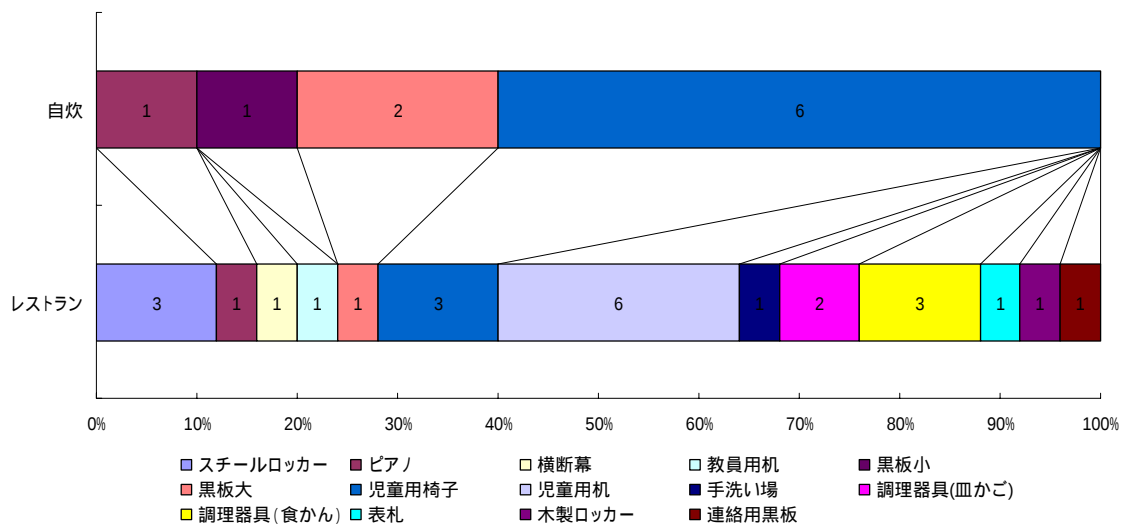


図 5-39 食事形式の違いと物品・設備

ここでの大きな違いは調理室の造りにあると考える。客が調理室を利用出来るよう

に造られているかどうかによって、物品・設備の数や品目数に大きな差が出ることが図 5-39 から見て取れる。

同様の理由で、調理器具がレストラン形式に集中しているのは、多数の児童・生徒のために用いられていた皿かごや食缶は、自炊時の調理には向かないためだと考えられる。

(6) 食堂・調理室の物品・設備と廃校宿舍の重視するサービスの関係

廃校宿舍が重視するサービスの違いと食堂・調理室における物品・設備のクロスを行った結果を図 5-40 に示す。

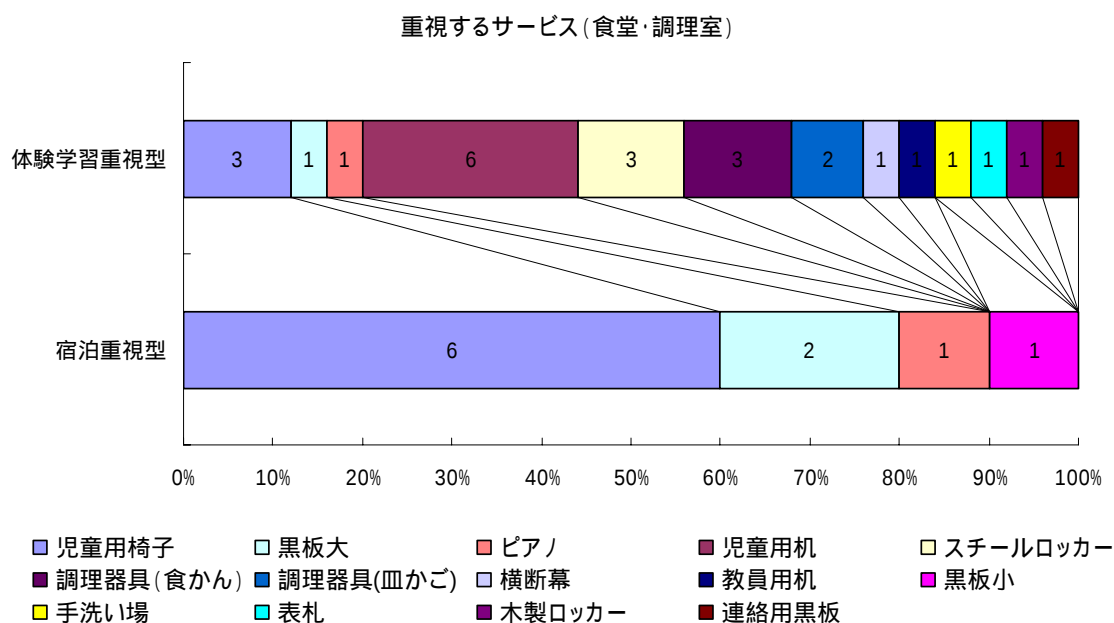


図 5-40 食堂・調理室における重視するサービスの違いと物品・設備

体験学習重視型に物品・設備の品目が多数存在するのは、食堂・調理室が郷土料理教室やそば打ち、豆腐作りの体験学習に用いられるためだと考えられる。また、「児童用椅子」のみが宿泊重視型に存在するのに対し、体験学習重視型には机と椅子の両方が存在する。これは、「児童用椅子・机」が子供用の椅子・机と考えた場合、体験学習を行う際に椅子と机のセットがあると、子供にとって作業がしやすくなる。宿泊重視型には体験学習を行う必要がないため、レストランにあるような子供用の椅子として「児童用椅子」のみが存在する。

5-6-3 食堂・調理室景観を構成する物品・設備のまとめ

以上の分析から、廃校宿舍の食堂・調理室景観を構成する物品・設備について次の

ような考察が導かれる。

- ・客室と同様に黒板類、児童用椅子・机が広く分布している。
- ・物品に比べ設備の数は、全体として少ない。
- ・家族間の交流の場を目的とした教具を多く設置している。
- ・コンバージョンレベルが高い施設は物品・設備の品目数が少なく、機能的な物品・設備を中心に選んで活用している。
- ・食堂・調理室には幅広い活用タイプの物品・設備が存在している。
- ・自炊形式は少人数、レストラン形式は大人数向けになっており、それに合わせた物品・設備の活用が行われている。

食堂・調理室の物品・設備から、食堂・調理室は客室のような「交流の場」と捉えられることがわかる。客室ほどプライベートな空間ではないにしろ、黒板類や児童用机・椅子等の物品・設備によって、親子の会話が弾むのではないかと推察できる。

5-7 「娯楽」

5-7-1 体育館景観

体育館は多くの廃校宿舎で当時のまま残されており、主にクラブ合宿や宿泊客のレクリエーション目的として使われている。また、体育館の倉庫には学校物品・設備を収納する役割もある。改装をほとんど行わないため、学校時代の風景が色濃く残っている場所でもある。

なお、体育館景観の物品・設備分析の概要は以下のとおりである。

表 5-36 体育館景観の物品・設備分析の概要

体育館概要 物品・設備数	対象施設 (体育館において学校物品・設備が確認できた施設を対象とする)												計
	セ ン タ ー	杣 の 里 よ こ み ち	や す ら ぎ 交 流 館	な み の 高 原 館	里 山 交 流 館 別 館	四 万 十 楽 舎	い ま い ち 山 荘	し も な の 郷	四 季 の 丘	海 ぼ う ず	ス タ ー フ オ レ ス ト 利 賀	ふ れ あ い の 里 さ か も と	希 望 の 丘
体育館	6	6	2	16	13	1	3	1	2	5	4	12	71



図 5-41 しもなの郷体育館(左)(2007-8-24) 図 5-42 里山交流館体育館(右)(2007-9-10)
両写真とも著者撮影



図 5-43 希望の丘体育館(左)(2007-8-20) 図 5-44 筒川文化センター体育館
(右)(2007-7-22)両写真とも著者撮影



図 5-45 四万十楽舎体育館(左)(2007-8-25) 図 5-46 海ぼうず体育館(3F 講堂にあたる)
(右)(2007-8-8)両写真とも著者撮影



図 5-47 いまいち山荘体育館(左)(2007-8-30) 図 5-48 四季の丘体育館(右)(2007-9-3)
両写真とも著者撮影



図 5-49 ふれあいの里さかもと体育館(左)(2007-8-24) 図 5-50 スターフォレスト利
賀体育館(右)(2007-8-12)両写真とも著者撮影



図 5-51 なみの高原やすらぎ交流館体育館(左)(2007-8-31) 図 5-52 杣の里よこみち
体育館(右)(2007-8-3)両写真とも著者撮影

5-7-2 体育館における物品・設備数の分析

(1) 体育館における物品・設備

体育館における物品・設備の数を表 5-37 に示す。一部を除くほとんどの施設に存在する設備が「校歌板」である。「校歌板」は校歌が書かれた大きな板で、通常はステージの横に設置されている。また、卒業生の作品も体育館の各所に設置されている。これは学校時代からあったものと、施設が廃校宿舎として新たにスタートしてから装飾の一つとして設置されたものがある。

他にも「バスケットゴール」や「ピアノ」などの物品・設備も学校時代からそのまま残されている。このように、体育館では物品・設備の移動がほとんど行われていない。

表 5-37 体育館における物品・設備数

	筒川文化センター	杣の里よこみち	なみの高原やすらぎ交流館	里山交流館別館	四万十楽舎	いまいち山荘	しもなの郷	四季の丘	海ぼうず	スターフォレスト利賀	ふれあいの里さかもと	希望の丘	計
卒業生の作品				8	13					3		3	27
バスケットゴール	4	1		4			1			2	2	2	16
校歌板	1	1		1			1		1		1	1	7
ピアノ								1	1			1	3
移動型黑板			1	1									2
教員用机		1				1							2
校章	1	1											2
卓球台												2	2
木琴												2	2
オルガン			1										1
スチールロッカー											1		1
五線譜黑板				1									1
黑板大				1									1
児童用机		1										多数	1
手洗い場												1	1
地域年表		1											1
標語							1						1
	6	6	2	16	13	1	3	1	2	5	4	12	71

(2) 体育館における物品・設備の系統の分析

物品・設備の系統を図 5-53 に示す。これを見ると、体育館の物品・設備は教具が多くを占めていることがわかる。体育館が学校時代から体育の授業や式典に使われていたことが大きく影響していると考えられる。

また、その中で物品・校具がいくつか存在するのは、校舎を宿泊施設に改装するこ

とで使われなくなった物品・設備を収納する場として体育館を活用しているためだと考えられる。

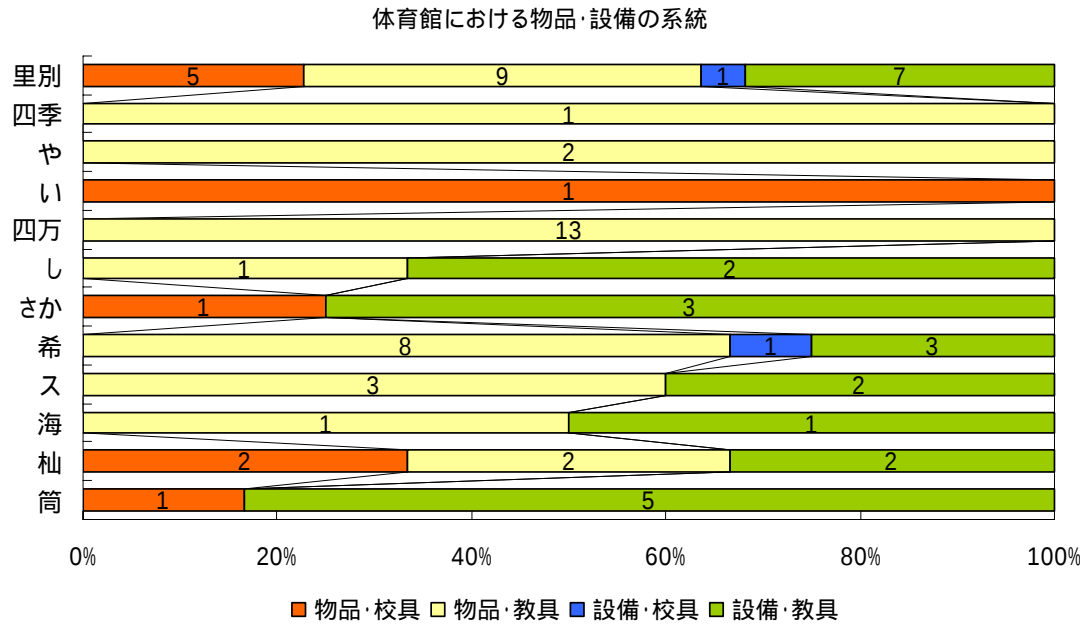


図 5-53 体育館における物品・設備の系統

(3)体育館における物品・設備のコンバージョンレベルによる比較

物品・設備をコンバージョンレベルで比較したものを図 5-54 に示す。前述の玄関や客室などとは違い、レベルによってあまり差が見られない。一部の施設では床や壁の張替えを行ったところもあるが、大多数の体育館は改装せずに当時のまま用いているため、物品・設備に差が出ないと考えられる。

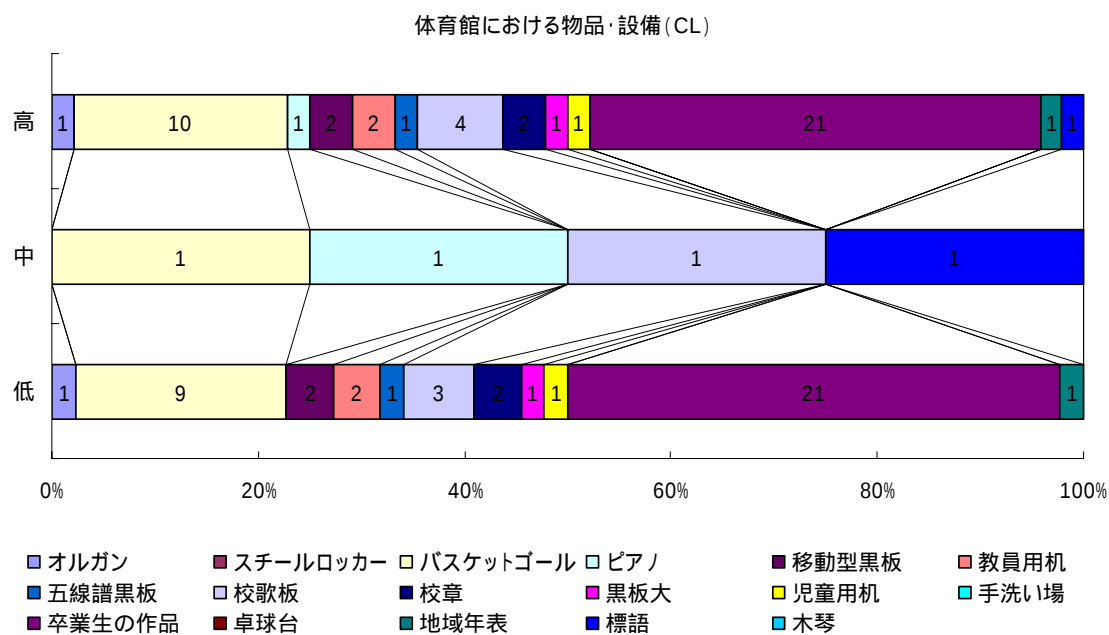


図 5-54 体育館における物品・設備をコンバージョンレベルで比較

(4) 体育館における物品・設備の活用法の分析

体育館の物品・設備を活用法別にグラフ化したものを図 5-55 に示す。活用タイプ「運営」がなく、「宿泊」の品目が多い理由は、体育館を客向けのレクリエーション施設として扱っているためだと考えられる。

また、「校歌板」や「卒業生の作品」をはじめとする「鑑賞」タイプの物品・設備も多く存在していることがわかる。しかし、体育館が改装されてないことを考慮すると、これは鑑賞用として意図的に設置されたとは考えにくい。運営側が、体育館の利用には支障がないと考えて残しておいたのではないだろうか。

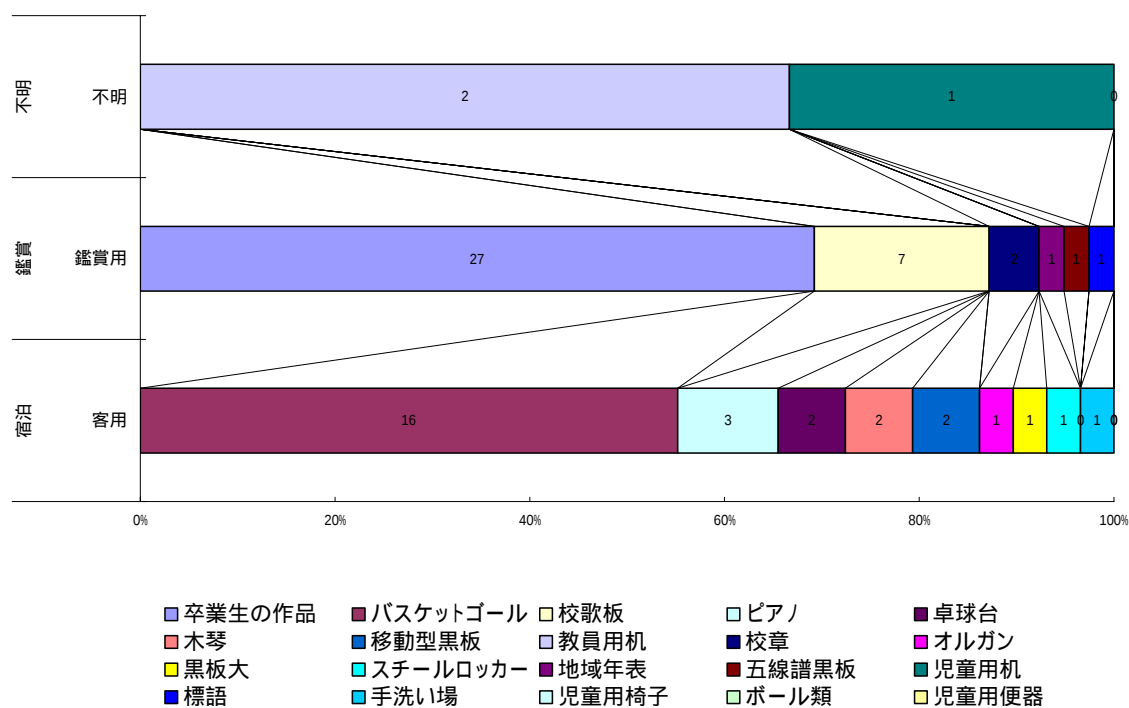


図 5-55 体育館における活用法の割合

(5) 体育館の物品・設備と廃校宿舎の重視するサービスの関係

廃校宿舎が重視するサービスの違いと体育館における物品・設備のクロスを行った結果を以下の図 5-56 に示す。

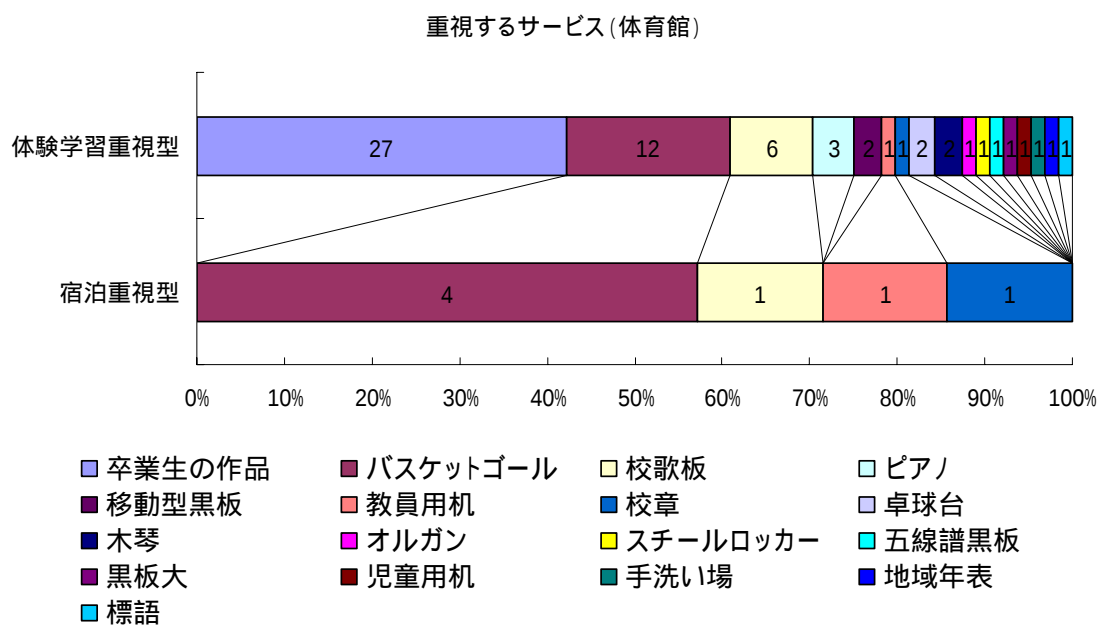


図 5-56 体育館における重視するサービスの違いと物品・設備

体育館は伝統芸能の体験や工芸品の製作に使われることがある。また、通常では会議室や食堂などで行われる体験学習も、参加者が大人数だと体育館を利用する。このような理由で物品・設備の品目は体験学習重視型が豊富であり、学校時代の体育館ではあまり見かけない黒板類や「児童用机」といった物品・設備も存在する。

一方宿泊重視型の体育館には物があまり見られない。物品・設備の内容も「バスケットゴール」や「校章」「校歌板」といった、元々体育館に備わっている設備が多数を占めている。このように物品・設備が少ない理由として、宿泊重視型は体験学習で用いる物品などを体育館に収納する必要がないことと、体育館を客がクラブ合宿の練習や研修といった目的に合わせて自由に利用できる⁹⁾よう配慮されていることが挙げられる。

5-7-3 体育館景観を構成する物品・設備のまとめ

以上の分析から、廃校宿舍の体育館景観を構成する物品・設備について次のような考察が導かれる。

- ・物品・設備は学校時代からほとんど移動されていない。
- ・体育館はレクリエーションと収納の二つの役割がある。
- ・体育館の使用目的から、物品・設備は教具が多くを占める。
- ・改装が行われていないため、コンバージョンレベルによる差はない。
- ・体育館の物品・設備は客と鑑賞向けに活用されている。

5-7-4 校庭景観

校庭はほとんどの廃校宿舍で残されており、レクリエーションやバスの駐車場、クラブの練習など、客の種類によって多目的に活用されている。校庭は体育館同様、改装の影響をほとんど受けないが、体験学習のための設備を新たに設ける場合もある。

なお、校庭景観の物品・設備分析の概要は以下のとおりである。

表 5-38 校庭景観の物品・設備分析の概要

	対象施設 (校庭において学校物品・設備が確認できた施設を対象とする)																
校庭概要 物品・設備数	センター	筒川文化	杣の里よこみち	鈴鹿峠自然の家	海ぼうず	沼沢湖山荘	さんさん館	希望の丘	ふれあいの里 さかもと	しもなの郷	四万十楽舎	いまいち山荘	やすらぎ交流館	なみの高原	四季の丘	里山交流館 本館	計
校庭	6	6	6	7	11	5	8	7	2	19	7	8	8	8	2	9	105



図 5-57 いまいち山荘校庭(左)(2007-8-30 著者撮影) 図 5-58 ふれあいの里さかもと校庭(右)(2007-8-24 著者撮影)

5-7-5 校庭における物品・設備数の分析

(1) 校庭における物品・設備

校庭における物品・設備の数を表 5-39 に示す。「ブランコ」「鉄棒」などの遊具類と「卒業記念碑」「二宮金次郎銅像」などの像・オブジェが多くを占めている。また、「校門」はほとんどの施設で残されている。

表 5-39 校庭における物品・設備数

	筒川文化センター	杣の里よこみち	鈴鹿峠自然の家	海ぼうず	沼沢湖山荘	さんさん館	希望の丘	ふれあいの里さかもと	しもの郷	四万十楽舎	いまいち山荘	なみの高原やすらぎ交流館	四季の丘	里山交流館本館	計
校門	1	1	1		1		1	1	1	1	1	1		1	11
鉄棒	1		1	1		1			4						8
ブランコ		1		2		1			1	1					6
朝礼台	1		2			1			1	1					6
卒業記念碑	1	1		4											6
運てい		1					1		2	1		1			6
石のオブジェ		1			3							1			5
踏み台														4	4
ハンドボールゴール	1					1			2						4
バックネット						1	1				1		1		4
滑り台						1	1		1			1			4
閉校記念碑				1		1								1	3
表札									1	1			1		3
バスケットゴール						1					2				3
手洗い場				1			1							1	3
サッカーゴール							1				2				3
回旋塔									1	1		1			3
木製アスレチック									2						2
ハードル			2												2
上り棒										1		1			2
二宮金次郎銅像								1	1						2
二宮金次郎石像	1													1	2
焼却炉					1						1				2
ジャングルジム				1			1								2
校章		1	1												2
標語														1	1
百葉箱									1						1
日時計				1											1
砂場									1						1
新築記念碑												1			1
シーソー												1			1
掲示板											1				1
計	6	6	7	11	5	8	7	2	19	7	8	8	2	9	105

(2) 校庭における物品・設備の系統の分析

物品・設備の系統を図 5-59 に示す。校庭は、学校時代は体育の授業や子供の遊び場として使用されており、体育館同様、改装の影響を受けないため、学校時代からあった設備は、老朽化によって危険なもの以外は残されている。その結果、遊具類や像・オブジェ類の属する設備、特に教具が多く残されている結果となった。

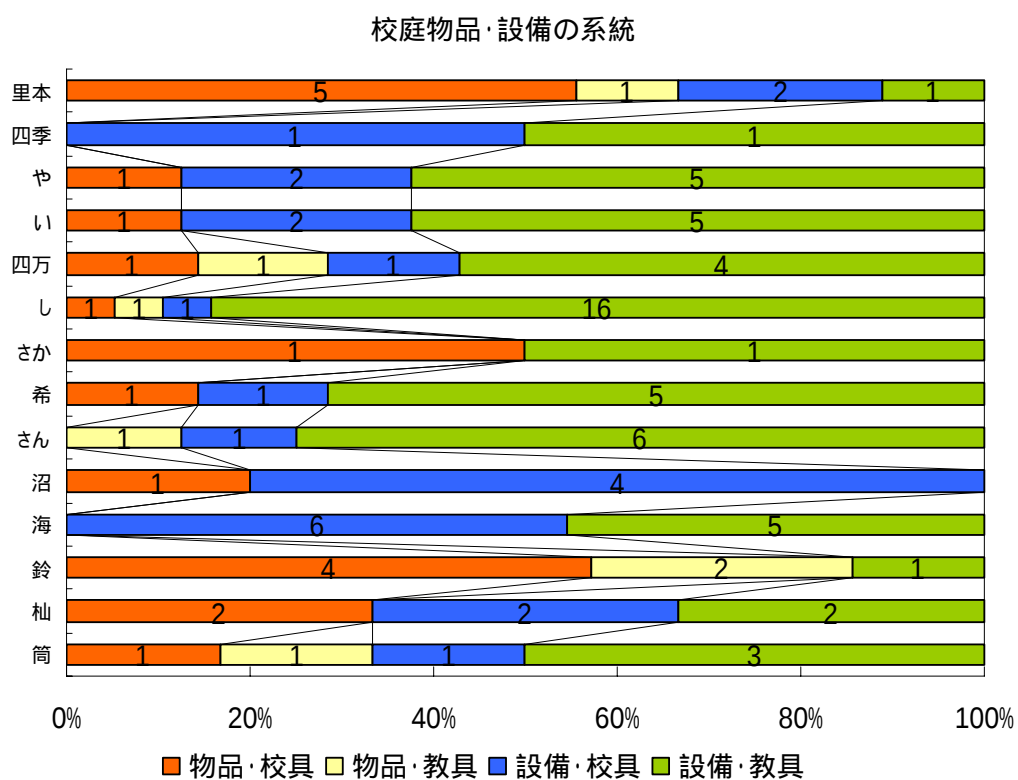


図 5-59 校庭における物品・設備の系統

(3)校庭における物品・設備のコンバージョンレベルによる比較

物品・設備をコンバージョンレベルで比較したものを図 5-60 に示す。どのレベルにおいても物品・設備はほぼ均等に存在している。この図から、体育館と同様に校庭の物品・設備はコンバージョンレベルによって左右されないといえる。

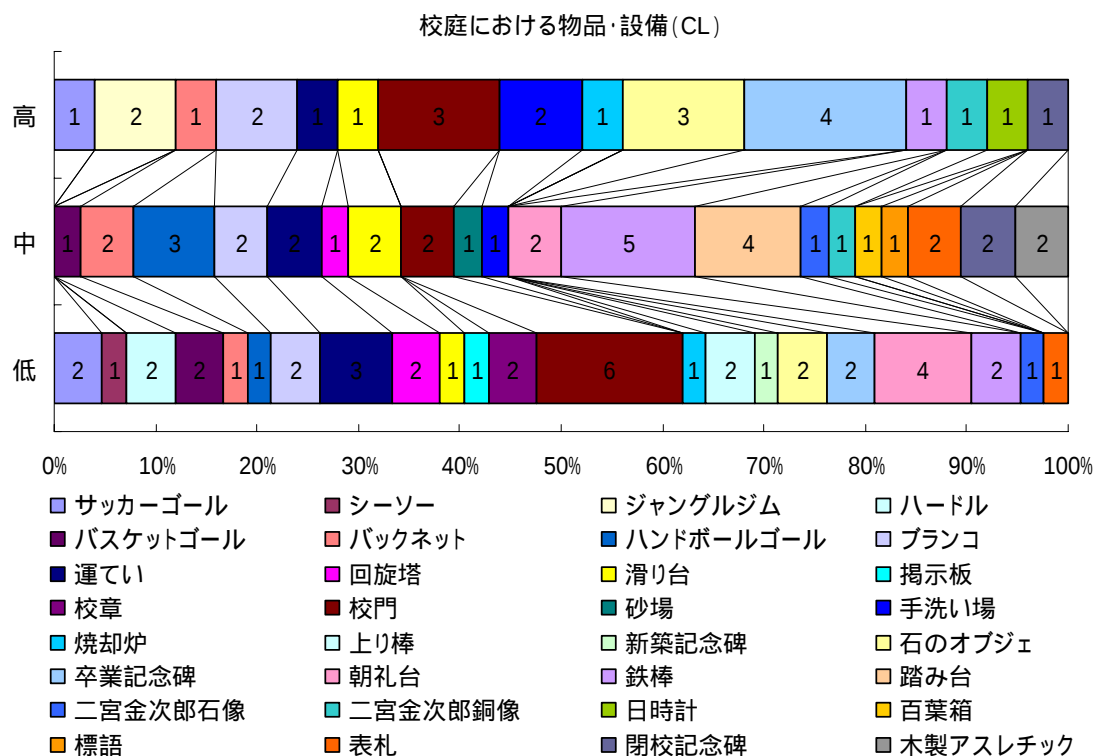


図 5-60 校庭における物品・設備をコンバージョンレベルで比較

(4) 校庭における物品・設備の活用法

校庭の物品・設備を活用法別にグラフ化したものを図 5-61 に示す。活用法は客用と観賞用に偏っている。客用は遊具類がほとんどで、これらは自由に遊ぶことが出来る。また、活用法が使用不可となっている物品・設備は、老朽化によって安全性に問題のある遊具類のことを指す。これらを撤去せずに残してあるのは「撤去に費用がかかるし、思い入れがある」¹⁰⁾というように、経済的な理由と運営者の思いがあるためである。

鑑賞用は像・オブジェ類で、特に「卒業記念碑」や「閉校記念碑」などは客が廃校・廃校舎の歴史を知ることが出来、「校章」「校門」などの学校のシンボルは、客に「学校」のイメージを与えることが出来る。

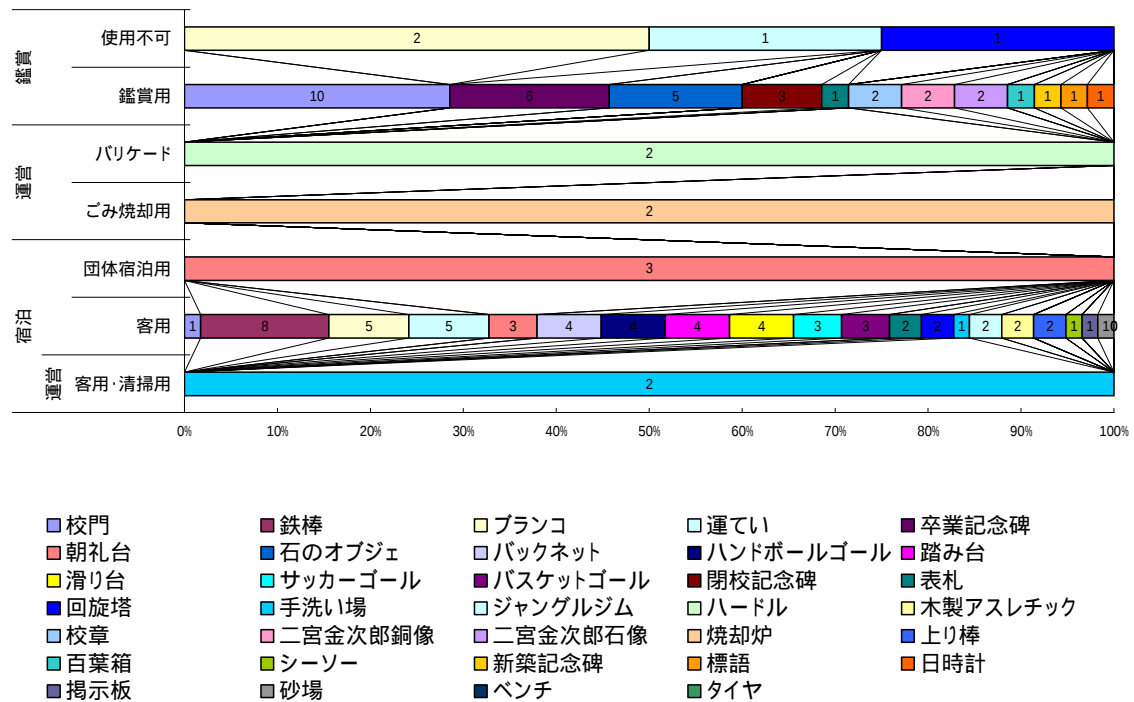


図 5-61 校庭における活用法の割合

(5)校庭の物品・設備と廃校宿舎の重視するサービスの関係

廃校宿舎が重視するサービスの違いと校庭における物品・設備のクロスを行った結果を以下の図 5-62 に示す。

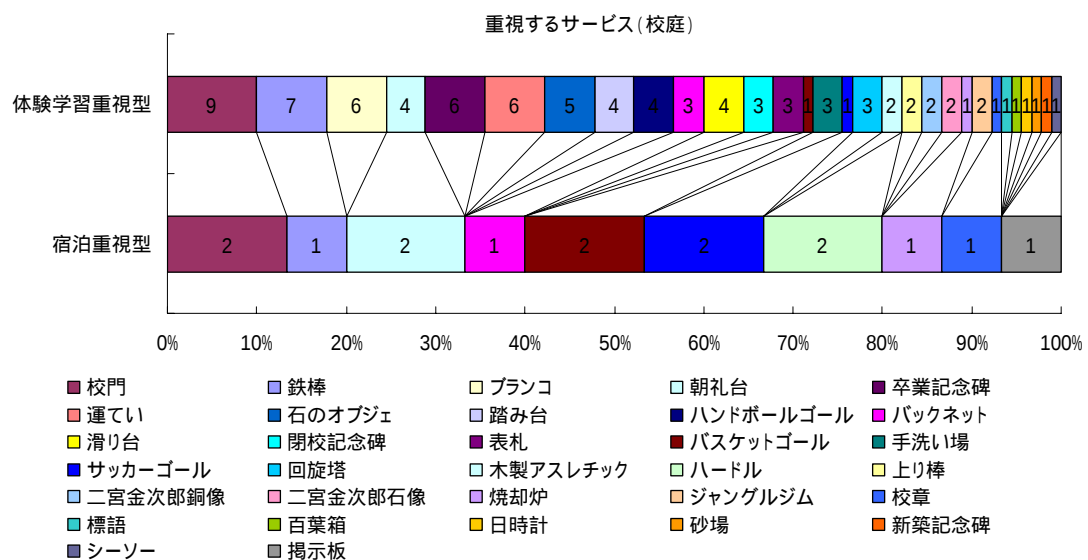


図 5-62 校庭における重視するサービスの違いと物品・設備

校庭が体験学習によって利用されることはあるが、元々広い面積を持ち、コンバー

ジョンの影響を受けない場所であるので、体験学習メニューの有無に関わらず物品・設備の内容はほぼ同じとなった。

5-7-6 校庭景観を構成する物品・設備のまとめ

以上の分析から、廃校宿舎の校庭景観を構成する物品・設備について次のような考察が導かれる。

- ・遊具類と像・オブジェ類が多くを占めている。
- ・改装の影響を受けないため、遊具類や像・オブジェ類のような教具が多く残された。
- ・物品・設備はコンバージョンによる影響を受けない。
- ・活用法は客用と鑑賞用に偏っている。

5-8 「会議」

5-8-1 会議室景観

宿泊客、特に合宿や研修旅行の団体客は滞在中に会議や研修を行うことがあり、それに対応するために設けられたのが会議室である。研修室や談話室などと呼ばれる場合もあるが、名前が異なるだけで、基本的な用途は同じであるので、「会議室」と総称する。

教室をそのまま利用している廃校宿舎が多く、校舎の構造を大きく変える改装は行われていない。著者が訪れた廃校宿舎の中に唯一、児童用椅子・机や教卓をはじめとする学校時代の物品で会議室が構成されている所があった(図 5-64)。「宿泊客に学校の雰囲気を楽しんでもらいたい」¹¹⁾という運営者の計らいである。このように学校の教室を思わせる会議室を魅力の一つとして挙げる廃校宿舎も存在する。

なお、会議室景観の物品・設備分析の概要は以下のとおりである。

表 5-40 会議室景観の物品・設備分析の概要

会議室概要 物品・設備数	対象施設 (会議室において学校物品・設備が確認できた施設を対象とする)											計
	鈴鹿峠自然の家	海ぼうず	スターフォレスト利賀	さんさん館	希望の丘	しもなの郷	いまいち山荘	やすらぎの高原交流館	四季の丘	里山交流館本館	里山交流館別館	
1F会議室(洋)1	3	4		3	53	3	2		2	2	7	79
1F会議室(洋)2						5				2		7
1F会議室(和)		4										4
1F談話室			1						2			3
1F森の学習室	3											3
1F川の学習室	7											7
1F木の広場	1											1
2F会議室								2				2
2F談話室		3								7		10
計	14	11	1	3	53	8	2	2	4	11	7	116



図 5-63 いまいち山荘研修室(左)(2007-8-30) 図 5-64 希望の丘研修室(右)(2007-8-20)
両写真とも著者撮影



図 5-65 しもの郷会議室 (左)(2007-8-24) 図 5-66 里山交流館会議室
(右)(2007-9-10) 両写真とも著者撮影



図 5-67 なみの高原やすらぎ交流館会議室(左)(2007-8-31) 図 5-68 海ぼうず会議室
(右)(2007-8-8)両写真とも著者撮影



図 5-69 スターフォレスト利賀会議室(右)(2007-8-12) 図 5-70 四季の丘会議室(右)(2007-9-3)両写真とも著者撮影



図 5-71 さんさん館会議室(右)(2007-8-12) 図 5-72 鈴鹿峠自然の家会議室(川の学習室)(右)(2007-9-3)両写真とも著者撮影

5-8-2 会議室における物品・設備数の分析

(1) 会議室における物品・設備数

会議室における物品・設備の数を表 5-41 に示す。会議に必要な物品・設備の一つとして椅子・机のほかに黒板やホワイトボードなどの板書の出来る物が挙げられる。そのため、会議室には黒板が多く存在している。

表 5-41 会議室における物品・設備

	鈴鹿峠自然の家	海ぼうず	スターフォレスト利賀	さんさん館	希望の丘	しもなの郷	いまいち山荘	なみの高原やすらぎ交流館	四季の丘	里山交流館本館	里山交流館別館	計
児童用椅子					24					2		26
児童用机					24					1		25
黒板大	2	4		1	1	2	1	1	1	6	1	20
木製ロッカー	2	4										6
黒板小	2	1				1		1				5
スチールロッカー	4										1	5
時間割黒板	2	2										4
教卓					1	1			1			3
卒業生の作品					1						2	3
月間予定表黒板	1										1	2
ピアノ	1									1		2
薪ストーブ						2						2
裸婦銅像									2			2
「話し合いの仕方」貼紙										1		1
エレクtoon				1								1
教員用椅子					1							1
校歌板			1									1
五線譜黒板				1								1
時間割表											1	1
図工用椅子						1						1
世界地図							1					1
手洗い場						1						1
テレビ					1							1
表札											1	1
計	14	11	1	3	53	8	2	2	4	11	7	116

(2) 会議室における物品・設備の系統の分析

物品・設備の系統を図 5-73 に示す。会議室には物品・設備ともに教具を中心として設置されている。これは、会議室が客室と同様に教室を改装して設けられているため、教室の名残である教具が多く存在していると考えられる。また、机や椅子などの教具は、会議や研修にも応用できるため、運営者が好んで用いているのではないかと考えられる。

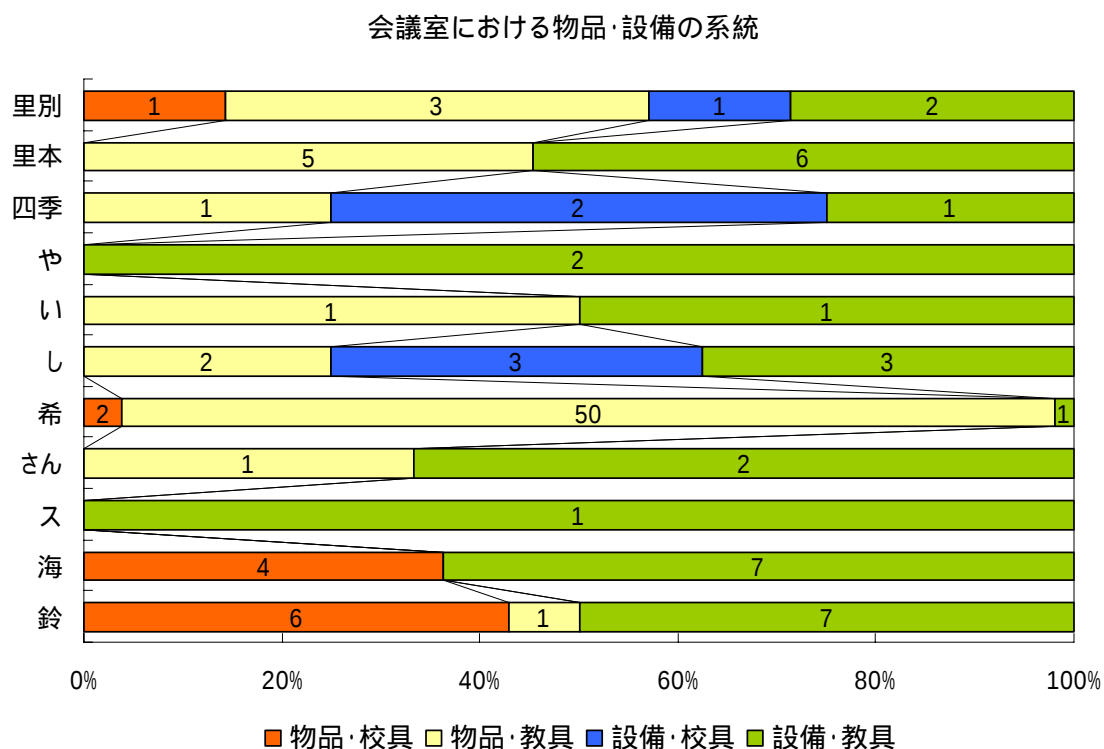


図 5-73 会議・談話室における物品・設備の系統

(3)会議室における物品・設備のコンバージョンレベルによる比較

物品・設備をコンバージョンレベルで比較したものを図 5-74 に示す。物品・設備の品目数にはどのレベルにも差はないが、数量を比べたところ、レベルが高い施設に多くの物品・設備が集中していることがわかる。レベル高の施設は 5-8-2(1)で紹介した会議室のように学校時代の教室を再現しており、客室と同じようにコンバージョンレベルの高い施設は、学校の雰囲気を作り出すために物品・設備を意図的に用いているのではないかと考えられる。

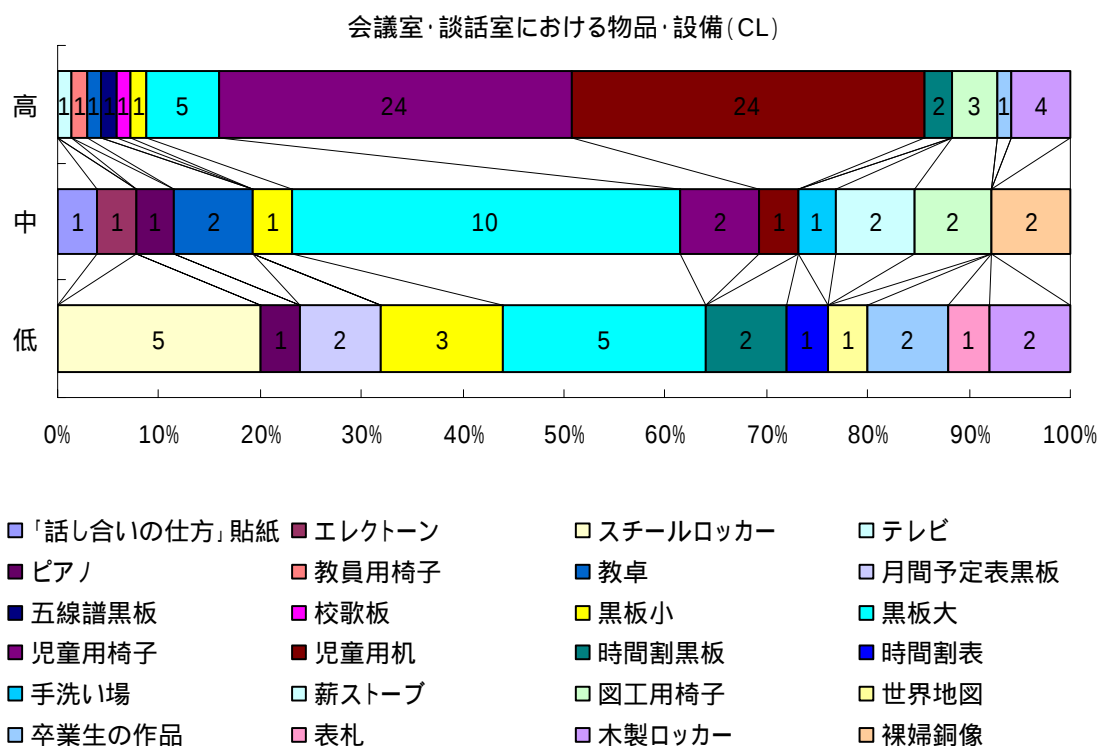


図 5-74 会議室における物品・設備をコンバージョンレベルで比較

(4)会議室における物品・設備の活用法の分析

会議室の物品・設備を活用法別にグラフ化したものを図 5-75 に示す。

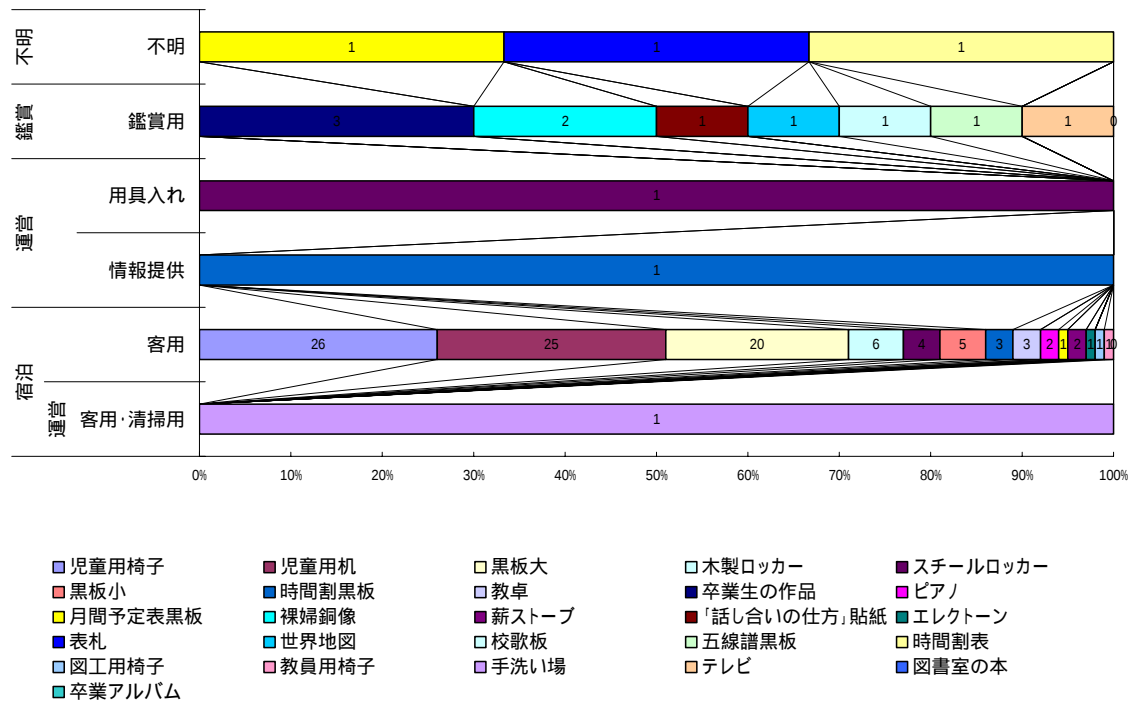


図 5-75 会議室における活用法の割合

会議室は主に客が利用するため、活用法も「客用」が最も充実している。その中でも「黒板大」「児童用椅子」「児童用机」といった会議に必要な不可欠な物品・設備が多くを占めている。

「卒業生の作品」や「世界地図」などの活用法が鑑賞用である物品・設備は、会議室の装飾として用いられている。前述の教室を再現した会議室のように装飾を施すことによって、廃校宿舍でしか実現できない「学校教室風の会議室」という、独自の会議室の形態を取ろうとしているのではないか。

(5) 会議室の物品・設備と廃校宿舍の重視するサービスの関係

廃校宿舍が重視するサービスの違いと会議室における物品・設備のクロスを行った結果を以下の図 5-76 に示す。

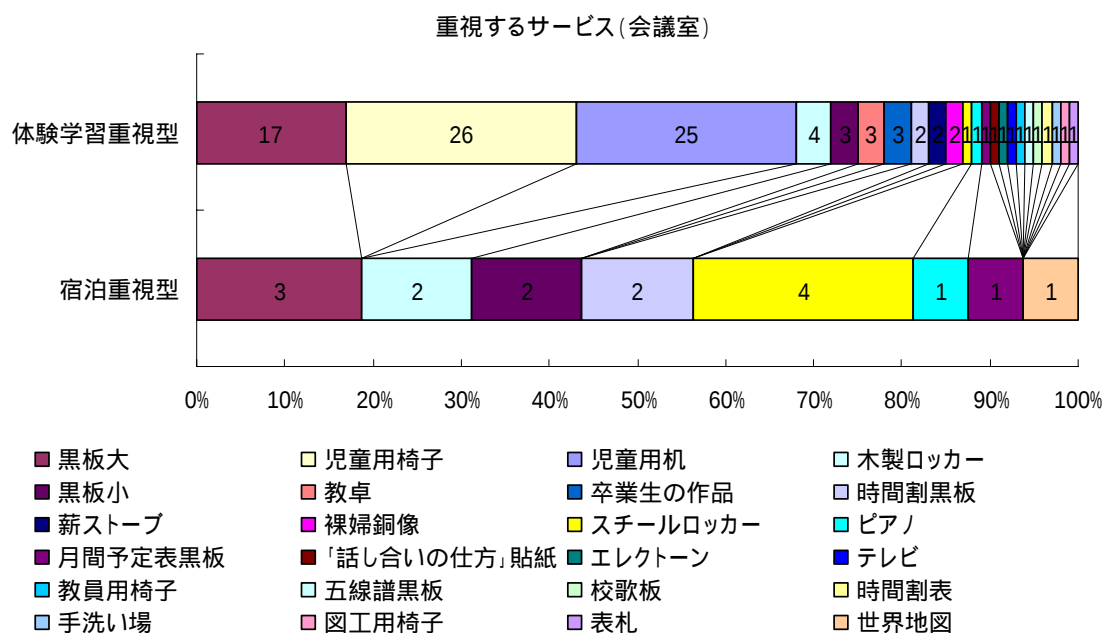


図 5-76 会議室における重視するサービスの違いと物品・設備

会議室は、机が可動式であれば、広いスペースを作ることが出来、多目的に使えるため、食堂と並んで体験学習の会場となりやすい部屋である。体験学習重視型にのみ「児童用椅子・机」があることも、食堂と同様に子供に対する配慮だと考えられる。

会議室の部屋のつくりは学校時代の教室とほぼ同じのため、学級教室を改装して設けられていることが多いが、体験学習重視型の廃校宿舎に存在する「ピアノ」「エレクトーン」「五線譜黒板」のような物品・設備から、音楽室などの特別教室を改装して設けている場合もあることがわかる。特に音楽室には二重窓や防音壁などがそのまま残っており、「楽器を用いた伝統芸能などの体験には最適」¹²⁾という廃校宿舎管理人の声もある。このように、会議室は体験学習の場において、物品・設備だけでなく、部屋全体を有効に使うことが出来る。

5-8-3 会議室景観を構成する物品・設備のまとめ

以上の分析から、廃校宿舎の会議室景観を構成する物品・設備について次のような考察が導かれる。

- ・黒板類や児童用椅子・机などは、会議室に必要不可欠な物品・設備のため、他の物品・設備に比べ、数が多い。
- ・系統は児童の学習だけでなく、会議・研修にも応用でき、改装前の教室の名残である教具が多く存在する。
- ・コンバージョンレベルが高い施設の会議室に物品・設備が集中しており、意図的に会議室でも応用でき、訪れた客に「学校」の印象を与える物品を選んで活用してい

る。

- ・学校時代の物品を装飾することによって、会議室を施設の一部屋と考えず、学校の思い出の部屋として捉えている。

5-9「共用」

5-9-1 廊下景観

廊下は部屋と部屋をつなぐ空間であり、客・管理人問わずすべての人間が利用する場である。廊下に置かれる物品・設備は異なるが、廊下の構造自体は改装しない施設が多い。そのため学校時代の面影が色濃く残っている。

木造校舎によく見られる板張りの廊下は今では貴重となり、ギシギシと音が鳴る廊下を廃校宿舎の魅力として挙げる施設も少なくない¹³⁾。

なお、廊下景観の物品・設備分析の概要は以下のとおりである。

表 5-42 廊下景観の物品・設備分析の概要

	対象施設 (廊下において学校物品・設備が確認できた施設を対象とする)																
廊下概要 物品・設備数	杣の里 よこみち	沼沢湖 山荘	四季の 丘	筒川文 化セン ター	やすら ぎ交流 館	なみの 高原	いまい ち山荘	里山交 流館 本館	里山交 流館 別館	スター フォレ スト利 賀	四十万 楽舎	海ほう ず	小国ふる 里ふれあ い村楯山 荘	希望の 丘	鈴鹿峠 自然の家	さんさん 館	計
1F渡り廊下			2	3	3												8
1F廊下	2	2		1		1	4	5	3	6	10	9	17	21			81
2F廊下				1		3			2	7	7	5	7		6		38
3F廊下				1					1	4							6
計	2	2	2	6	3	4	4	5	6	11	13	15	16	17	27		133



図 5-77 板張りの廊下(左)(2007-9-3 四季の丘) 図 5-78 タイル張りの廊下
(右)(2007-8-17 交流の館八幡)両写真とも著者撮影



図 5-79 さんさん館廊下(右)(2007-8-12) 図 5-80 鈴鹿峠自然の家廊下(右)(2007-9-3)
両写真とも著者撮影

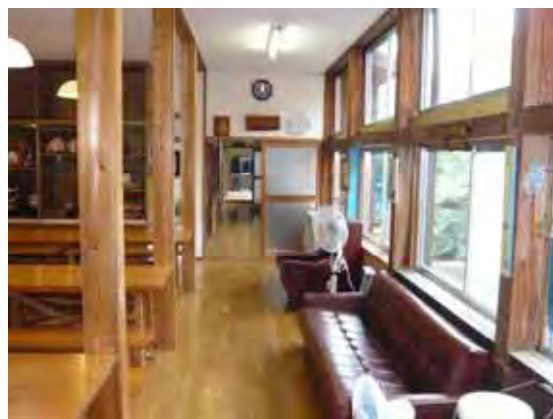


図 5-81 スターフォレスト利賀廊下(左)(2007-8-12) 図 5-82 杣の里よこみち廊下
(右)(2007-8-3)両写真とも著者撮影



図 5-83 なみの高原やすらぎ交流館廊下(左)(2007-8-31) 図 5-84 海ぼうず廊下
(右)(2007-8-8)両写真とも著者撮影



図 5-85 里山交流館本館廊下(左)(2007-9-10) 図 5-86 同別館廊下(2007-9-10) 両写真とも著者撮影

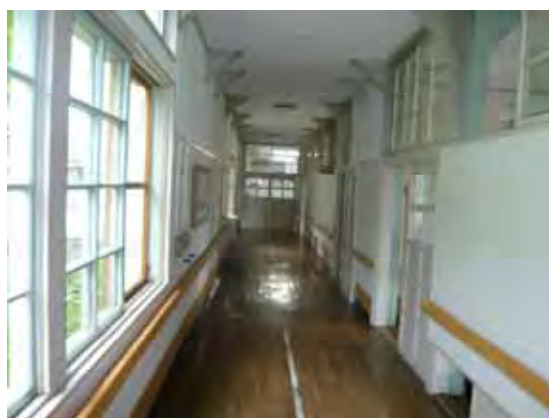


図 5-87 いまいち山荘廊下(左)(2007-8-30) 図 5-88 希望の丘廊下(右)(2007-8-20)両写真とも著者撮影

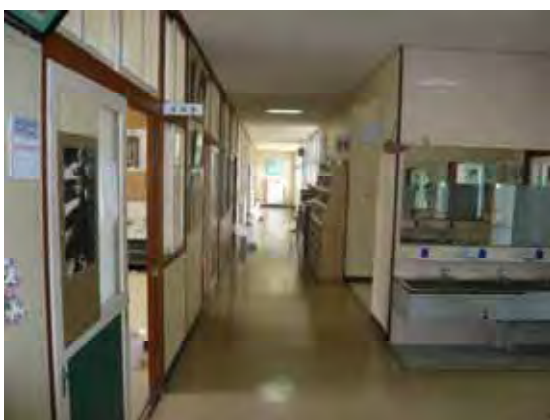


図 5-89 四万十楽舎廊下(左)(2007-8-25) 図 5-90 筒川文化センター廊下(右)(2007-7-22)両写真とも著者撮影



図 5-91 小国ふる里ふれあい村楯山荘廊下(左)(2007-8-17) 図 5-92 沼沢湖山荘廊下(右)(2007-8-18)

5-9-2 廊下における物品・設備数の分析

(1) 廊下における物品・設備数

廊下における物品・設備の数を表 5-43 に示す。一部を除くほとんどの施設に共通して設置されているのが「手洗い場」である。手洗い場は、学校時代のまま活用している施設と、シンクの部分を新調して使用している施設がある。客室には水道が整備されていない場合が多く、客は手洗いや洗顔を廊下に出て行うことになる。

「手洗い場」以外では「児童用椅子・机」、「卒業生の作品」が目立つ。

表 5-43 廊下における物品・設備

	杣の里よこみち	沼沢湖山荘	四季の丘	筒川文化センター	なみの高原やすらぎ交流館	いまいち山荘	里山交流館本館	里山交流館別館	スターフォレスト利賀	四万十楽舎	海ぼうず	楯山荘	希望の丘	鈴鹿峠自然の家	さんさん館	計
手洗い場	1	2		3		2	2	1	1	3	2	2	1		1	21
児童用椅子							1			1	1		5		11	19
卒業生の作品											8	5	1	2		16
児童用机					1				2	2	1		2		1	9
スチールロッカー				3		2			2							7
木製ロッカー					2					2		1				5
靴箱			2											2		4
掲示板	1						1							2		4
展示用ガラス棚													2	2		4
「放送中」灯								1		1				1		3
オルガン													1		2	3
鏡								1					1	1		3
卒業記念写真												3				3
ソファ														3		3
教卓									1	1						2
ベル												2				2
木製ベンチ														2		2
移動型黒板										1						1
温度計													1			1
学校年表												1				1
教員用机													1			1
月間予定表黒板								1								1
校旗											1					1
時間割表													1			1
地図模型														1		1
ちりとり														1		1
電話機															1	1
時計															1	1
宮城県地図															1	1
木製棚								1								1
歴史年表												1				1
計	2	2	2	6	3	4	4	5	6	11	13	15	16	17	18	124

(2)廊下における物品・設備の系統の分析

物品・設備の系統を図 5-93 に示す。物品・設備ともに校具の割合が多くを占めているのがわかる。(1)でも述べたように、廊下には教具は「卒業生の作品」や年表などの掲示物であり、それ以外は物品を収納の出来るロッカー類や、台代わりになる児童用机・椅子などの機能的な物品・設備が多く見受けられる。

また、木造校舎における板張りの廊下の魅力を守るとともに、消防法第 1 章第 8 条の 2 の 4¹⁴⁾では、以下のように定められており、廊下は常に歩きやすいように管理する義務がある。

消防法第8条の2の4

学校、病院、工場、事業場、興行場、百貨店、旅館、飲食店、地下街、複合用途防火対象物その他の防火対象物で政令で定めるものの管理について権原を有する者は、当該防火対象物の廊下、階段、避難口その他の避難上必要な施設について避難の支障になる物件が放置され、又はみだりに存置されないように管理し、かつ、防火戸についてその閉鎖の支障になる物件が放置され、又はみだりに存置されないように管理しなければならない

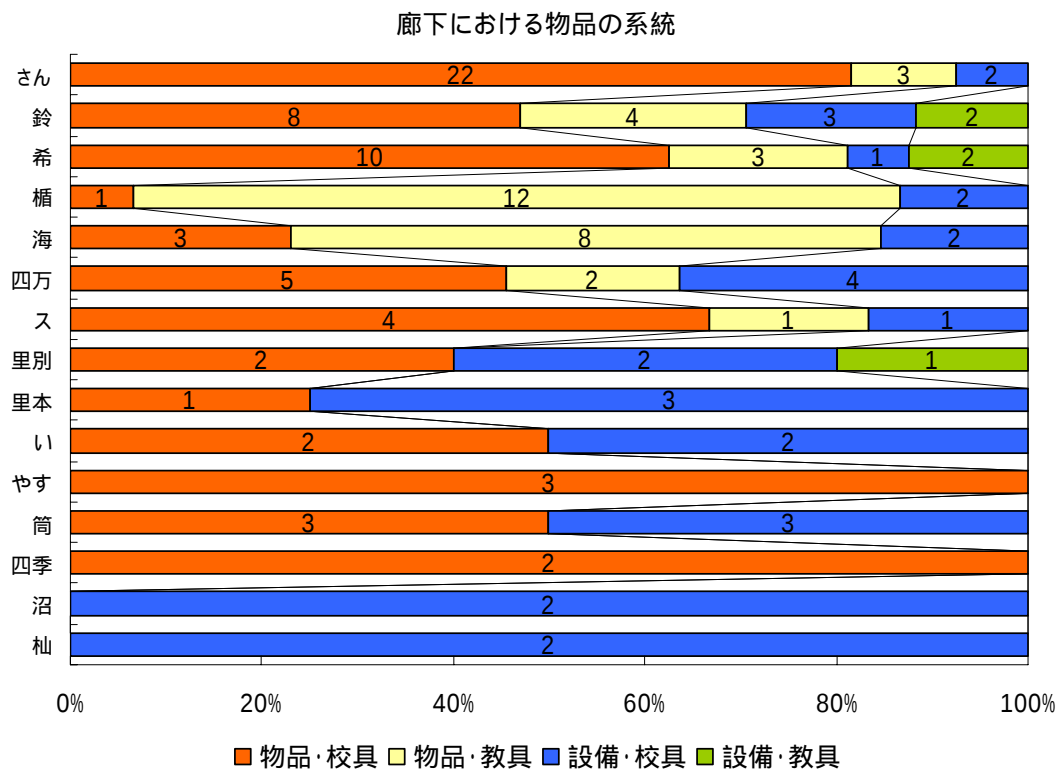


図 5-93 廊下における物品・設備の系統

(3)廊下における物品・設備のコンバージョンレベルによる比較

物品・設備をコンバージョンレベルで比較したものを図 5-94 に示す。

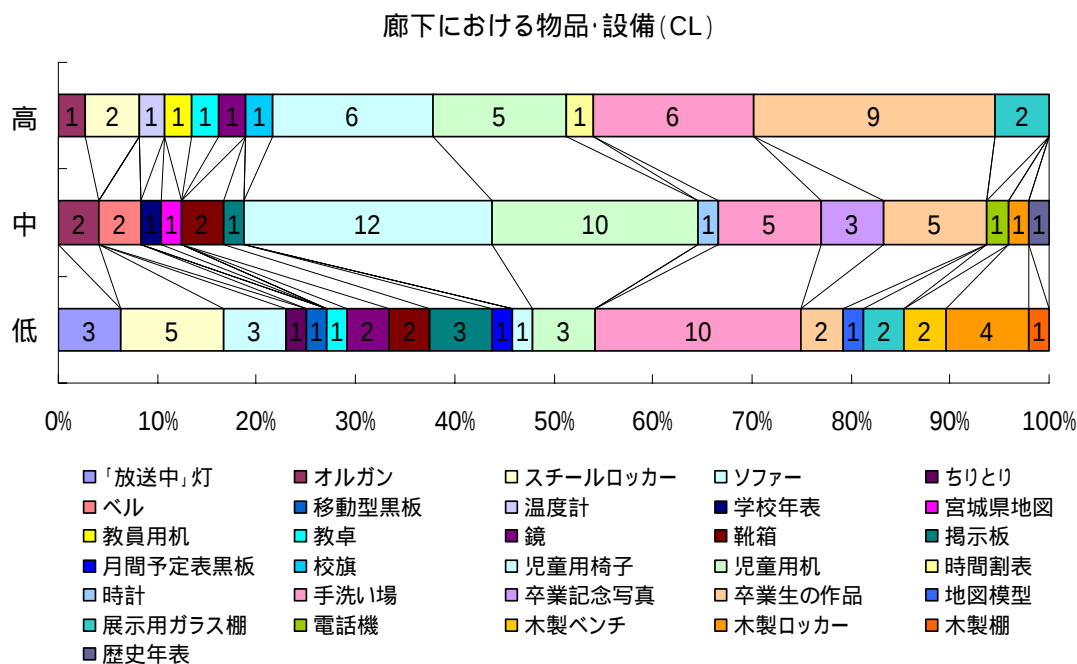


図 5-94 廊下における物品・設備をコンバージョンレベルで比較

「手洗い場」に着目すると、コンバージョンレベルの低い施設に集中している。逆に、「卒業生の作品」の数はコンバージョンレベルと比例関係にあることがわかる。

これらのことからわかるのは、廃校宿舎では、手洗い場のような移動できない設備は老朽化や不衛生などの理由がない限り、残そうとする動きがある。至る所に「手洗い場」がある廊下は、学校独自の造りなので、コンバージョンレベルの低い施設にはその造りを大事にしようという、運営者の思いが強いのではないかと考えられる。例としてコンバージョンレベルの低い廃校宿舎である、『杣の里よこみち』の「創業の経緯と運営指針」¹⁵⁾によると、木造校舎について「学校施設を再利用するメリットとして(考えられるのは)木の温もりが伝わり都市住民の理想の館である。ふるきよき時代の生き証人とも言える」¹⁵⁾と述べている。

また、レベルの高い施設は、廊下に「卒業生の作品」を飾ることで、「学校の歴史を振り返るギャラリー」としているのではないだろうか。「作品は卒業生の方に好評」¹⁶⁾といったように廊下という目のつく場所に作品を飾ることにより、コンバージョンによって整備された建物の中でも、卒業生をはじめとする来訪者に対して、学校の記憶を忘れないようにとの願いがこめられているのではないか、と推察できる。

(4)廊下における物品・設備の活用法

廊下の物品・設備を活用法別にグラフ化したものを図 5-95 に示す。

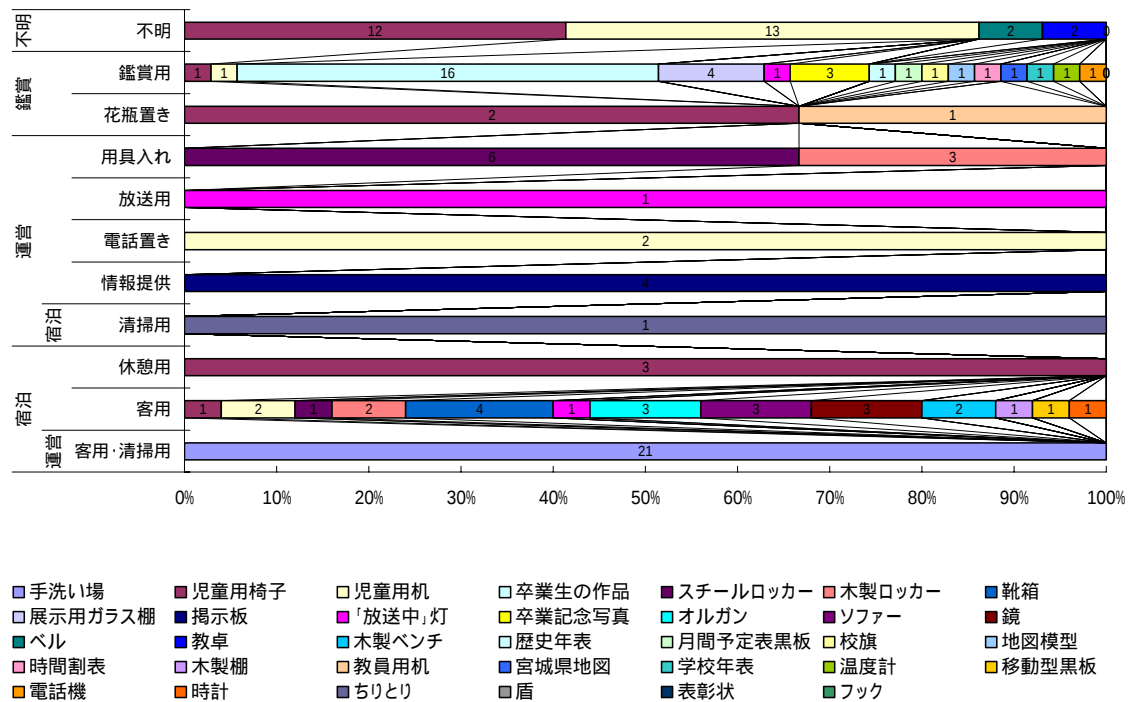


図 5-95 廊下における活用法の割合

活用タイプ「宿泊」には「靴箱」「鏡」休憩用に置かれた「ソファ」などがあるが、その中で楽器の「オルガン」に着目する。「これはお客さんが自由に弾けるように置いてある⁹⁾」というように、廃校時に音楽室で大量に残ってしまう楽器の活用の一つとして、廊下に設置する施設がある。廃校宿舍内はBGMが流れることがほとんどないので、客がこのオルガンを弾く音がBGMの代わりになれば、という思いからであろう。

活用タイプ「鑑賞」は前述の「卒業生の作品」の他に、「展示用ガラス棚」がある。これは、学校時代に、児童らが図工の授業などで作った作品を展示するためのもので、優れた作品は展示され、周りの注目を浴びたそうである。作品以外にも「昔から学校の庭から縄文土器が見つかるので、現在でも見つけた土器は展示するようにしている」¹⁷⁾といったように学校時代から児童の教材としても活用されており、現在でも客に学校周辺の風土を知ってもらえる展示物となっている。

活用タイプ「運営」は、黒板類を用いて「情報提供」、ロッカー類を「用具入れ」といったように活用されている。「運営・宿泊」タイプの「ちりとり」は5-2-1(2)で述べたとおり、運営者・客の両方が物品を使う事例である。

(5)廊下の物品・設備と廃校宿舍の重視するサービスの関係

廃校宿舍が重視するサービスの違いと廊下における物品・設備のクロスを行った結果を以下の図 5-96 に示す。

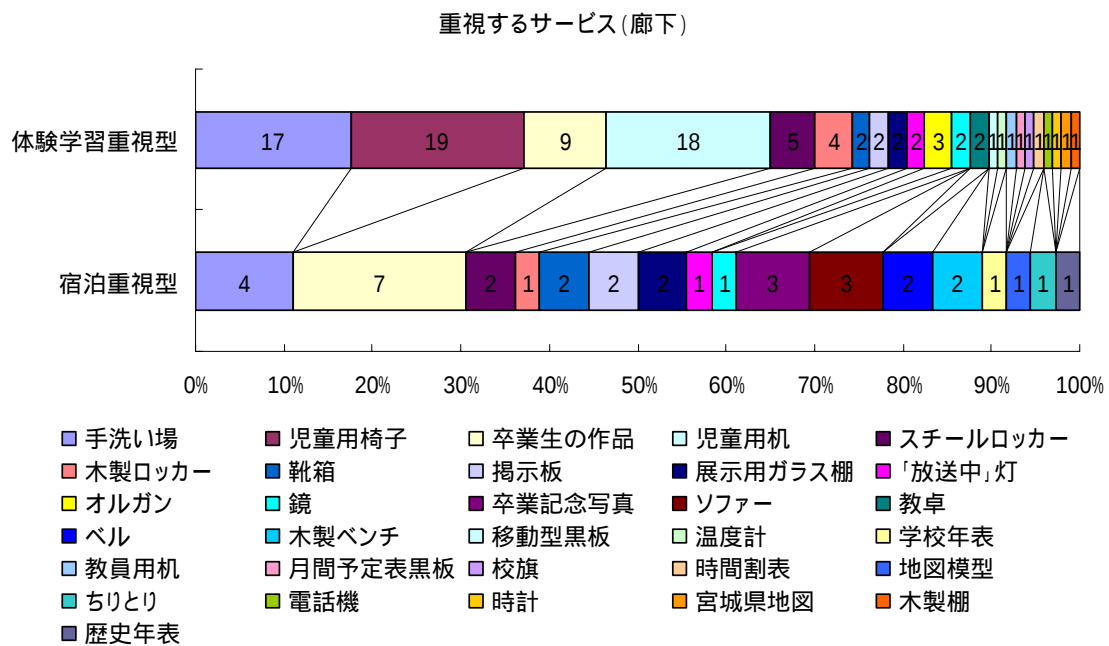


図 5-96 廊下における重視するサービスの違いと物品・設備

廊下における物品・設備の種類は体験学習重視型と宿泊重視型では大きな違いが見られない。「児童用椅子・机」が体験学習重視型にのみ存在するが、活用法は「花瓶置き」や「休憩用」などで、体験学習自体には関連がないと考えられる(図 5-97)。

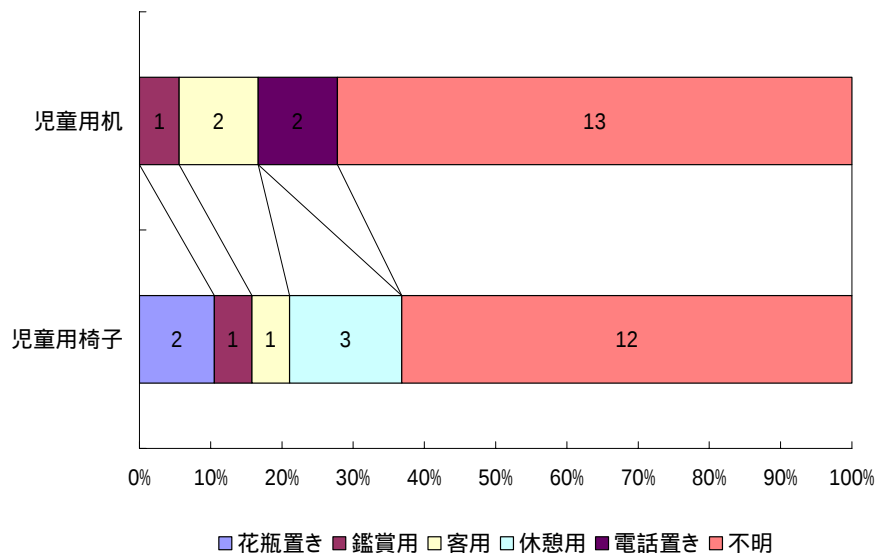


図 5-97 廊下における「児童用椅子・机」の活用法

体験学習重視型と宿泊重視型療法に存在する「掲示版」には、様々な掲示物が張られているが、中には宿泊・体験をした客から廃校宿舍や管理人に対しての感謝の手紙

が掲示されていることがある（図 5-98,5-99）。また、体験学習重視型には、メッセージ内に具体的な体験の内容が述べられている。

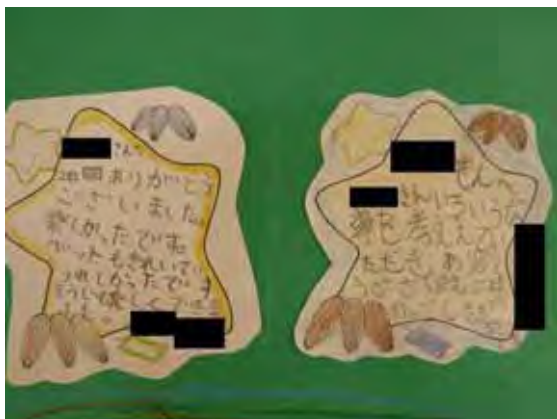


図 5-98 感謝のメッセージが貼られている掲示板（左：鈴鹿峠自然の家 2007-8-7 著者撮影）

図 5-99 感謝の手紙（右：杣の里よこみち 2007-8-3 著者撮影）

掲示板以外に、廊下の壁面などには体験学習で製作した作品や体験の様子の写真も掲示されている（図 5-100,5-101）ことから、廊下という場所は客に対して、体験学習の内容を具体的に伝えられる場として捉えることが出来る。



図 5-100 「蜜ローク作り体験」で製作したロークが展示されている廊下(左) 図 5-101 そば打ちなどの山村体験の様子の写真が掲示されている廊下壁面(右)(沼沢湖山荘 2007-8-18 著者撮影)

5-9-3 廊下景観を構成する物品・設備のまとめ

以上の分析から、廃校宿舎の廊下景観を構成する物品・設備について次のような考察が導かれる。

- ・廊下景観を構成する主な物品・設備は「手洗い場」「卒業生の作品」「ロッカー類」「児童用椅子・机」である。
- ・共用スペースである廊下は、ロッカー類などの機能的な校具が多くを占める。
- ・廊下の雰囲気を変えないよう、物品・設備は控え目にしている。
- ・コンバージョンレベルが低い施設は「手洗い場」を残そうとする動きがある。
- ・コンバージョンレベルが高い施設は廊下に「卒業生の作品」を飾ることによって、学校の歴史を風化させないようにしている。
- ・廊下に存在する物品・設備は、「オルガン」のように廃校宿舎の雰囲気を作り出すもの、「展示用ガラス棚」のように学校の歴史・風土を知ってもらうためのもの、「ロッカー類」「黒板類」のように物品の収納や客への案内を行うもの等、様々な役割を担っている。

【第五章 引用文献リスト】

- 1) しもなの郷管理人,2007-8-24,私信
- 2) 法令データ提供システム：小学校設置基準(平成十四年三月二十九日文部科学省令第十四号)
< <http://law.e-gov.go.jp/htmldata/H14/H14F20001000014.html> > ,2007-12-20
- 3) 鈴鹿峠自然の家管理人,2007-8-7,私信
- 4) 商品科学研究所:生活財生態学 大都市・地方都市・農村・漁村「豊かな生活」へのリストラ,116-117,同発行(1993)
- 5) なみの高原やすらぎ交流館管理人,2007-8-31,私信
- 6) スターフォレスト利賀管理人,2007-8-18,私信
- 7) 四季の丘管理人,2007-9-3,私信
- 8) 杣の里よこみち管理人,2007-8-3,私信
- 9) 海ぼうず運営委員会：海ぼうずホームページ
< <http://www.amigo2.ne.jp/~seakids/> > ,2008-1-17
- 10) 楯山荘管理人,2007-8-17,私信
- 11) 希望の丘管理人,2007-8-20,私信
- 12) 交流の館八幡管理人,2007-8-17,私信
- 13) 旧林際小学校運営事業組合:グリーンツーリズム体験校舎の宿さんさん館
< <http://www5.ocn.ne.jp/~san3kan/index.html> >
- 14) 消防法第1章第8条の2の4
< <http://www.houko.com/00/01/S23/186.HTM#s3> > ,2008-1-10
- 15) ㈱杣の里よこみち:㈱杣の里よこみち創業の経緯と運営指針,1-3(2003)
- 16) 海ぼうず管理人 2007-8-8,私信
- 17) 希望の丘管理人,2007-8-20,私信

第六章 結論

6-1 緒言

第四章から第五章にかけて廃校宿舎のプロファイル・機能、コンバージョン、重視するサービス、物品・設備の把握を行った。

本章では、まず、廃校宿舎調査で得られた結果から「廃校宿舎とは何か」について論じる。第四章、第五章の結果から、廃校宿舎は「『学校』を演出する宿泊施設タイプ」「『宿泊』を演出する学校タイプ」の二つに分けられることがわかった。この 2 タイプから廃校宿舎を考察し、特徴を見出す。

次に、廃校宿舎における学校物品・設備をリユースについて考察し、廃校宿舎における学校物品・設備のリユースについて指針を見出す。

6-2 廃校宿舎とは

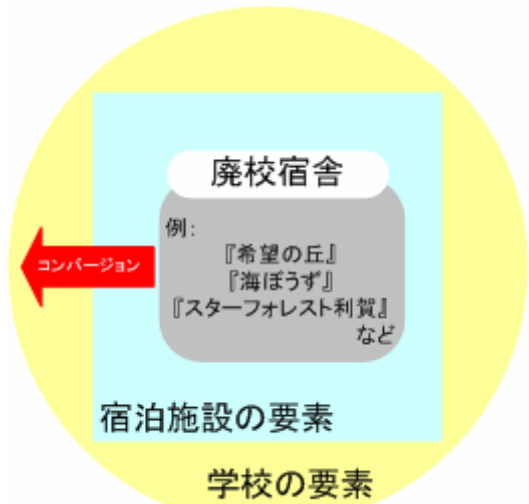
第四章では、廃校宿舎について全国の事例を調査し、廃校宿舎の全体像や特徴を把握した。その結果、コンバージョンレベルの違いによって、廃校宿舎の演出する要素に違いが出ることがわかった。また、第五章では、客室や会議室において、設置されている物品・設備には、「『学校』を演出するもの」「『宿泊施設』としての快適性を手助けするもの」といった特徴が見られた。

これらのことから、廃校宿舎の特徴について、以下のように廃校宿舎を「『学校』を演出する宿泊施設タイプ」「『宿泊』を演出する学校タイプ」に分けることが出来る。

6-2-1 「学校」を演出する宿泊施設タイプ

「学校」を演出する宿泊施設タイプの廃校宿舎を図 6-1、表 6-1 に示す。

表 6-1 「学校」を演出する宿泊施設タイプの廃校宿舎一覧(右)



「学校」を演出する宿泊施設タイプ

沼沢湖山荘
希望の丘
海ぼうず
山村自然楽校しもなの郷
スターフォレスト利賀
ふれあいの里 さかもと
なみの高原やすらぎ交流館
いまいち山荘
交流の館八幡
里山交流館本館

図 6-1 「学校」を演出する宿泊施設タイプの廃校宿舎(左)

このタイプは宿泊施設の要素をベースとして、「学校」を演出する要素を含んでいる。コンバージョンによって失われた「学校らしさ」を物品・設備や給食メニューの食事などによって補っており、「学校をイメージした宿」がコンセプトとなっている宿泊施設といえる。

『希望の丘』や『海ぼうず』『スターフォレスト利賀』に見られるように、客室や会議室といった、「教室であった部屋」に黒板をはじめとする教室の物品・設備を設置している施設は、廃校宿舎において「学校」を演出しようとする意図が見える。廃校宿舎の中でも、木造校舎によく見られたのが、「児童用椅子・机」や「黒板類」などの学校物品・設備が数多く残っており、転用前の建物が学校であることを強調している。

体験学習メニューの数や種類については『希望の丘』のように多種多様のメニューを用意している施設もあれば、『スターフォレスト利賀』のように少数の施設もあり、明確な傾向は見られない。

6-2-2 「宿泊」を演出する学校タイプ

「宿泊」を演出する学校タイプの廃校宿舎を図に表すと、図 6-2、表 6-2 のようになる。

表 6-2 「宿泊」を演出する学校タイプの廃校宿舎一覧(右)

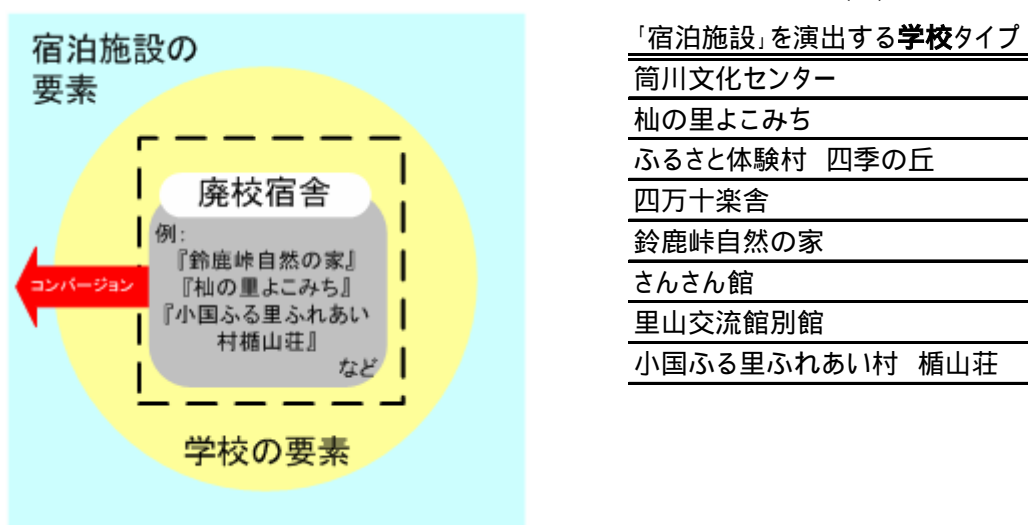


図 6-2 「宿泊」を演出する学校タイプの廃校宿舎(左)

図の通り、廃校宿舎の「学校」の要素をベースとした上で、宿泊施設の要素を含んでおり、「学校に泊まれる」というコンセプトを意識した廃校宿舎と言える。また、破線は転用前の学校を意味しており、学校が廃校になり、建物のコンバージョンによって、学校の要素を残しつつ「学校」の枠を超えた宿泊施設という、新たな用途に転用されている。

このタイプの特徴としては、外観や建物の構造は学校時代とほぼ同じであり、学校物品・設備の品目が多く、客室や食堂などを宿泊に必要な最低限の内装が備えられている。宿泊に

おける快適性や利便性よりも、学校としての造りを大事にした改装が行われており、現在貴重とされている木造校舎によく見られるタイプでもある。

体験メニューの数は、前述の「学校」を演出するタイプの廃校宿舎とは異なり、体験メニュー自体が存在しない施設もあり、廃校宿舎の建物そのものを魅力として売り出しているのだと考えられる。

6-3 物品・設備のリユース

次に、学校物品・設備のリユースについて論じる。物品・設備をリユースする場合、大きく分けて次の二つの方法がある。

- 物品・設備のオーセンティシティ（Authenticity）を重視して、物品・設備の本来の活用をする。（機能のリユース）
- 本来の使い方とは違う、廃校宿舎独自の活用をする。（意味の継承）

機能のリユースとは、学校がコンバージョンによって宿泊施設に転用されても、学校物品・設備が以前と同じように活用出来るリユースのことを指す。

意味の継承は、学校では発揮することのなかった物品・設備の、廃校宿舎独自の活用法のことを指す。

次項よりこの 2 つのリユース方法について、転用前後の物品・設備の活用法、廃校宿舎の 2 つのタイプとともに考察する。

6-3-1 物品・設備における機能のリユース

「機能のリユース」について、本研究で調査を行った廃校宿舎で確認できた、廃校宿舎の転用前後における物品・設備活用法の変化を表 6-3 に示す。

表 6-3 物品・設備の転用前後における用途の変化(機能のリユース)

転用前の活用法			廃校宿舎における活用法		
設置場所	物品・設備名	用途	設置場所	物品・設備名	用途
玄関	靴箱	児童・生徒用	→	玄関	靴箱 客用
	児童用椅子・机	児童・生徒用	→		児童用椅子・机 客用
食堂	調理器具	給食用	→	食堂	調理器具 食食用
	スチールロッカー	調理器具入れ	→		スチールロッカー 調理器具入れ
	黒板類	給食内容などの情報提供	→		黒板類 食事内容などの情報提供
体育館	校歌板	学校のシンボル	→	体育館	校歌板 学校のシンボル
	卒業生の作品	鑑賞用	→		卒業生の作品 鑑賞用
校庭	遊具類	児童・生徒用	→	校庭	遊具類 客用
廊下	手洗い場	児童・生徒用, 清掃用	→	廊下	手洗い場 客用, 清掃用

表からわかるように活用用途が「児童・生徒用」は「客用」へ、「給食用」が「食食用」と変わっている程度で、物品・設備の活用の仕方には変化が見られない。

これらのように物品・設備には、学校が宿泊施設へとコンバージョンが行われても、転用前と同様の活用が出来るものがある。宿泊施設として開業する際にこれらの物品・設備をリユースすることにより、開業にかかる費用を抑え、改装工事において発生する廃棄物の減少が見込める。

(1)「学校」を演出する宿泊施設タイプにおける機能のリユース

このタイプでは、物品・設備を「学校」を演出するために用いる傾向がある。そのため、多くの物品・設備は表 6-3 の活用が行われている。『希望の丘』では、客室における椅子・机のほとんどを「児童用椅子・机」によって賄うなど、徹底した活用をすることで、客に「学校」のイメージを強く思い起こさせる狙いがある。

このように、学校物品・設備を、従来の設置場所および用途のまま用いることで、学校の要素を前面に押し出し、「学校」を演出していることがわかる。

(2)「宿泊」を演出する学校タイプにおける機能のリユース

このタイプのベースとなる要素が「学校」であるため、物品・設備の活用法は表 6-3 と同様の場合が多い。しかし、「学校」を演出する宿泊施設タイプと明確に違うのは、物品・設備を演出の道具として活用していないという点にある。

具体例として挙げると、教室を客室に改装する際、「教室を客室に変える」のではなく、「宿泊に必要な物品・設備を教室に導入する」といった考えのもとに物品・設備が活用されている。このように、「宿泊」を演出する学校タイプの廃校宿舎は、無意識のうちに従来と同様の活用をしており、それが「学校に泊まれる」というコンセプトを実現してい

るのではないかと考えられる。

6-3-2 物品・設備における意味の継承

(1)意味の継承とは

前述した「意味の継承」について考察する。本研究の調査で、学校時代は一般的に「学習用」とされていた教具が、宿泊施設に転用されてからは学校時代とは異なる意味を持ち、それらが廃校宿舍景観客だけでなく、訪れる客に対しても何らかの影響を与えることがわかった。このように、物品・設備の持つ意味合いが転用前後で変化することを「意味の継承」と定義する。意味の継承のプロセスについて図 6-3 に示す。

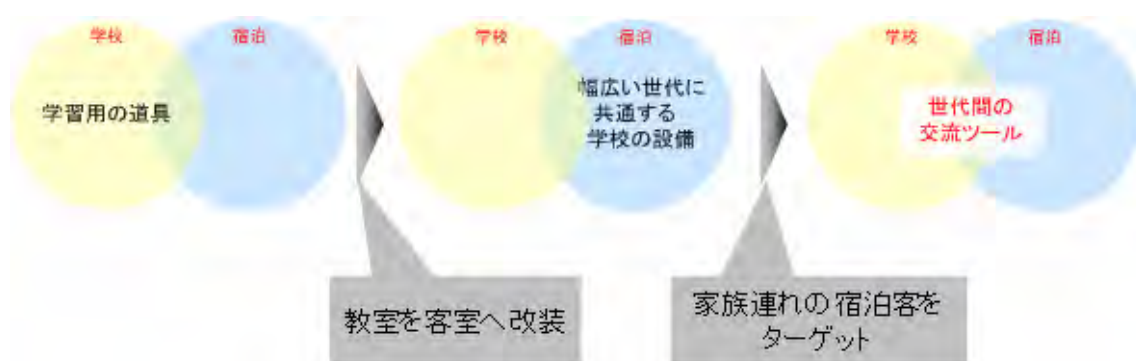


図 6-3 物品・設備の意味の継承におけるプロセス例

図では例として、教室が客室に改装されるまでの、教室にある「黒板大」が持つ意味の変化のプロセスを提示した。

学校時代、「黒板大」は「学習用」としての意味を持っていた。学校が廃校になり宿泊施設へ転用することが決まり、教室を客室へコンバージョンが行われる(図中)。その際黒板は客室に残しておくこと(図中)が決定する。

さらに、この廃校宿舍は家族連れをターゲットと定める(図中)。この時、黒板は「親子に共通した『学校』の印象を与える学校設備」という意味を持つようになる。そして廃校宿舍として開業し、黒板は「世代間の交流ツール」という新しい意味を持つこととなる。

このように図中における、

改装前の部屋・場所を何に改装するか

改装の際の物品・設備を残す、移動する、廃棄するなど、どのように処理するか

今後改装した部屋・場所をどのような人が利用するのか

の 3 つの要素によって、リユースされた物品・設備は新しい意味を持つこととなる。この意味の継承は、廃校にのみ言えることではなく、廃屋や廃駅、廃役場などに残存する物品・設備にも同様の可能性が考えられる。

過疎化の進む地域社会では、今後も廃校や廃屋などの廃墟が増加していくことが予想さ

れる。また、循環型社会の形成が叫ばれる現代において、この物品・設備における意味の継承は廃校に限らず、多方面において評価されるべき事柄であると言える。

(2) 廃校宿舎における意味の継承

廃校宿舎における転用前後の活用法の変化を表 6-4 に示す。

表 6-4 物品・設備の転用前後における用途の変化(意味の継承)

転用前の活用法			廃校宿舎における活用法		
設置場所	物品・設備名	用途	設置場所	物品・設備名	用途
教室	黒板類	学習用	客室	黒板類	世代間の交流ツール
	児童用椅子・机	学習用		児童用椅子・机	体験学習などの情報提供
体育館	黒板類	体育の授業	会議室	黒板類	体験学習などの情報提供
	卒業生の作品	設置されていない		児童用椅子・机	教室景観の形成
廊下	掲示板	学校行事・連絡事項の伝達	体育館	黒板類	体験学習などに使用
	黒板類	時間割等の予定表		卒業生の作品	廊下を学校のギャラリーとする
				掲示板	体験学習の紹介
				黒板類	館内の情報提供

この活用法は表 6-4 のような物品・設備の本来の活用法とは異なり、第 5 章の物品・設備調査の結果からわかる、「客室における黒板や児童用椅子・机が親子の交流ツールになる」といったように、学校では実現しなかった物品・設備の新しい可能性を秘めるものである。また、『希望の丘』の、教室を再現した会議室に見られるように、廃校宿舎内の様々な空間において、意図的に学校と同じ景観を作り出すことが出来る。

このリユースを行うことの利点は、一見宿泊施設では活用が難しい学校物品・設備でも、このように設置場所や用途を明確にすることによって廃校宿舎の魅力の一つとして売り出すことが出来、通常の宿泊施設と差別化を図ることが可能になることである。

(3) 「学校」を演出する宿泊施設タイプにおける意味の継承

表 6-4 にある、会議室の「児童用椅子・机」による教室景観の形成は、このタイプにおける真骨頂とも言える活用法である。会議室の机が児童用の椅子や机では、多少使用に不便な点が生じるが、施設内に一部屋でもこのような部屋があることで、客は強い「学校」のイメージを抱くことが予想できる。

また、廊下の「卒業生の作品」による学校のギャラリー化は、学校以外の施設の廊下と差別化の図りにくいタイル張りの廊下でも、客に「学校の場所」として認識させることが出来る。このように、学校のイメージの沸きにくい場所や、コンバージョンが進んだ施設においても、物品・設備の活用の仕方によって「学校」を演出することが可能となる。

(4)「宿泊」を演出する学校タイプにおける意味の継承

表 6-4 の客室の「黒板類」「児童用椅子・机」による世代間の交流ツールとしての活用は、このタイプの廃校宿舍が挙げる魅力の一つである「学校に泊まる」という物珍しさに加え、新たな意味を与えるものと考えられる。

ここで言う新たな意味とは、大人にとっては思い出の品であり、子どもにとっては日常生活でなじみの深い品である学校物品・設備を通じて、交流が図れることである。

このように「学校に泊まれる」ことが魅力の廃校宿舍では、物品・設備の通常の使用法に新たな意味を持った活用をすることが可能である。

6-4 廃校宿舍における物品・設備のリユース

本章では廃校宿舍の特徴と、学校物品・設備のリユースについて述べた。これらのことから言えることは、廃校宿舍はリユースの知恵が最大限発揮出来る場であるということである。

また、学校物品・設備については前節で述べたように、物品・設備本来の使い方で「学校の物品・設備」として扱うことも、物品・設備を学校時代とは違う使い方をするにより、意味の継承を実現することも可能である。

本研究ではこれらのリユースの方法を基に、廃校宿舍開業までにおける物品・設備の流れを、宿泊施設へとコンバージョンが行われる廃校における物品・設備のリユースの指針として提案する(図 6-4)。

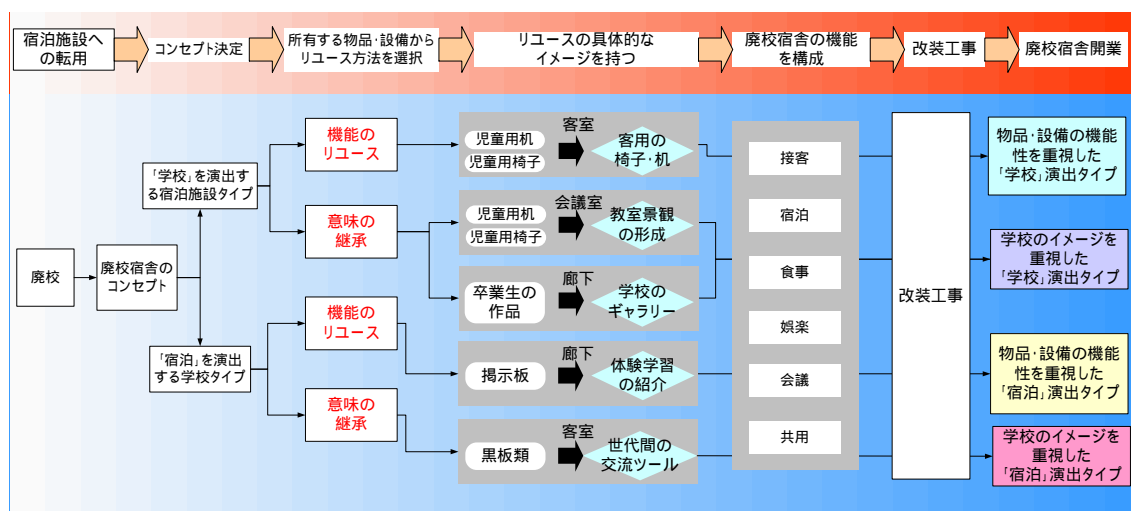


図 6-4 廃校宿舍開業までにおける物品・設備のリユースの流れ

図に示したとおり、廃校における物品・設備を活用するためには、まず廃校宿舍のコンセプトとして「『学校』を演出する宿泊施設」タイプなのか、「『宿泊』を演出する学校」タイプなのかを決定する。

次に、決定したコンセプトに従って、学校が所有する物品・設備から、どのリユースの方法が適切かを判断する。具体例として、廃校周辺に学校などがなく、大量の「児童用椅子・机」が残ってしまうとする。そこで、それらの椅子・机を客室に収容人数分設置し、客用の椅子・机として扱うことにより、「機能のリユース」が実現できる。または、施設内に教室を再現した会議室を設けることによって「児童用椅子・机」の「意味の継承」を果たすことが出来る。

このように物品・設備の具体的な活用方法をイメージし、廃校宿舎に必要な廃校宿舎景観を形成していくことが、物品・設備を有効活用するために重要となる。それらの案が固まり、リユースできる物品・設備の整理を行った後に改装工事を行い、廃校宿舎開業へと達することにより、学校が宿泊施設へとコンバージョンが行われた後でも、物品・設備を無駄なく活用することが出来る。

6-4-1 物品・設備の機能性を重視した「学校」演出タイプ

主に物品・設備における機能のリユースを重視した「学校」演出タイプの廃校宿舎は、宿泊の快適性を保つためにコストをかけて多くの新規の物品・設備の導入を行うが、学校物品・設備は機能の面を重視して活用している。意味の継承に比べ、学校のイメージを演出する効果が劣るものの、物品・設備の用途が明確なため実用性の高い活用が可能となる。

よってこのタイプは『しもの郷』や『ふれあいの里さかもと』に見られるような、学校物品・設備の活用は少なく、宿泊施設としての快適性を重視したい廃校宿舎に向いていると考えられる。

6-4-2 学校のイメージを重視した「学校」演出タイプ

次に、同じ「学校」演出タイプでも、主に物品・設備の意味の継承を重視した活用を行っている施設では、物品・設備の場所を変えずに用いることが多いため、機能のリユースに比べ、「学校」のイメージを演出する効果が高いと考えられる。

よってこのタイプは『海ぼうず』や『希望の丘』に見られるような、宿泊施設としての快適性と、学校としてのイメージ演出の両立を目指す廃校宿舎に向いていると考えられる。

6-4-3 物品・設備の機能性を重視した「宿泊」演出タイプ

「宿泊」を演出する学校タイプの廃校宿舎で、機能のリユースを重点的に行っているところは、学校本来の造りに手を加えず、物品・設備は機能の面を重視して活用している。学校物品・設備を多く活用しているため、コストはかからないが、汎用性の高い物品・設備が多いため、「学校」のイメージを演出する効果は低い。

よってこのタイプは『杣の里よこみち』や『さんさん館』に見られるような、学校物品・設備を多用することによって物品・設備のコストを抑えたい廃校宿舎に向いていると考えられる。

6-4-4 学校のイメージを重視した「宿泊」演出タイプ

物品・設備の意味の継承に重点を置いた「宿泊」を演出する学校タイプでは、学校物品・設備の多くを「世代間の交流ツール」や「教室景観の再現」などといった、客に学校を連想させる活用を行っている。

よってこのタイプは『四万十楽舎』や『鈴鹿峠自然の家』に見られるような、コストをかけずに「学校に泊まれる」というコンセプトを実現したい廃校宿舎に向いていると考えられる。

6-4-5 廃校宿舎の戦略に合わせた物品・設備の活用

以上4つのタイプを実現するためにかかるコストと学校イメージの演出効果を比較すると、図6-5のようになる。

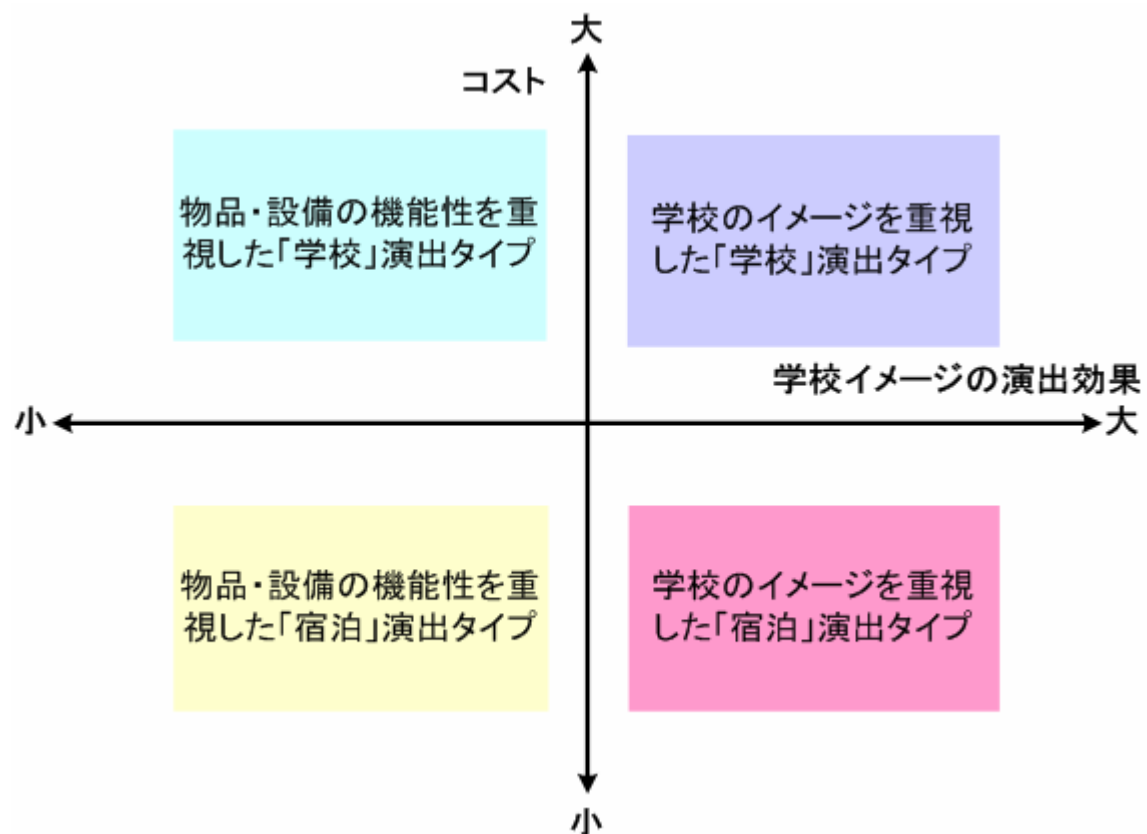


図 6-5 4タイプの廃校宿舎におけるコストと学校イメージの演出効果

図のように、廃校宿舎が演出しようとするイメージと物品・設備の活用方法を組み合わせることで、運営する廃校宿舎の戦略に合った物品・設備の有効活用が可能となる。

しかし、学校物品・設備を廃校宿舎で多用することが、必ずしも良い事だとは言えない。

本研究では、様々な物品・設備の活用法について言及した。それらの物品・設備は宿泊施設においても十分機能するものもあるが、大半は学習用に設置されていたものであり、すべての物品・設備がリユース可能ということではない。活用用途が不明な物を廃校宿舎に残しておく、かえって客に悪い印象を与えてしまう恐れがある。

今後廃校は増加傾向にあるため、ますます廃校を活用した施設が誕生することが予測される。それらを宿泊施設に転用する際には、前述のような物品・設備におけるリユースの限界を理解した上で、本研究で示した物品・設備の活用の流れを参考にしたりユースが行われることが望ましい。

6-5 今後の課題

6-5-1 一般性の欠如

本研究の課題として、廃校宿舎のみの事例でしか調査を出来なかったため、通常の宿泊施設との比較が出来ておらず、一般性に欠ける点が挙げられる。同地域の宿泊施設との比較や宿泊システムについては十分把握できていないため、本研究の結果は廃校宿舎にのみ当てはまる要素となっている。

したがって、今後の課題として、同地域における通常の宿泊施設と比較、考察することによって一般性の高い要素を抜き出す必要があると考える。

6-5-2 宿泊客の評価

次に、本研究の調査では、運営者のヒアリングと物品・設備の調査を行ったが、実際に宿泊客が学校物品・設備をどのように評価しているかは調査していない。今後本研究で得られた知見を廃校宿舎に生かしていくためには、リユースされた物品・設備の機能・意味を宿泊客の評価によって実証する必要がある。

6-5-3 新規の物品・設備について

最後に、本研究では廃校宿舎において学校物品・設備のみを対象に調査を行った。よって、廃校宿舎となってから設置されるようになった新規の物品・設備については調査が出来ておらず、廃校宿舎の空間を構成する物品・設備すべてについて把握が出来なかった。しかし、この点を把握することで、廃校宿舎の空間についてより深い考察が可能になるのではないだろうか。したがって、新規に設置された物品・設備の調査を行うことが今後の課題として必要であると考ええる。

6-5-4 物品・設備活用にかかるコストについて

第 6 章にて物品・設備のリユースについて提案をおこなったが、この提案には経済的な要因やコストについて厳密な調査を行っていない。実際に廃校宿舎でこのリユースを実現するにはコストについて調査・分析する必要があると考えられる。

【論文全体を通して参考とした文献】

- 1)仁賀崇之:環境共生型ペンションにおけるホストとゲストの多様な関係性に関する研究—
「舎櫨夢ヒュッテの」18年—,滋賀県立大学院環境科学研究科修士課程学位論文,1-93(2004)
- 2)岡田明子:建物ストックの観光的利用における価値と再生のメカニズム--過疎地における
廃校施設再生を事例に, 立教ビジネスデザイン研究 (2), 143-158(2005)
- 3)吉村彰,足名伸介:廃校(小・中・高等学校)施設の有効利用に関する建築計画的研究, 総合研
究所年報(24),57-64(2004)
- 4)河野学,吉村英祐,横田隆司,飯田匡:建築関連法規が廃校後の公立小学校の用途変更に及ぼ
す影響について : 京都市・大阪市・神戸市の場合,日本建築学会計画系論文集,
(609),47-52,2006
- 5)文部科学省施設助成課: 廃校リニューアル
< http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyosei/03062401/index.html > ,2008-01-23

文部科学省

[Home](#) > [教育](#) > [文教施設施策](#) > [公立学校の施設整備](#) > 余裕教室・廃校施設の有効活用

余裕教室・廃校施設の有効活用

近年、少子化に伴う児童生徒数の減少等により、教室が余ってしまったり又は学区の整理統合により廃校となってしまう学校施設が発生しています。

学校施設は、国庫補助金などの貴重な財源によって整備された施設であるとともに、地域住民にとっては身近な公共施設でもあることから、遊休スペースとなったり、学校としては使われなくなった後も、地域の実情や需要に応じて積極的に活用していくことが望ましいと考えられます。

文部科学省では、このような学校施設が有効に活用されるために、学校施設の転用手続の弾力化や簡素化を図りつつ、全国での活用事例を紹介して情報発信を行うなど、転用が出来るだけスムーズに進められるような環境を整えています。

余裕教室・廃校施設の状況

(余裕教室)

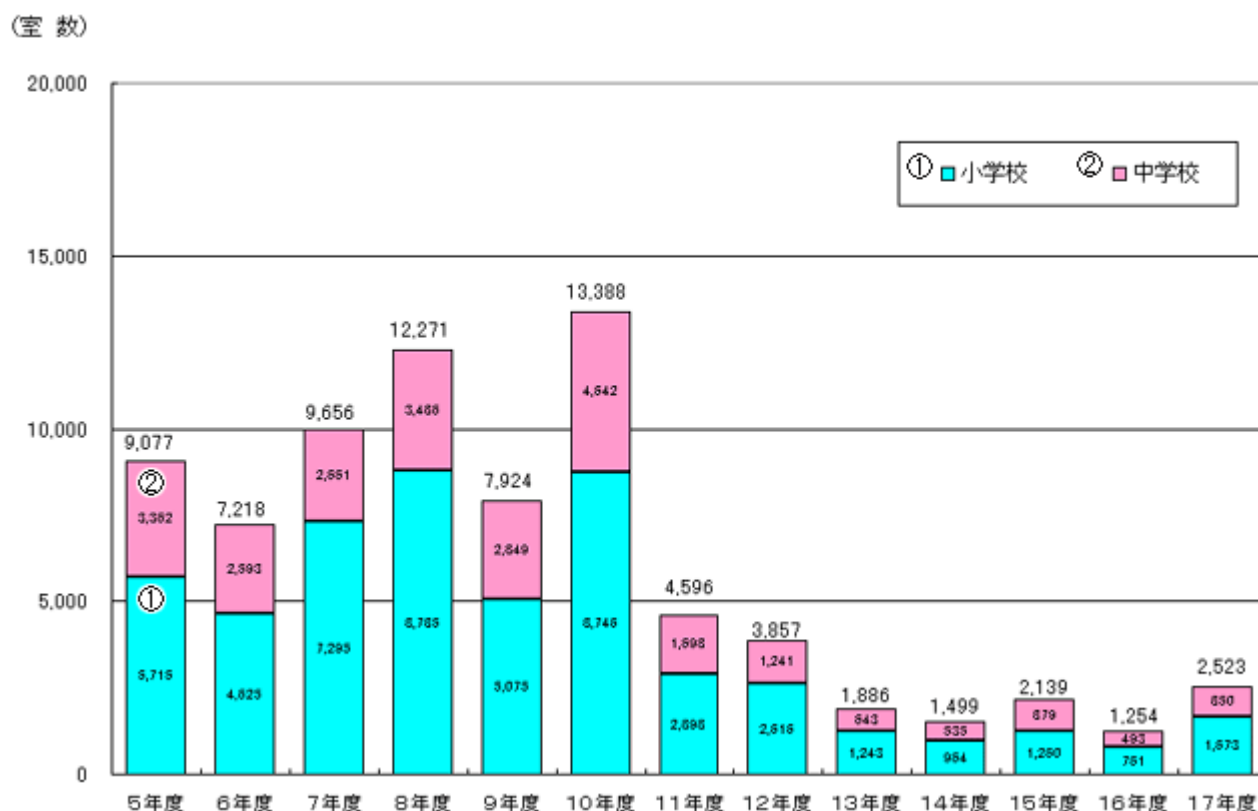
余裕教室とは、児童生徒数の減少等により、既存の教室数と比較して学級数が減少し、将来とも恒久的に余裕となると見込まれる教室のことをいいます。

この余裕教室は、調査を始めた平成5年時点に全国で約5万室あり、その後の発生分と合わせてこれまで累計で約12万5千室の余裕教室が発生してきました。

これらのほとんどは、既に何らかの施設に転用されており、その多くが当該学校の多目的教室や特別教室など引続き学校施設として使用され、活用率は97.7パーセントとなっています。そのほか、放課後児童クラブや高齢者デイケアセンターなどの学校以外の公共用施設にも転用されており、様々な用途に活用されています。

文部科学省では、余裕教室を、「将来とも恒久的に余裕となると見込まれる普通教室」と定義して集計しています。

(参考)新規発生余裕教室数



(参考) 公立学校の余裕教室活用状況

(単位: 教室数)

余裕教室数 (H5～H17累計) ①	余裕教室活用数(H5～H17累計)								平成18年5月1日現在の 余裕教室数 (①－②)
	②	学校施設 への活用	学校施設以外への転用						
			社会 教育 施設	備蓄 倉庫	児童 福祉 施設	社会 福祉 施設	その他		
126,866	124,343	120,963	3,380	842	362	1,327	154	695	2,523

(廃校施設)

廃校は、地域の児童生徒数が減少することにより、ある学校が他の学校と統合されたり、又は廃止されたりすることにより生じ、学校としては使わなくなることを行います。

児童生徒数が減少する原因には、少子化を背景として、過疎化による場合だけでなく、都市部での住宅の郊外移転や、人口における高齢者の割合が相対的に高くなったためなど、様々な地域の状況があります。

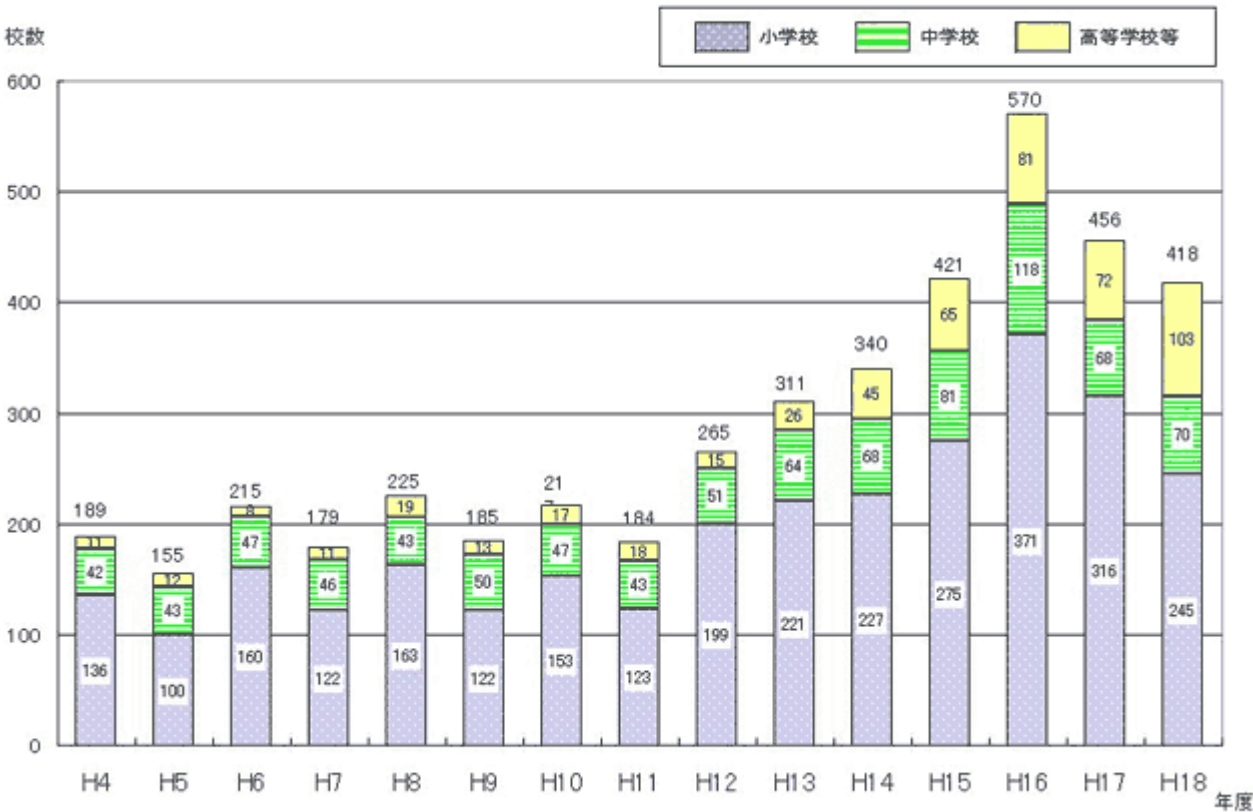
学校施設は、地域住民にとっての身近な公共施設であり、またその校舎などは地域のシンボリックな存在である場合も多く、廃校となった後も出来るだけ地域コミュニティの拠点として活かすことが重要であると考えます。

過去4年間の廃校については、建物が現存するもののうち、約6割が活用されていると報告されています。

活用用途としては、社会教育施設や社会体育施設の割合が高くなっていますが、自然体験交流施設や老人福祉施設など様々な施設として活用されています。

また、最近では地方公共団体と民間事業者とが連携し、創業支援のためのオフィスや地元特産品の加工会社の工場として廃校施設が活用されるなど、地域資源を活かし、地域経済の活性化につながるような活用もみられます。

(参考) 公立学校の年度別廃校数



(参考) 廃校後既存建物の主な活用用途 (平成19年5月現在)

(平成14～18年度廃校分)		
活用用途	件数	例
社会教育施設	359	公民館、資料館、生涯学習センター等
社会体育施設	329	スポーツセンター等
体験交流施設	81	自然体験施設、農業体験施設等
研修施設	49	
老人福祉施設	33	
文化施設	66	資料館、美術館等
庁舎等	93	
児童福祉施設・放課後児童クラブ	40	
宿泊施設(体験交流施設を除く宿泊施設)	13	
備蓄倉庫	32	
障害者福祉施設	31	
公営(職員)住宅	8	
医療施設	7	
創業支援施設	10	
※複数回答を含む。		

余裕教室・廃校施設の活用に向けて

上記のように、余裕教室や廃校施設の多くは、地方公共団体や地域住民の創意工夫により様々な施設へ転用され活用されています。

文部科学省では、こうした有効活用をより一層促進する観点から、次のことに取り組んでいます。

[財産処分手続の弾力化・簡素化]

本来、国庫補助金により整備された学校施設を学校教育以外の施設に転用する場合には、「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律」の規定により、当該施設を所管する地方公共団体は、文部科学大臣の承認を経た上で、国庫補助相当額を国に納付する転用手続(「財産処分手続」)が必要となります。

ただし、文部科学省においては、余裕教室や廃校施設の一層の有効活用を促進するため、一定の要件を満たせば、国庫納付を要さず、報告書の提出をもって手続きが済む簡素な取扱いにするなど、転用手続の弾力化・簡素化を図っており、施設の転用が出来るだけ円滑に進む仕組みにしています。

(参照：[公立学校施設整備費補助金等に係る財産処分手続の概要について](#))

[活用事例の情報提供]

余裕教室や廃校施設の活用を検討する際の参考とするため、活用状況の実態調査を行ったり、各種事例集・パンフレットを作成しています。

○ 調査研究

[「廃校施設の実態及び有効活用状況等調査研究報告書」\(平成15年4月\)](#)

○ 事例集・パンフレット

(各写真をクリックすると詳細がご覧いただけます。)



「余裕教室の転用」
(平成10年3月発行)



「余裕教室は夢のスペース」
(平成11年1月発行)



「学校がずっと素敵な場所になる。」
(平成13年3月発行)



・27年前の「ロス疑惑」新たな展開(10:52)NEW
 ・ホリエモンに「出頭命令」へ(11:15)NEW
 ・京王バス運転手が3件連続強姦(10:08)NEW
 ・川島なお美「結婚」どうなった(11:21)NEW



当サイトは**廃校**になった**校舎**を利用して営業、運営している**宿泊施設**の情報を集めたものです。
 以下のように所在地別に情報を分けてあります。
 (別ウィンドウで開きます)

[北海道\(10\)](#)

[東北\(20\)](#)

[関東\(06\)](#)

[中部\(17\)](#)

[近畿\(10\)](#)

[中国・四国\(28\)](#)

[九州・沖縄\(13\)](#)

カッコ内の数字は2007/12/10時点の掲載数です(総数:104)

お知らせ

廃校やど情報について

廃校やど情報のリンク切れは見つけたものから随時貼り直し作業をしております。
 廃校やどのかたからのご連絡も承っております。

【最近の更新状況】

Update 2007/12/10(月)

< timishinyaさん > から次の廃校やどに登校した時の情報をいただいたので掲載しました。

[高知県土佐町 瀬戸小学校](#)

更に、新たな2軒の廃校やどの存在を教えてくださいました。

[高知県大豊町 みどりの時計台](#)

[高知県仁淀川町 しもの郷](#)

< 今関さん > から次の廃校やどに登校した時の情報をいただいたので掲載しました。

[長野県信州新町 信州犀川交流センター](#)

Update 2007/10/27(土)

廃校やど情報についてリンク切れを調査し貼り直しました。

新たに見つけた以下の廃校やどを追加しました。

[沢の子の杜 わか杉](#)

Update 2007/06/24(日)

< 参謀さん > から次の廃校やどに登校した時の情報をいただいたので掲載しました。

[湯の小屋温泉 葉留日野山荘](#)

[光源の里温泉 ヘルシー美里](#)

Update 2007/04/15(日)

新たに見つけた以下の廃校やどを追加しました。

[秋田県藤里町「白神ぶなっこ教室」](#)

[過去の更新履歴はこちら](#)

廃校やど情報をメールする

皆さんの宿泊体験や未掲載の廃校やどをご存知ならぜひ教えてください！

実際にメールする際は(a)を@に変えてください(あまりに迷惑メールが多いので防衛策です)



principal2007(a)infoseek.jp

[校長室](#)

校長室も覗いてみてください。緊張する必要はありません。お気軽にどうぞ。(笑)



- ・「ブルーレイDIGA」が新登場 (2/23) NEW
- ・赤川次郎のミステリーをDSで (2/23) NEW
- ・花粉対策に!空気清浄機特集 (2/23) NEW
- ・こだわりの焼酎を大推薦 (2/23) NEW

館内のご案内

廃校の校舎をグリーンツーリズム・体験学習の拠点に



【校庭】

丘の上の小学校がそのまま残っております。
花壇、遊具、そして卒業生が残していった記念
の
モニュメントもその時のままです。



【客室】

大部屋3部屋、小部屋6部屋有。すべて和室
です。
団体の方もゆっくりくつろげる空間です。
学校当時の黒板もそのまま残しており、
教室の雰囲気も楽しめます。

[見取り図](#)



【食堂】

食事はこちらで召し上がっていただきます。
皆で揃って"いただきま〜す!!"



【娯楽室】

なつかしの図書室がそのままにしております。
窓からの風景も海が一望でき、落ち着ける空間
です。
『休憩コーナー』で団欒のひと時をお過ごし下さ
い。



【講堂】

広さ150畳、ステージ付。
左右窓が有り、明るく開放的です。
雨の日にも便利です。卓球台も2台有り。
室内練習、研修会等に使ってください。
使用料金：半日3,000円



【お料理】

地元の新鮮な魚を使った漁師料理が
好評です。刺身、はんぺんなど。
特別料理は予算に応じて承ります(要予約)
バーベキューハウスも有。お一人様2,000円。
肉、野菜、おにぎり2個。
団体用食事に応じます。(応相談)

グリーンツーリズム体験

校舎の宿 さんさん館



いらっしゃいませ。貴方は **057890** 人目のお客様です。



[ご利用案内
交通アクセス](#)



[体験学習・遊び
農業・林業・漁業](#)



[宿泊メニュー
施設案内](#)



[予約状況
予約申込み](#)



[関連リンク集](#)



2005年4月より体験メニューの内容と金額が変わりました。お申し込みの際はご注意ください。



[「農家まるごと体験」始めました！！詳細はこちら！](#)



[さんさん館掲示板](#)



[さんさん館日記！！](#)



[E-mail: iriya333@trust.ocn.ne.jp](mailto:iriya333@trust.ocn.ne.jp)

- ・参加料 1名様700円(原木1本、材料代込み)
- ・その他 軍手をご持参ください。

山菜採り体験

- ・開催日 4月～5月(ご希望の日)
 - ・場所 ふれあい山菜園
- ふれあいの里さかもとから遍路道を通り徒歩約20分
ふれあいの里さかもと集合
- ・内容 わらび、ぜんまい、いたどり、やまぶき等の山菜採りを行います。
5名様以上で実施します。(スタッフが案内します)
 - ・参加料 1名様500円(一定量以上は別途料金となります)
- お弁当と特製の山茶付きコース(1,000円)もあります。
春の野山で食べるお弁当は格別です。
- ・その他 5名様以上でお申し込みください。
山菜入れ、長ぐつをご持参ください。



芽茶作り体験

- ・開催日 4月～5月(日程は3か月程度前に決定します)
- ・場所 ふれあいの里さかもと及びその周辺
- ・内容 お茶の新芽を摘み味・香りの良い芽茶を作ります。
- ・参加料 1名様500円プラス材料代
- ・その他 ゴム手袋をご持参ください。

タケノコ掘り体験

- ・開催日 5月(日程は3か月程度前に決定します)
- ・内容 タケノコ掘りをします。掘ったタケノコは茹でてお持ち帰りできます。
- ・場所 ふれあいの里さかもと集合
- ・時間 10時～15時
- ・料金 1名様500円プラス材料代
- ・その他 軍手、長ぐつ、茹でたタケノコを入れる容器をご持参ください。

川遊び(ます釣り、ますつかみ取り)

- ・開催日 3月～7月(ご希望の日)
 - ・内容 自然がいっぱいの坂本川でます釣りやますのつかみ取りを行います。
 - ・場所 坂本川、わきあいあい池
- ふれあいの里さかもとから徒歩約10分、車で約3分
ふれあいの里さかもと集合
- ・料金 貸し竿(えさ付き)500円、1匹300円
 - ・その他 入漁券は不要です。
- 申し込み時に、釣り又はつかみ取りの別及び希望匹数をお知らせください。
地元釣りクラブ「わきあいあい釣りクラブ」のメンバーが指導します。
クーラーをご持参ください。
5名様以上でお申し込みください。(子どもの場合は保護者同伴)
貸し竿(えさ付き)のみのコース(300円)もあります。



梅採り体験

- ・開催日 6月(日程は3か月程度前に決定します)
 - ・場所 ふれあいの里さかもと及びその周辺
 - ・内容 梅採りをするとともに、梅干しの作り方をお教えます。
- 無農薬です。採った梅はお持ち帰りできます。(有料)
- ・参加料 1名様500円プラス材料代
 - ・その他 軍手、長ぐつをご持参ください。

杣の里で出来る体験メニューです。

そばつくり



杣の里では色々な体験ができます。そば打ち体験の様子です。

打ったそばをお土産にお持ち帰り

地元産のそばと「挽きたて、打ちたて、茹でたて」の三たてにこだわり、杣の里秘伝の「おつゆ」そして、地元産のわさびをのせたそばは、絶品の味。その全工程を伝授します。

体験料金 1回 6,300円(2名以上)要予約
出来上がり 12人前位
利用時間 9:00～16:00
所要時間 2～3時間

豆腐づくり

素朴な感動を味わってみませんか。

大豆から豆腐になる迄の昔ながらの工程を体験。
出来たての風味豊かな豆腐をその場で試食、豆乳だって飲めますよ。
ご家庭のお土産にお持ち帰りもできます。

体験料金 1回 6,300円(2名以上)要予約
出来上がり 30丁
利用時間 9:00～16:00
所要時間 2～3時間

こんにゃくづくり

本格的なこんにゃくを作ってみませんか。

こんにゃく芋から形になっていく様子を体験してみませんか？
本来の味が出て大変おいしいです。

体験料金 1回 6,300円(2名以上)要予約
出来上がり 8枚
利用時間 9:00～16:00
所要時間 2～3時間

[戻る](#)

グリーン・ツーリズム 農林業体験

木造校舎に

イベント情報

基本 概念

施設 案内

宿泊 案内

体験メニュー

お 申 込 み

ア ク セ ス

< 高齢者・障害者も家族連れも全員が楽しく安心して泊まれる・食べられる・体験

基本 姿勢

- ▶ 設計コンセプト
- ▶ 敷地と周囲環境
- ▶ 外部空間構成
- ▶ 内部空間構成

施設 案内

- ▶ 施設の案内図
- ▶ 快適な設備

宿泊 案内

- ▶ 宿泊利用料金
- ▶ 宿泊利用説明
- ▶ 会食利用説明

体験メニュー

- ▶ そば打ち体験
- ▶ もちつき体験
- ▶ ジャムづくり体験
- ▶ 薪割り体験
- ▶ なめこ採り体験
- ▶ 農業体験(PDF)
- ▶ 食の体験(PDF)
- ▶ 林業体験(PDF)
- ▶ 地元名人教室(PDF)
- ▶ ユニバーサル交流&農林業体験(PDF)

お 申 込 み

- ▶ オンライン申込
- ▶ FAXで申込

ア ク セ ス

- ▶ 高速道を利用する
- ▶ JRを利用する

日記(ブログ)

- ▶ 希望の丘日記(ブログ)

お 問 合 せ

- ▶ E-mail
- ▶ 0195-72-3461



学校の宿「希望の丘」の日記(ブログ)はじめました

「希望の丘」は廃校になった旧五日市小学校の校歌のタイトルです。

廃校になった五日市小学校は築46年、木造校舎のなつかしい風景のそ山ぶどうの畑、遠くには牛や牧草地そして山々が点在します。

■ ご注文受付中！3日前までにご予約を…。配達OK！



地元産が盛りだくさん！豪華メニュー！
杜仲茶ポーク付

◎旬の配達弁当 1,000円◎
(いなきびご飯、みそ汁付)

※野菜によってメニューが多少変わります。ご了承ください。

績

ランチ・メニュー (午前11時～午後2時)

水曜日定休

豆腐のカレー……700円

杜仲茶ポーク

しょうが焼定食……650円

1



楽しみなデザート付
秋の旬味弁当・・・780円

▲ レギュラーコーヒー・そば茶はご自由にお飲みください ▲

教室で食べる給食 (午前11時～午後2時)

大人の給食・・・880円

なつかしの給食・・・680円



揚げパン、ビン牛乳、いなきびご飯、デザート
杜仲茶ポーク入りサラダ、カレーシチュウ



コッペパン、ビン牛乳、デザート、カレーシチュ
マーガリン&ジャム付

▲ コーヒー別料金になります ▲

喫茶メニュースタート (午後2時～午後5時)



コーヒー好きはたまらない
新しいコーヒーのう
〈自分でひいて好みの味に仕上げる〉
石臼コーヒー 500円
〈こだわりの雑穀パン・いなきび・えごま・たかきび〉
石臼コーヒー 雑穀パンセット 780円

▲ このほかにもドリンクメニューございます ▲

楽しみなデザート付
手づくり弁当 & 一日5個限定！
旬の味弁当・・・780円
いなきびご飯、杜仲茶ポーク、みそ汁付

野菜によってメニューが多少変わります。ご了承ください。





ユニバーサル交流&農林業体験<学校の宿>希望の丘

学校の宿「希望の丘」予約専用 TEL 0195-72-3461(代)
運営 旧五日市小学校運営組合TEL・FAX 0195-72-3462
〒028-7531 岩手県八幡平市安代地区上の山109番地

旅館業法施行令

昭和32・6・21・政令152号
改正昭和45・7・6・政令213号
改正平成12・6・7・政令309号 - -
改正平成14・11・7・政令329号 - -

(構造設備の基準)

- 第1条** 旅館業法(以下「法」という。)第3条第2項の規定によるホテル営業の施設の構造設備の基準は、次のとおりとする。
1. 客室の数は、10室以上であること。
 2. 洋式の構造設備による客室は、次の要件を満たすものであること。
 - イ 一客室の床面積は、9平方メートル以上であること。
 - ロ 寝具は、洋式のものであること。
 - ハ 出入口及び窓は、かぎをかけることができるものであること。
 - ニ 出入口及び窓を除き、客室と他の客室、廊下等との境は、壁造りであること。
 3. 和式の構造設備による客室は、第2項第2号に該当するものであること。
 4. 宿泊しようとする者との面接に適する玄関帳場その他これに類する設備を有すること。
 5. 適当な換気、採光、照明、防湿及び排水の設備を有すること。
 6. 宿泊者の需要を満たすことができる適当な数の洋式浴室又はシャワー室を有すること。
 7. 宿泊者の需要を満たすことができる適当な規模の洗面設備を有すること。
 8. 当該施設の規模に応じた適当な暖房の設備があること。
 9. 便所は、水洗式であり、かつ、座便式のものがあり、共同用のものにあつては、男子用及び女子用の区分があること。
 10. 当該施設の設置場所が法第3条第3項各号に掲げる施設(以下「学校等」という。)の敷地(これらの用に供するものと決定した土地を含む。以下同じ。)の周囲おおむね100メートルの区域内にある場合には、当該学校等から客室又は客にダンス若しくは射幸心をそそるおそれがある遊技をさせるホールその他の設備の内部を見とおすことをさえぎることができる設備を有すること。
 11. その他都道府県が条例で定める構造設備の基準に適合すること。
- 2 **法第3条**第2項の規定による旅館営業の施設の構造設備の基準は、次のとおりとする。
1. 客室の数は、5室以上であること。
 2. 和式の構造設備による客室の床面積は、それぞれ7平方メートル以上で

(改正) 平14政329

(改正) 平14政329

(改正) 平14政329

あること。

3. 洋式の構造設備による客室は、前項第2号に該当するものであること。
4. 宿泊しようとする者との面接に適する玄関帳場その他これに類する設備を有すること。
5. 適当な換気、採光、照明、防湿及び排水の設備を有すること。
6. 当該施設に近接して公衆浴場がある等入浴に支障をきたさないと認められる場合を除き、宿泊者の需要を満たすことができる適当な規模の入浴設備を有すること。
7. 宿泊者の需要を満たすことができる適当な規模の洗面設備を有すること。
8. 適当な数の便所を有すること。
9. 当該施設の設置場所が学校等の敷地の周囲おおむね100メートルの区域内にある場合には、当該学校等から客室又は客にダンス若しくは射幸心をそそるおそれがある遊技をさせるホールその他の設備の内部を見とおすことをさえざることができる設備を有すること。
10. その他都道府県が条例で定める構造設備の基準に適合すること。

3 法第3条第2項の規定による簡易宿所営業の施設の構造設備の基準は、次のとおりとする。

1. 客室の延床面積は、33平方メートル以上であること。
2. 階層式寝台を有する場合には、上段と下段の間隔は、おおむね1メートル以上であること。
3. 適当な換気、採光、照明、防湿及び排水の設備を有すること。
4. 当該施設に近接して公衆浴場がある等入浴に支障をきたさないと認められる場合を除き、宿泊者の需要を満たすことができる規模の入浴設備を有すること。
5. 宿泊者の需要を満たすことができる適当な規模の洗面設備を有すること。
6. 適当な数の便所を有すること。
7. その他都道府県が条例で定める構造設備の基準に適合すること。

4 法第3条第2項の規定による下宿営業の施設の構造設備の基準は、次のとおりとする。

1. 適当な換気、採光、照明、防湿及び排水の設備を有すること。
2. 当該施設に近接して公衆浴場がある等入浴に支障をきたさないと認められる場合を除き、宿泊者の需要を満たすことができる規模の入浴設備を有すること。
3. 宿泊者の需要を満たすことができる適当な規模の洗面設備を有すること。
4. 適当な数の便所を有すること。
5. その他都道府県が条例で定める構造設備の基準に適合すること。

(改正) 平14政329

(構造設備の基準の特例)

第2条 ホテル営業、旅館営業又は簡易宿所営業の施設のうち、季節的に利用されるもの、交通が著しく不便な地域にあるものその他特別の事情があるも

のであつて、厚生労働省令で定めるものについては、前条第1項から第3項までに定める基準に関して、厚生労働省令で必要な特例を定めることができる。

(利用基準)

第3条 営業者は、営業の施設を利用させるについては、次の基準によらなければならない。

1. 善良の風俗が害されるような文書、図画その他の物件を営業の施設に掲示し、又は備え付けないこと。
2. 善良の風俗が害されるような広告物を掲示しないこと。

附 則(抄)

(施行期日)

- 1 この政令は、公布の日から施行する。

- 3 消防長又は消防署長は、第1項の規定による認定をしたとき、又は認定をしないことを決定したときは、総務省令で定めるところにより、その旨を申請者に通知しなければならない。
- 4 第1項の規定による認定を受けた防火対象物について、次のいずれかに該当することとなつたときは、当該認定は、その効力を失う。
 1. 当該認定を受けてから3年が経過したとき(当該認定を受けてから3年が経過する前に当該防火対象物について第2項の規定による申請がされている場合にあつては、前項の規定による通知があつたとき。)。
 2. 当該防火対象物の管理について権原を有する者に変更があつたとき。
- 5 第1項の規定による認定を受けた防火対象物について、当該防火対象物の管理について権原を有する者に変更があつたときは、当該変更前の権原を有する者は、総務省令で定めるところにより、その旨を消防長又は消防署長に届け出なければならない。

[\(追加\) 平14法030](#)

第8条の2の4 学校、病院、工場、事業場、興行場、百貨店、旅館、飲食店、地下街、複合用途防火対象物その他の防火対象物で政令で定めるものの管理について権原を有する者は、当該防火対象物の廊下、階段、避難口その他の避難上必要な施設について避難の支障になる物件が放置され、又はみだりに存置されないように管理し、かつ、防火戸についてその閉鎖の支障になる物件が放置され、又はみだりに存置されないように管理しなければならない。

[\(追加\) 平14法030](#)

第8条の3 高層建築物若しくは地下街又は劇場、キャバレー、旅館、病院その他の政令で定める防火対象物において使用する防災対象物品(どん帳、カーテン、展示用合板その他これらに類する物品で政令で定めるものをいう。以下同じ。)は、政令で定める基準以上の防災性能を有するものでなければならない。

- 2 防災対象物品又はその材料で前項の防災性能を有するもの(以下この条において「防災物品」という。)には、総務省令で定めるところにより、同項の防災性能を有するものである旨の表示を附することができる。
- 3 何人も、防災対象物品又はその材料に、別項の規定により表示を附する場合及び工業標準化法(昭和24年法律第185号)その他政令で定める法律の規定により防災対象物品又はその材料の防災性能に関する表示で総務省令で定めるもの(以下この条において「指定表示」という。)を附する場合を除くほか、同項の表示又はこれと紛らわしい表示を附してはならない。
- 4 防災対象物品又はその材料は、第2項の表示又は指定表示が附されているものでなければ、防災物品として販売し、又は販売のために陳列してはならない。

[\(改正\) 平11法160](#)

[\(改正\) 平11法160](#)

[\(改正\) 平11法160](#)

小学校設置基準**(平成十四年三月二十九日文部科学省令第十四号)**

最終改正:平成一九年一二月二五日文部科学省令第四〇号

(最終改正までの未施行法令)

[平成十九年十二月二十五日文部科学省令第四十号](#) (一部未施行)[学校教育法](#) (昭和二十二年法律第二十六号) [第三条](#) の規定に基づき、小学校設置基準を次のように定める。[第一章 総則\(第一条—第三条\)](#)[第二章 編制\(第四条—第六条\)](#)[第三章 施設及び設備\(第七条—第十二条\)](#)[附則](#)**第一章 総則**

(趣旨)

第一条 小学校は、[学校教育法](#) (昭和二十二年法律第二十六号) その他の法令の規定によるほか、この省令の定めるところにより設置するものとする。

2 この省令で定める設置基準は、小学校を設置するのに必要な最低の基準とする。

3 小学校の設置者は、小学校の編制、施設、設備等がこの省令で定める設置基準より低下した状態にならないようにすることはもとより、これらの水準の向上を図ることに努めなければならない。

第二条 削除**第三条 削除****第二章 編制**

(一学級の児童数)

第四条 一学級の児童数は、法令に特別の定めがある場合を除き、四十人以下とする。ただし、特別の事情があり、かつ、教育上支障がない場合は、この限りでない。

(学級の編制)

第五条 小学校の学級は、同学年の児童で編制するものとする。ただし、特別の事情があるときは、数学年の児童を一学級に編制することができる。

(教諭の数等)

第六条 小学校に置く教諭の数は、一学級当たり一人以上とする。

- 2 教諭等は、特別の事情があり、かつ、教育上支障がない場合は、校長若しくは教頭が兼ね、又は助教諭若しくは講師をもって代えることができる。
- 3 小学校に置く教員等は、教育上必要と認められる場合は、他の学校の教員等と兼ねることができる。

第三章 施設及び設備

(一般的基準)

第七条 小学校の施設及び設備は、指導上、保健衛生上、安全上及び管理上適切なものでなければならない。

(校舎及び運動場の面積等)

第八条 校舎及び運動場の面積は、法令に特別の定めがある場合を除き、別表に定める面積以上とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情があり、かつ、教育上支障がない場合は、この限りでない。

- 2 校舎及び運動場は、同一の敷地内又は隣接する位置に設けるものとする。ただし、地域の実態その他により特別の事情があり、かつ、教育上及び安全上支障がない場合は、その他の適当な位置にこれを設けることができる。

(校舎に備えるべき施設)

第九条 校舎には、少なくとも次に掲げる施設を備えるものとする。

- 一 教室(普通教室、特別教室等とする。)
- 二 図書室、保健室
- 三 職員室

- 2 校舎には、前項に掲げる施設のほか、必要に応じて、特別支援学級のための教室を備えるものとする。

(その他の施設)

第十条 小学校には、校舎及び運動場のほか、体育館を備えるものとする。ただし、地域の実態その他により特別の事情があり、かつ、教育上支障がない場合は、この限りでない。

(校具及び教具)

第十一条 小学校には、学級数及び児童数に応じ、指導上、保健衛生上及び安全上必要な種類及び数の校具及び教具を備えなければならない。

- 2 前項の校具及び教具は、常に改善し、補充しなければならない。

(他の学校等の施設及び設備の使用)

第十二条 小学校は、特別の事情があり、かつ、教育上及び安全上支障がない場合は、他の学校等の施設及び設備を使用することができる。

附 則 抄

(施行期日等)

- 1 この省令は、平成十四年四月一日から施行する。ただし、第二章及び第三章の規定、附則第三項の規定(学校教育法施行規則(昭和二十二年文部省令第十一号)第十六条の改正規定を除く。)並びに別表の規定は、平

成十五年四月一日から施行する。

- 2 第二章及び第三章の規定並びに別表の規定の施行の際現に存する小学校の編制並びに施設及び設備については、当分の間、なお従前の例によることができる。

附 則（平成一九年三月三〇日文科省令第五号） 抄

（施行期日）

第一条 この省令は、学校教育法等の一部を改正する法律（以下「改正法」という。）の施行の日（平成十九年四月一日）から施行する。

附 則（平成一九年一〇月三〇日文科省令第三四号）

この省令は、学校教育法等の一部を改正する法律（平成十九年法律第九十六号）の施行の日から施行する。

附 則（平成一九年一二月二五日文部科学省令第四〇号）

この省令は、学校教育法等の一部を改正する法律の施行の日（平成十九年十二月二十六日）から施行する。ただし、第一条中学校教育法施行規則第一章第二節の節名、第二十条第一号ロ、第二十三条、第四十四条第一項、第二項及び第三項、第四十五条第一項、第二項及び第三項、第七十条第一項、第二項及び第三項、第七十一条第二項及び第三項、第八十一条第一項、第二項及び第三項、第二百二十条、第二百二十二条、第二百二十四条第一項、第二項及び第三項並びに第二百五条第二項の改正規定、第五条中学校基本調査規則第三条第二項の改正規定、第八条中学校教員統計調査規則第三条第二項の改正規定、第九条中教育職員免許法施行規則第六十八条及び第六十九条の改正規定、第十二条中幼稚園設置基準第五条第一項、第二項及び第三項並びに第六条の改正規定、第十七条中高等学校通信教育規程第五条第一項の改正規定、第二十三条中専修学校設置基準第十八条第三号の改正規定、第三十八条中小学校設置基準第六条第一項及び第二項の改正規定、第三十九条中中学校設置基準第六条第一項及び第二項の改正規定並びに第四十七条中高等学校設置基準第八条第一項及び第二項並びに第九条の改正規定（副校長、主幹教諭又は指導教諭に係る部分に限る。）は、平成二十年四月一日から施行する。

別表（第八条関係）

イ 校舎の面積	
児童数	面積(平方メートル)
一人以上四〇人以下	500
四一人以上四八〇人以下	$500 + 5 \times (\text{児童数} - 40)$
四八一人以上	$2700 + 3 \times (\text{児童数} - 480)$
ロ 運動場の面積	
児童数	面積(平方メートル)

一人以上二四〇人以下	2 4 0 0
二四一人以上七二〇人以下	$2 4 0 0 + 1 0 \times (\text{児童数} - 2 4 0)$
七二一人以上	7 2 0 0

APPENDIX

- 調査スケジュール
- 全国廃校活用宿泊施設一覧 2007 年 5 月 16 日現在
- 廃校宿舎における物品・設備総数一覧
- 引用 web ページ

表 調査スケジュール

7月	8月	9月
7月20日 筒川文化センター	8月1日	9月1日 里山交流館
	8月2日	9月2日
	8月3日 杣の里よこみち	9月3日 ふるさと体験村 四季の丘
	8月4日	9月4日
	8月5日	9月5日
	8月6日	9月6日
	8月7日 鈴鹿峠少年自然の家	9月7日
	8月8日 海ぼうず	9月8日
	8月9日	9月9日
	8月10日	9月10日 里山交流館
	8月11日	9月11日
	8月12日 スターフォレスト利賀	9月12日
	8月13日	9月13日
	8月14日	9月14日
	8月15日	9月15日
	8月16日 【小国へ出発】	9月16日
	8月17日 小国ふる里ふれあい村	9月17日
	8月18日 沼沢湖山荘	9月18日
	8月19日 さんさん館	9月19日
	8月20日 希望の丘	9月20日
	8月21日	9月21日
	8月22日	9月22日
	8月23日 【さかもとへ出発】	9月23日
	8月24日 さかもと、しもなの郷	9月24日
	8月25日 四万十学舎	9月25日
	8月26日	9月26日
	8月27日	9月27日 第二回中間発表
	8月28日	9月28日 第二回中間発表
	8月29日	9月29日
	8月30日 いまいち山荘	9月30日
	8月31日 なみの高原やすらぎ交流館	

表 全国廃校活用宿泊施設一覧 2007年5月16日現在

No.	地域	都道府県名	施設名	所在地	運営主体	廃校年	主な客層	構造	総客室数	和室	洋室	その他	価格※1	食事
1	北海道	北海道	冒険家族	虻田郡	個人	1984	団体客	木造	8	6	2		¥4,900	地元産の食材使用
2			ひなた母校	紋別郡	個人	1985	団体客	木造	4	4			¥4,500	川魚料理
3			夢舎	足寄郡	個人	1982	団体客	木造	4	2	2		¥6,800	特徴なし
4			ファミリースクールひまわり	夕張市	法人	1994	個人客	非木造	50	50			¥6,100	特徴なし
5			キララン清里	紋別郡	行政	1989	個人客	木造	8	8			¥1,200	自炊
6			ニセコ高原ユースホテル	虻田郡	個人	1981	団体客・ツーリング客	木造	6	2	4		¥4,500	特徴なし
7			ファミリースクールふれあい	夕張市	行政	1981	個人客	非木造	25	25			¥5,600	特徴なし
8			ふれあいの家 まどか	南竜郡	法人	1986	個人客	非木造	15	13	2		¥6,300	特徴なし
9			音別町体験学習センターこころみ	釧路市	法人	1996	団体客	非木造	12		9		¥4,100	特徴なし
10			中川エコミュージアムセンター	中川郡	法人	1999	団体客	非木造	4		4		¥2,850	特徴なし
11			えんべつふれあいセンター	天塩郡	行政	1993	団体客	木造	4	4			¥700	自炊
12			さんさん館	志津川町	法人	1999	個人客	木造	10	3	7		¥6,090	地元産の食材使用
13	東北	宮城県	石巻市田代島自然教育センター	石巻市	行政	1989	団体客	非木造	8	8			¥710	自炊
14			江島自然活動センター	牡鹿郡	行政	1993	団体客	木造	4	4			¥520	自炊
15			岩手県 希望の丘	八幡平市	法人	2003	個人客	木造	12	6	6		¥6,500	給食メニュー(ランチのみ)
16		青森県	海峡の家 ほろづき	東津軽郡	行政	1986	個人客	非木造	7	4	3		¥3,500	自炊
17			秋田県 大釜温泉	仙北郡	法人	1993	個人客	木造	15	15			¥9,000	特徴なし
18		福島県	森林の分校 ふざわ	南会津郡	法人	1996	団体客	木造	2	2			¥4,500	山菜料理
19			森の校舎 カタクリ	大沼郡	行政	1986	団体客	非木造	7	1	6		¥5,400	郷土料理
20			自然教育村	大沼郡	行政	1995	団体客	木造	4	4			¥4,600	特徴なし
21			沼沢湖山荘	大沼郡	法人	1982	個人客	木造	25	22	3		¥7,900	山菜料理
22			山形県 小国ふる里ふれあい村 樹山荘	小国市	個人	1991	団体客	木造	7	7			¥2,000	自炊
23	関東	群馬県	葉留日野山荘	利根郡	法人	1970	個人客	木造	16	14	1	1	¥8,000	地元産の食材使用
25		栃木県	星ふる学校「くまの木」	塩谷郡	法人	1999	個人客	木造	8	2	6		¥4,000	地元産の食材使用
26		千葉県	自然の宿 くすの木	安房郡	個人	1995	個人客	木造	6	6			¥5,000	地元産の食材使用
27		新潟県	交流の宿八幡	岩船郡	法人	1996	個人客	非木造	12	7	5		¥3,050	自炊
27			かたくりの宿	中魚沼郡	個人	1992	個人客	木造	7	7			¥7,800	郷土料理
28			カルチャーセンター田舎屋	東頸城郡	行政	1992	個人客	木造	8	5	3		¥7,675	地元産の食材使用
29			スカイビバ遊ランド	妙高市	第三セクター	1986	個人客	非木造	10	7	3		¥6,932	地元産の食材使用
30			自然体験村 よってげ邸	南蒲原郡	行政	1993	団体客	木造	2	2			¥1,200	自炊
31		山梨県	光源の里温泉 ヘルシー美里	南巨摩郡	法人	1985	団体客	木造	14	8	6		¥7,000	郷土料理
32			おいしい学校	北巨摩郡	法人	1970	個人客	木造	8	8			¥9,000	給食メニュー
33		富山県	スターフォレスト利賀	南砺市	法人	1996	団体客	非木造	12	12			¥5,000	郷土料理
34		長野県	野田平キャンプ場	下伊那郡	行政	1981	団体客	木造	4	4			¥5,000	自炊
35		石川県	ふるさと体験村 四季の丘	鳳至郡	法人	2001	個人客	非木造	8	2	6		¥2,400	自炊
36		静岡県	やまびこ荘	賀茂郡	行政	1973	個人客	木造	10	10			¥4,725	特徴なし
37	近畿	大阪府	そふら★貝塚ほの宇の里	大阪府貝塚市	法人	1998	個人客	木造	5	5			¥9,660	会席料理
38			風塵の館	久美浜市	第三セクター	1984	個人客	木造	3	3			¥4,000	地元産の食材使用
39		京都府	簡川文化センター	与謝郡	行政	1994	団体客	非木造	7	5		2	¥2,000	自炊
40			里山交流館	綾部市	法人	2000	個人客	木造(旧校舎) 非木造(新校舎)	5	3	2		¥3,000	特徴なし
41		奈良県	奥高野自然の里ビレッジ	吉野郡	行政	1982	団体客	木造	5	5			¥6,500	特徴なし
42			三季館	宇陀郡	行政	1997	個人客	木造	6	4	2		¥5,500	郷土料理
43			トントン工作館	吉野郡	行政	1981	個人客	木造	6	6			¥2,880	特徴なし
44		三重県	美杉ビレッジ	津市	法人	1951以前	団体客	木造	12	12			¥5,400	カニ料理
45			鈴鹿峠自然の家	亀山市	行政	1979	団体客	木造	3	1	2		¥10,000	自炊
46			海ぼうず	度会郡	法人	1982	個人客	非木造	9	9			¥5,775	漁師料理
47		和歌山県	丹生ヤマセミの郷	日高郡	行政	1993	個人客	木造				定員54	¥2,540	自炊
48			小口自然の家	新宮市	法人	1982	個人客	木造	13	13			¥7,000	特徴なし
49	中国	島根県	匹見峠温泉 やすらぎの湯	美濃郡	法人	1987	個人客	非木造	19	6	9	4	¥10,800	地元産の食材使用
50			袖の里よこみち	鹿足郡	法人	1989	団体客	木造	5	2	3		¥5,775※ケビン別	シン鍋
51		岡山県	農村型リゾート 南和気荘	久米郡	法人	1993	団体客	木造	5	4	1		¥3,500	自炊
52			アーツ&クラフツビレッジ	久米郡	法人	1992	個人客・工芸家	木造	4	2	2		¥6,500	特徴なし
53		広島県	杉の治 夢の塾	山県郡	個人	1997	団体客	木造	4	2	2		¥1,500	自炊
54			田原温泉5000年風呂	山県郡	第三セクター	1990	個人客	木造	7	7			¥9,500	特徴なし
55		徳島県	ふれあいの里 さかもと	勝浦郡	個人	1999	個人客	非木造	6	6			¥6,000	地元産の食材使用
56			自然の宿 あさひ	勝浦郡	法人	1987	個人客	木造	5	5			¥6,000	特徴なし
57		愛媛県	ブリーズハウス	西宇和郡	行政	1980	個人客・ツーリング客	木造	4	1	3		¥2,000	自炊
58			ふるさととの宿	喜多郡	第三セクター	1975	個人客	木造	7	7			¥5,500	郷土料理
59			ふるさと憩の家	越智郡	個人	1986	団体客	木造	17	17			¥5,500	海鮮料理
60		四国	しまなみふれあい交流館	今治市	行政	2000	団体客	非木造	8	5	5		¥2,600	自炊
61			山里の家	宿毛市	個人	1999	個人客	木造	3	3			¥5,000	郷土料理
62			四万十舎	四万十市	法人	1998	団体客	非木造	8	6		2	¥6,800	地元産の食材使用
63			米ヶ岡生活体験学校	安芸郡	行政	1996	団体客	木造	2		2		¥3,000	自炊
64			みどりの時計台	長岡郡	個人	2003	個人客	木造	4	1	2	1	¥3,500	自炊
65			白滝の里	土佐郡	法人	1964	団体客	木造	11	11			¥5,565	郷土料理
66			山村自然楽校しもの郷	吾川郡	個人	2001	個人客	非木造	4	4			¥5,500	特徴なし
67			森の巣箱	高岡郡	法人	1993	個人客	木造	3	3			¥4,800	特徴なし
68			自遊学校	幡多郡	個人	1971	団体客	木造	4	3	1		¥6,900	特徴なし
69			いまいち山荘	大分市	行政	1994	団体客	非木造	4	2	2		¥1,370	自炊
70	九州	大分県	せせらぎ郷かみつえ	日田市	法人	1995	個人客	非木造	8	8			¥5,000	川魚料理
71			祖母山龍尾平青少年旅行村	豊後大野市	法人	1969	個人客	木造	9	9			¥7,000	特徴なし
72		長崎県	野崎島ワイルドパーク・自然学習塾	北松浦郡	行政	1985	個人客	木造	5	5			¥1,500	自炊
73		福岡県	宝珠山簡易宿泊施設	朝倉郡	行政	1973	団体客	木造	5	5			¥1,050	自炊
74		熊本県	なみの高原やすらぎ交流館	阿蘇郡	法人	2000	個人客	非木造	6	6			¥5,250	特徴なし
75		宮崎県	尾八里川キャンプ場	西都市	行政	1987	団体客	木造	6	6			¥300	自炊
76			米良の里	児湯郡	法人	1979	個人客・ビジネス	木造	11	11			¥6,300	郷土料理

[illegible]

[illegible]

岸川文化センター	1F談話室	2F図書室	2F音楽室	1F物置	2Fトイレ	1F～3F階段踊り場	3F廊下	3Fトイレ	3F音楽(特)	3F音楽室	3F図書室	3F木工室	3F物置	校庭	体育館	木工室	プール	計
スチールロッカー				3														4
書机				1														1
ハンドボールゴール													1					1
バスケットゴール													1	4				4
二色写真機名画													1					1
図書室の本																		
就機													1					1
手洗い場						1												1
廊下台													1					1
卒業生の作品				2		1												4
卒業記念簿													1					1
卒業記念の鏡				1														2
時間勘定板				1														1
黒板大				1				2										3
黒板小				1														1
黒板消し							2											2
校門													1					1
校庭														1				1
校歌板														1				1
机組																		2
図書表示電灯						1												2
計					8		2	1		4				6	6			37
山の里よこみち							2	1										1
手洗い場																		1
身長測定器																		1
休置机																		1
図書室の本																		
卒業記念写真																		1
卒業生の作品																		1
調理器具(食かん)																		3
木製ロッカー															2			3
スピーカー																		
日本地図																		1
木製引き出し																		1
掲示板																		1
木製窓枠																		
校門													1					1
卒業記念簿													1					1
通てい													1					1
アランコ													1					1
校庭													1	1				2
石のオブジェ													1					1
図書机																		1
プロジェクター																		1
もの入れ																		1
二色写真機																		1
鉛筆削り																		1
スチールロッカー																4		4
図書用椅子																3		3
図書用机													1	2				3
廊引き用機													1					1
廊上用椅子														3				3
図書用机														1	1			2
電動のこぎり														2				2
校歌板														1				1
図鑑年表														1				1
バスケットゴール														1				1
ボール類														多数				1
二色機																		1
計														6	6	10		46
粒鹿村自然の家																		
クワター																		3
地京板																		2
卒業生の作品																		2
フック																		
机組																		2
椅子とり																		1
東京朝ガラス機																		2
放送や、灯																		1
地図機組																		1
スピーカー																		
廊下台													2					2
就機													1					1
校門													1					1
トードル													1					2
プール													2					1
時間勘定板																1		1
黒板小																		3
自問予定表黒板																		1
図書室の本																		
校庭													1					1
スチールロッカー																		5
図書用机																		3
木製窓枠																		2
木製ロッカー																		2
パイプ椅子																		
椅子																		1
ピアノ																		1
木製ベンチ																		2
鏡																		1
計														7		1		45

[illegible]

[illegible]

品名	3F読書室	3F図書室	2F図書	2Fトイレ	2～3F階段踊り場	3F廊下	3Fトイレ	3F客室(前)	3F客室(後)	3F図書室	3F木下室	1F図書	校庭	体育館	木下室	プール	計
洗面台														1			3
洗面用椅子																	1
卓子																	1
卒業生の作品																	12
洗面用便器			多数				多数										2
ピアノ															1		1
黒板大																	8
紙箱																	2
黒板小		1															2
木製ロッカー		2															4
時間割置板																	4
防犯カメラ																	1
教育目録																	1
校旗																	2
連絡用置板																	2
図書室の本	多数											多数					2
スチールロッカー												2					2
展示用ガラス櫃												1					1
バーベル												多数					1
金属製収納																	1
校旗															1		1
時計													1				1
プランコ													2				2
ジャンプゴム													1				1
旗													1				1
卒業記念碑													4				4
同校記念碑													1				1
計	3											4	11	2			59
スターフェリス利用																	
スチールロッカー						1											2
金属製収納																	
卒業用机																	1
ピアノ																	1
1フロアバー																	
同校校章掲出																	
卒業アルバム																	
校旗																	2
写真いし														1			1
数卓																	1
黒板小			1						2								5
バスケットゴール														2			2
卒業生の作品															3		3
計			1			1		2					5				20
入国ふるまふいし冊																	
黒板大																	5
表紙																	1
卒業生の作品																	13
卒業記念誌																	1
学校生表																	1
写真いし																	2
ピアノ																	2
黒板小																	4
木製ロッカー																	3
時間用表																	1
紙箱																	1
ピアノ																	1
体育館																	6
計																	43
さんさん組																	
黒板大																	1
図書室の本																	
エレキーン																	1
洗面用椅子																	13
卒業用机																	17
立牌健康板																	1
バーテーション																	1
防犯カメラ																	1
時計																	2
オルガン																	2
旗																	1
木製収納																	1
写真いし																	1
スチールロッカー																	2
バーベル															1		1
紙箱																	2
バスケットゴール																	1
旗												1					1
滑り台												1					1
プランコ												1					1
旗												1					1
ハンドボールゴール												1					1
バスケット												1					1
同校記念碑												1					1
電話機												1					1
情報教室																	1
計													8				55
交流の輪八幡																	
黒板大																	1
谷沢泰山荘																	
紙箱																	2
プール																1	1
スッチ													多数				1
校門													1				1
スピーカー																	1
防犯の													1				1
名のオブジェ													1				3
写真いし																	2
金属収納																	1
計													5			1	20

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

謝辞

本稿は、滋賀県立大学環境科学部環境計画学科環境社会計画専攻における研究成果を学位論文としてまとめたものである。

本研究を進めるにあたり、悩みながら遠回りする中で、あたたかかく見守ってくださった数多くの先生方、諸先輩方、諸学友にご指導、ご協力、助言などを頂き、厚く御礼申し上げます。

はじめに、研究の初めから終わりまで、的確で厚みのあるご指導を頂きました滋賀県立大学環境科学部環境計画学科環境社会計画専攻の近藤隆二郎准教授に心より感謝いたします。研究を進める中であらゆる場への興味や関心のきっかけを作っていただいたことも、同じく感謝いたします。今後も研究室で学び知ったことを忘れません。本当にありがとうございます。

同じく本論文の査読をしていただきました鵜飼修准教授には、本研究の完成度を高めるために有意義な助言・アドバイスをしていただき、誠にありがとうございました。

また、研究対象とさせて頂きました 17 の廃校宿舍と、それらを含む 76 の廃校宿舍の運営に携わる皆様には、真夏の忙しい時期にもかかわらず、電話による応対や館内および物品・設備の写真撮影、聞き取り調査にご協力を頂いたり、資料を提供して頂いたり、大変お世話になりました。日本各地の廃校宿舍を巡る調査の旅の中で、皆様からいただいた労いの言葉や励ましの言葉が研究の糧となりました。次にお会いする時は是非宿泊をさせていただきたく存じます。今後ともよろしくお願いいたします。

そして、共に同じ研究室で学び支えてくれた倉嶋祐介さん、齋藤 毅さん、田代麻依子さん、迫間勇人さん、久野太一郎さん、溝江麻衣子さん、三輪亮介さんには、研究において行き詰った時や分からない時にいつもやさしく応えて頂きました。皆さんの支えがあったからこそ、ここに研究を締めくくることが出来ます。

同じように研究室の中で、様々なアドバイスや息抜きの時間に付き合ってくださった院生の迫間勇人さん、樋口幸永さんにも深く感謝いたします。

最後に、私にこのような素晴らしい方々とともに研究が出来る機会を与えてくださった両親に感謝いたします。

2008 年 2 月 21 日

江口 伸之